

ISSN 1348-902X

自治医科大学看護学部年報 (第17号)

Annual Report Jichi Medical University School of Nursing

自治医科大学大学院看護学研究科年報 (第13号)

Annual Report Jichi Medical University Graduate School of Nursing



2018

目 次

○ 看護学部委員会等報告

1. 人事委員会	春山 早苗 ……………	5
2. 教務委員会	横山 由美 ……………	6
3. 学生委員会	大塚公一郎 ……………	8
4. FD評価実施委員会	本田 芳香 ……………	10
5. 研究推進委員会	小原 泉 ……………	11
6. 広報委員会	塚本 友栄 ……………	12
7. 編集委員会	村上 礼子 ……………	14
8. 国家試験対策委員会	野々山未希子 ……	15
9. 臨地実習指導研修委員会	半澤 節子 ……………	17
10. 入試実施委員会	永井 優子 ……………	18

○ 大学院看護学研究科委員会等報告

1. 研究科委員会	春山 早苗 ……………	21
2. 研究科委員会幹事会	成田 伸 ……………	23

○ 教育研究分野別報告

1. 看護基礎科学	大塚公一郎 ……………	27
2. 基礎看護学	本田 芳香 ……………	30
3. 地域看護学	春山 早苗 ……………	33
4. 精神看護学	永井 優子 ……………	38
5. 母性看護学	成田 伸 ……………	40
6. 小児看護学	横山 由美 ……………	44
7. 成人看護学	佐藤 幹代 ……………	46
8. 老年看護学	浜端 賢次 ……………	49

○ 大学院看護学研究科 教育の概要

博士前期課程

実践看護学分野

1. 小児看護学領域	横山 由美 ……………	53
2. 母性看護学領域	成田 伸 ……………	54
3. クリティカルケア看護学領域	佐藤 幹代 ……………	55
4. 精神看護学領域	半澤 節子 ……………	56
5. がん看護学領域	本田 芳香 ……………	57

地域看護管理学分野

6. 老年看護管理学領域	浜端 賢次	……………	59
7. 地域看護管理学領域	春山 早苗	……………	60
8. 看護技術開発学領域	村上 礼子	……………	61
共通科目	成田 伸	……………	63
博士後期課程			
1. 広域実践看護学分野	春山 早苗	……………	65

○ 研究業績録

1. 看護基礎科学	……………	69
2. 基礎看護学	……………	71
3. 地域看護学	……………	72
4. 精神看護学	……………	76
5. 母性看護学	……………	77
6. 小児看護学	……………	78
7. 成人看護学	……………	79
8. 老年看護学	……………	81
9. 看護技術開発学	……………	82

○ 資料

1. 2018年度（平成30年度）看護学部学年暦	……………	85
2. 自治医科大学看護学部の概況	……………	86
3. 看護学部教職員名簿	……………	87
4. 2018年度（平成30年度）大学院看護学研究科学年暦	……………	88
5. 大学院看護学研究科の概況	……………	88
6. 大学院看護学研究科教職員名簿	……………	89
7. 編集後記	……………	90

看護学部委員会等報告

人事委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

- (1)自治医科大学看護学部教員の選考に関する事項
- (2)非常勤講師の選考に関する事項
- (3)その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に規定する者（4名以上7名以内）

表1 構成員と役割

氏名	役割
春山学部長	委員長
横山教務委員長	委員
大塚学生委員長	委員
本田FD評価実施委員長	委員
被選考教員の領域の教授	委員
学部長が必要と認めた者（2名以内）	委員

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」第2条の規定により、表2のとおり人事委員会を開催した。

表2 2018年度の審議事項・その他

回	開催日	審議事項・その他
1	4月24日(火)	・看護学部臨地教授等の称号付与について（資格審査）
2	5月22日(火)	・平成30年度非常勤講師の任用について ・教員選考作業部会（母性看護学）の設置について
3	6月26日(火)	・教員選考作業部会（老年看護学）の設置について
4	7月24日(火)	・母性看護学教員（助教）の候補者選考について ・平成30年度非常勤講師の任用について
5	9月25日(火)	・老年看護学教員（教授）候補者選考について
6	10月23日(火)	・教員の配置換えについて ・教員選考作業部会（成人看護学、母性看護学、小児看護学、基礎看護学）の設置について
7	12月19日(水)	・教員選考作業部会（学内昇任）の設置について

8	1月22日(火)	・基礎看護学教員（助教）候補者選考について ・成人看護学教員（助教）候補者選考について ・小児看護学教員（助教）候補者選考について ・学内教員の昇任選考について ・平成31年（2019）年度非常勤講師の任用について
9	2月26日(火)	・平成31年（2019）年度臨地教授等の付与について（資格審査） ・平成31年（2019）年度非常勤講師の任用について

教務委員会

委員長 横山 由美

1. 所管事項

- 1) 授業及び試験に関する事項
- 2) 単位及び課程の修了に関する事項
- 3) 学生の入学, 退学, 休学および卒業等に関する事項
- 4) 学生の修学指導に関する事項
- 5) 授業関係の予算に関する事項
- 6) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会は10名の委員と2名のオブザーバー, 5名の事務局で構成され, その構成員と役割を表1に, また, 教務委員会の下部組織の構成員を表2に示した。

表1 構成員と役割

氏名	役割
横山 由美 教授	委員長, 授業関係予算担当(主)
永井 優子 教授	副委員長, カリキュラム運用担当(主)
大塚 公一郎 教授	既修得単位認定担当(主), 時間割担当
小原 泉 教授	実習教育調整担当
塚本 友栄 教授	時間割担当(主)
成田 伸 教授	実習教育調整担当(主), 助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当(主)
野々山未希子 教授	カリキュラム運用担当
半澤 節子 教授	夏季へき地研修担当(主)
本田 芳香 教授	共通物品管理担当(主)
村上 礼子 教授	既修得単位認定担当
佐藤 幹代 准教授 (オブザーバー)	実習教育調整担当
浜端 賢次 准教授 (オブザーバー)	実習教育調整担当
安島 幸子 課長	事務局
湯浅 芳恵 参事	事務局
松本 恵美子 係長	事務局
渡辺 慎吾 主事	事務局
野口 大輔 主事	事務局

表2 下部組織

担当者氏名	担当
平尾 温司 准教授	時間割担当
田村 敦子 准教授	夏季へき地研修担当
青木さざり 講師	
古島 幸江 講師	
佐藤 貴紀 助教	
横山 絢香 助教	
渡邊 賢治 助教	
清水みどり 講師	共通物品管理担当
北守 美佳 助教	
佐藤 貴紀 助教	
高山 温子 助教	
手塚 園江 助教	
横山 絢香 助教	
渡邊 賢治 助教	
川上 勝 准教授	カリキュラム運用担当
里光やよい 准教授	
長谷川直人 准教授	
鹿野 浩子 講師	
島田 裕子 講師	
関山 友子 講師	WEB履修オリエンテーションWG
石井慎一郎 講師	
江角 伸吾 講師	
八木 街子 講師	
鈴木美津枝 助教	

3. 活動内容

本年度は, 11回の委員会を開催した。

表3 審議事項

回	開催日	審議事項
1	2018年 4月12日	1. 教務委員会年間計画 (案) 2. 教務委員会下部組織の年間計画 (案) 3. その他 手指消毒の保管場所
2	5月10日	1. 平成30年度前学期履修状況 2. 教務委員会下部組織の年間計画 (案)
3	6月14日	1. 平成31年度および平成32年度以降の教育用機器備品購入計画 (案) 2. 教務委員会下部組織の年間計画 (案) 3. 平成33年度助産師国家試験受験資格関連科目受講生の選考審査 (案)
4	7月12日	1. 平成31年度授業関係予算案・教室整備予算 (案) 2. 平成31年度年間実習科目配置 (案) 3. 教務委員会下部組織の年間計画 (案) 4. 平成33年度助産師国家試験受験資格関連科目受講生の選考審査 (案)
5	9月13日	1. 学生の復学・休学延長 2. 平成31年度学年暦 (案) 3. 平成31年度授業関係予算 (案) 4. 平成32年度以降の教育用機器備品更新計画 (案)

6	10月11日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合実習の評価 2. 「看護基礎セミナー」「文献講読セミナー」の評価と平成31年度計画 3. 平成31年度モデル時間（案）
7	11月8日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成31年度時間割修正（案） 2. 「看護基礎セミナー」シラバス修正（案）
8	12月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成31年度オリエンテーション計画（案） 2. 平成31年度実習教育説明会の企画（案） 3. シラバスチェック要項 4. 「看護基礎セミナー」「文献講読セミナー」シラバス修正（案）、評価ループリック（案）
9	2019年 1月10日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度看護総合セミナーの評価 2. 平成31年度実習教育説明会の企画（案） 3. 助産選考マニュアル 4. 「看護基礎セミナー」「文献講読セミナー」評価ループリック（案） 5. 「研究セミナー」シラバス
10	2月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「看護総合セミナー・総合実習」実習要項 2. 4年次後学期単位取得と卒業認定 3. 平成30年度「研究セミナー」「看護トピックス」の評価 4. 「文献講読セミナー」評価ループリック（案） 5. 「へき地の生活と看護」資料の配架
11	3月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の休学・退学・復学 2. 学生の単位取得状況（卒業認定者を除く） 3. 助産師国家試験資格関連科目受講生の決定 4. 「文献講読セミナー」コースオリエンテーション

学生委員会

委員長 大塚 公一郎

1. 所管事項

- (1)学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- (2)学生の健康管理及び学生相談に関する事項
- (3)学生のキャリア支援に関する事項
- (4)学長賞等の選考に関する事項
- (5)看護学部学生寮の管理運営に関する事項
- (6)奨学生の採用及び貸与に関する事項
- (7)その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

学生委員会の機能を果たすために、奨学生選考担当、キャリア支援担当、学友会幹事がおかれた。役割担当（委員会外教員も含む）は、表1の通りである。

表1 構成員と役割

氏名	役割
大塚公一郎 教授	委員長
本田芳香 教授	副委員長 奨学生選考担当
里光やよい 准教授	キャリア支援担当
川上 勝 准教授	奨学生選考担当
田村敦子 准教授	キャリア支援担当
中野真理子 講師	キャリア支援担当
江角慎吾 講師	キャリア支援担当
鹿野浩子 講師	学友会幹事

表2 下部組織

氏名	役割
北守美佳 助教	キャリア支援担当
富川明子 助教	キャリア支援担当

3. 活動内容

学生委員会は、「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援すること」を第一の目的とする委員会である。

上記目標に即して、平成30年度も、学生委員会は、学業（課外活動も含む）の奨励・支援、学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援、学生の健康問題解決への支援、学生への経済的支援、学生への進路指導であるキャリア支援を行った。

学部の学生は学生自治会を、また寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し、自主的に運営している。この二つの自治会の運営の支援も本委員会が

担当した。これらの活動は、本学部の看護学務課、看護総務課との緊密な相談・連携のもと行われた。

学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援は、各学生委員の学生との直接相談、学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談、カウンセリングルーム活用の奨励などを通して行った。

学生の健康問題解決への支援は、学生健康管理チームが中心となって行い、また大学保健室の行う検診への受診の奨励、個々の学生の健康相談などを行った。

学生への経済的支援は、主に奨学金の選考・推薦を通して行われた。自治医科大学看護学部奨学金、日本学生支援機構奨学金の選考・推薦を行った。さらに、多額の貸与を受けている学生には、返還計画についての助言を行った。

学生の将来の進路決定の支援は、キャリア支援担当が中心となって行った。30年6月4日に行われた附属病院による就職説明会とは別に、31年2月18日には3年生対象に、看護部、看護学部同窓会の協力を得て進路支援ガイダンスの目的として「将来のキャリアを考える会」を実施した。

学生自治会、寮自治会の運営の支援は、学生委員会委員と両自治会役員との懇談を通して行われた。寮生活そのものの支援として、入寮案内、寮生活オリエンテーション、防災訓練、寮規則違反者などへの指導などが行われた。

部活動、クラブ活動、サークル活動などの課外活動を、学友会（本学部では、学生委員会が所掌）を通して奨励した。薬師祭（学園祭）の開催を支援した。

学業（課外活動も含む）の奨励・支援の一環として、看護学部校舎における防災訓練を行った。

4学年卒業予定者のなかより、学長賞候補者を選考し3名推薦した。

学生委員会は、8月を除いて毎月定例開催され、さらに、一回の臨時学生委員会があり合計12回開催された。

表3 平成30年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2018年4月6日	(1)年間予定 (2)役割分担
2	2018年5月10日	(1)女子学生寮防災訓練 (2)奨学金採用状況 (3)学生役割分担 (4)キャリア支援関係
3	2018年6月7日	(1)女子学生寮防災訓練 (2)各種奨学金貸与・給付 (3)大学評価に係る調査
4	2018年7月5日	(1)学部校舎防災訓練 (2)学生寮防災訓練報告 (3)キャリア支援関係 (4)大学評価に係る調査
5	2018年9月6日	(1)学部校舎防災訓練 (2)奨学金変換計画の対応 (3)キャリア支援関係 (4)大学評価に係る調査
6	2018年10月11日	(1)キャリアガイダンス (2)進路決定届提出状況
7	2018年11月1日	(1)学部校舎防災訓練報告 (2)4学年進路決定 (3)キャリアガイダンス
8	2018年12月6日	(1)学長賞選考委員検討 (2)キャリアガイダンス (3)奨学金貸与月額10万円以上学生の 面接結果報告 (4)次年度行事日程調整 (5)学生の院内・構内・近隣での立ち 振る舞い
9	2019年1月10日	(1)卒業式送辞担当学生選定 (2)「将来のキャリアを考える会」計 画 (3)学部および学生支援機構奨学金説 明会報告 (4)次年度学部校舎防災訓練日程 (5)学生の時間外帰寮
10	2019年2月7日	(1)学長賞選考 (2)卒業式総代など担当学生について (3)日本私立看護系大学協会会長賞推 薦について (4)将来のキャリアを考える会プログ ラム
11	2019年2月27日	後学期再試験における不正行為
12	2019年3月1日	(1)看護学部駐車場許可 (2)平成31年度キャリア支援プログラ ム実施計画案およびキャリアを考 える会報告 (3)大学評価に係る調査

FD評価実施委員会

委員長 本田 芳香

1. 所轄事項

本委員会の所管事項は、以下の6点である。

1. 授業内容及び方法の評価に関する事項
2. 教員の資質開発に関する事項
3. 教員研修会の企画・実施に関する事項
4. 教育内容等の改善のための組織的取り組みに関する事項
5. 編集に関する事項
6. その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表1に示すとおりである。

表1. 構成員と役割

氏名	役割
本田芳香教授	委員長 FD研究会担当, FD報告書担当
成田 伸教授	副委員長 FD研究会担当, 授業評価実施マニュアル担当
長谷川直人准教授	FD研究会担当, 授業評価実施マニュアル担当
清水みどり講師	授業評価実施マニュアル担当, FD研究会担当
島田裕子講師	FD評価票担当, FD研究会担当
関山友子講師	FD報告書担当, FD評価票担当, FD研究会担当

3. 活動内容

本委員会は、今年度は表2に示すとおり10回の委員会を開催した。平成30年度FD研究会（2回）、助教を対象としたFDワークショップ、FD授業評価マニュアル見直し、FD報告書作成について検討をおこなった。

表2. 委員会開催

回	開催日	審議事項
1	2018年4月19日	年間運営方針, 年間計画, 役割分担
2	2018年5月10日	第1回FD研究会, 助教を対象とするFDワークショップ, 授業評価マニュアル
3	2018年6月21日	第1回FD研究会, FD評価票, 授業評価マニュアル
4	2018年7月19日	第1回FD研究会, 授業評価マニュアル, 助教を対象とするFDワークショップ
5	2018年9月13日	第1回FD研究会
6	2018年10月18日	第2回FD研究会, 授業評価マニュアル
7	2018年11月15日	第2回FD研究会, 学生による授業評価と科目責任者による総合評価
8	2019年1月17日	第2回FD研究会, 平成30年度FD研究会報告書
9	2019年2月7日	第2回FD研究会, FD授業評価マニュアル
10	2019年3月14日	平成30年度各担当WG評価, 授業評価実施マニュアル, 第2回FD研究会評価, 平成30年度FD研究会報告書

4. 活動評価

- 1) FD研究会は、2回開催した。本学看護学部の理念とディプロマ・ポリシーを保証するための一貫した実習指導体制を再構築するを共通テーマに取り上げた。1回目は、「看護系大学学士課程の臨地実習の基準」を参考に、学科目ごとの実習運営の評価と課題を検討した。2回目は総合実習・看護総合セミナーによる学生の学びの状況と課題の共有化を図るため、教育事例を通して評価と課題を検討した。
- 2) 助教を対象としたFDワークショップでは、教育力・研究力・組織マネジメント・社会貢献のFDマップ活用上の課題に関する活発な意見交換がなされた。
- 3) 授業評価マニュアルに関する事項では、「学生による授業科目の評価票」について、評価票の回答率向上を目的にMoodleにて運用することが了承された。次年度その評価を行っていく予定である。FD研究会報告書は年度内刊行を行った。

研究推進委員会

委員長 小原 泉

1. 所轄事項

本委員会の所管事項は、①看護職等との共同研究費に関する事項、②研究活動評価に関する事項、③研究活動の充実・活性化に関する事項、である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。

表1 構成員と役割

氏名	役割
小原 泉 教授	委員長，教育・研究関連施設からの研究支援依頼担当者の補助，研究補助者（間接経費雇用）の業務管理の補助
成田 伸 教授	副委員長，教員の研究の情報公開（オプアウト），間接経費応募とりまとめ，看護学部共同研究費担当者の補助
長谷川直人 准教授	看護学部共同研究費担当
平尾 温司 准教授	競争的研究費獲得支援担当，間接経費応募とりまとめ
石井慎一郎 講師	研究補助者（間接経費雇用）の業務管理，競争的研究費獲得支援担当
鳥田 裕子 講師	教育・研究関連施設からの研究支援依頼担当，看護学部共同研究費担当者の補助

3. 活動内容

本年度の委員会開催と審議事項を表2に示す。

看護学部共同研究費は最終的に計7件に配当した。教育・研究関連施設への研究支援は、芳賀赤十字病院新規研究8件、さいたま医療センター新規研究3件に対して、支援を行った。競争的研究費獲得支援としては、9月13日に看護学部教員研究ミーティングを開催し、25名（約55%）が参加した。看護学部/望月明見講師、青木さぎ里講師より研究活動の紹介があり好評であった。文部科研費申請件数は6件（前年度比-6件）であった。研究補助者は、延べ17名の研究者の依頼に応じて研究補助業務を行い、研究の推進を支援した。看護学部教員が実施している研究のうち、倫理指針上、研究情報の公開を要するものについて、看護学部ホームページに公開する仕組みを整えた。

表2 2018年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2018年 4月12日	1. H30年度委員会の開催日程・役割分担 2. H29年度看護学部共同研究費報告書 3. H30年度看護学部共同研究費の申請 4. H30年度科学研究費助成事業の交付状況 5. 教員のオプアウトの仕組み 6. H30年度競争的資金（間接経費）雇用の研究補助者の業務
2	5月10日	1. 教育・研究関連施設からの研究支援依頼 2. H30年度看護学部共同研究費修正 3. H30年度看護学部共同研究費再募集 4. 競争的研究費獲得支援
3	6月14日	1. 教育・研究関連施設からの研究支援依頼 2. H30年度共同研究費 3. 競争的研究費獲得支援
4	7月12日	1. 競争的研究費獲得支援 2. その他（共同研究費（委員会所管分）申請書修正・承認等）
5	10月11日	1. 競争的研究費格闘支援の評価 2. 共同研究費について 3. その他（H30年度科研費助成事業の交付状況等）
6	12月13日	1. H30年度間接経費（大学分・追加）への応募 2. H31年度看護学部共同研究費 3. H30年度看護学部共同研究費 4. H30年度科研費助成事情の交付状況（追加内定分）
7	3月14日	1. H30・31年度看護学部共同研究費 2. 教育・研究関連施設からの研究支援依頼 3. その他（間接経費（人件費）の要望書提出等）

広報委員会

委員長 塚本 友栄

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、①広報誌、パンフレットの作成・発行に関する事項、②ホームページの管理に関する事項、③オープンキャンパスの実施に関する事項、④その他進学説明会・進路相談会、出張講義、体験学習（南河内第二中学校）、進路指導担当教諭のための看護学部進学説明会、学部DVD作成等、学部長が必要と認めた事項への対応である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員は6名であり、表1に示すような役割分担を行った。なお、オープンキャンパスは委員全員で役割を分担し、取り組んだ（表2）。

表1. 構成員と役割

氏名	役割
塚本 友栄 教授	委員長
村上 礼子 教授	副委員長
川上 勝 准教授	HP担当 オープンキャンパス来場者アンケート
平尾 温司 准教授	広報誌担当 社会人を対象とした広報活動の検討
福田 順子 講師	パンフレット担当
望月 明見 講師	広報誌担当 パンフレット担当 新入生対象アンケート

表2. 下部組織（オープンキャンパスの役割分担）

担当者氏名	役割
塚本 友栄 教授	統括 学部説明会 看護職NOW
村上 礼子 教授	副統括 ラボ見学
川上 勝 准教授	模擬授業 学生広場
平尾 温司 准教授	バス乗車誘導
福田 順子 講師	総合案内
望月 明見 講師	学生寮見学

3. 活動内容

広報誌「ビタミンN」には、学生や保護者のニーズに合った情報を提供できるよう、写真を多く掲載した。また、正確な記事を掲載できるよう原稿作成フローチャートを作成した。パンフレット「Campus Guide 2020」は、受験生や保護者、高校の進学担当教諭に本学の魅力が伝わるようページ立てを見直した。

ホームページについては、情報の更新確認、改善に向けた課題抽出等を行った。また、年度当初アップした学部紹介DVDは、広報活動に活用し、年間Page View数は前年度の2倍に達した。

オープンキャンパスについては、委員全員とその他教職員、学生ボランティアの協力によって、5月19日（土）、7月28日（土）、8月24日（金）の日程で開催した。各々127名、699名、442名、計1,268名の来校者を得た。7月は台風接近にともない、時間を短縮して開催した。運営面では、新たにマニュアルを作成し、学生ボランティアの意見を積極的に活用、運営の整理・見直しを図った。ツアーによる学内ラボルーム見学は自由化し、来場者のニーズに応じた見学ができるようにした。

進学相談会・進路説明会・出張講義への対応については、学部教員、看護学務課の協力により、概ね例年通り実施することができた。

体験学習については、南河内第二中学校1年生116名を迎え、看護学部4年生全員の協力を得て、5月30日（水）と31日（木）の2日間の日程で行った。担当可能な学科目から教員を選出、持ち回り制で当日運営サポートが得られる体制とした。

進路指導担当教諭のための看護学部進学説明会は、5月オープンキャンパス午前中に開催、推薦指定校を含む25校の教諭26名の参加を得た。

平成30年度から、在校生の協力を得て、直筆メッセージや写真を掲載したA4ポスターを作成、広報活動を強化すべき約30校を選定の上、送付した。

表3. 平成30年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月12日	①今年度の広報委員会の活動内容と役割分担 ②第1回オープンキャンパス ③進路指導担当教諭への進学説明会 ④下野市立南河内第二中学校体験学習 ⑤Campus Guide 2019の評価 ⑥Campus Guide制作業者の選定
2	5月10日	①下野市立南河内第二中学校体験学習の最終確認 ②第1回オープンキャンパスの最終確認 ③オープンキャンパス来場者アンケート ④Campus Guide 2020作成について
3	6月14日	①第1回オープンキャンパス実施結果と評価 ②第2回、および第3回オープンキャンパスの実施計画確認・調整 ③オープンキャンパス来場者アンケート ④学部ホームページ改善に向けて
4	7月12日	①看護学部Facebookについて ②第2回、および第3回オープンキャンパスの最終確認
臨時	7月26日	①ビタミンN15号における誤記、不適切表現への対応と今後の対策 ②台風接近下での第2回オープンキャンパス開催について
5	9月13日	①今年度のオープンキャンパス実施結果と評価 ②次年度のオープンキャンパス日程 ③ビタミンN 15号の評価 ④Campus Guide 2020作成について ⑤出身高校へのメッセージ・写真付A4ポスター作成、送付について
6	11月8日	①ビタミンN 16号の企画・編集方針 ②ビタミンN原稿作成フローチャート ③Campus Guide 2020の構成 ④次年度オープンキャンパス日程
7	1月10日	①Campus Guide 2020の構成 ②次年度のオープンキャンパス開催時間 ③次年度新入生対象アンケート（案） ④オープンキャンパス来場者アンケート結果の検討 ⑤ビタミンN原稿作成フローチャート ⑥出身高校へのメッセージ・写真付A4ポスターの構成と次年度の継続について
8	2月14日	①今年度の広報活動の評価 ②次年度のオープンキャンパス企画概要（HP掲載案） ③次年度のオープンキャンパスボランティア募集 ④次年度の進路指導担当教諭のための進学説明会 ⑤次年度の南河内第二中学校体験学習 ⑥出身校送付A4ポスターへのコメント内容

編集委員会

委員長 村上 礼子

1. 所轄事項

本委員会の所管事項は、自治医科大学看護学ジャーナルおよび自治医科大学看護学部年報、自治医科大学大学院看護学研究科年報の刊行に関する事項、その他学部長が必要と認めた事項である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表1に示す通りである。

表1. 構成員と役割

役割	氏名
委員長	村上礼子教授
副委員長	野々山未希子教授
年報の編集 ・刊行担当	野々山未希子教授 八木街子講師
看護学ジャーナル担当	村上礼子教授 里光やよい准教授 鹿野浩子講師

3. 活動内容

本委員会は、今年度は表2に示す通り3回の委員会を開催し、看護学ジャーナル投稿規定の検討、投稿論文チェックリストの確認、看護学ジャーナル論文審査規定の検討、平成30年度年報の編集内容などについて検討をおこなった。

表2. 委員会開催

回	開催日	審議事項
1	2018年 4月9日	年間方針、年間計画、役割分担 投稿規定、看護学ジャーナル論文審査規定 の検討、年報の規定、編集内容の検討
2	10月4日	看護学ジャーナル第16巻投稿論文の査読者 及び編集委員の決定
3	2019年 2月15日	看護学ジャーナル第16巻掲載論文の採否と 原稿種類の決定 年報（第16号）・大学院看護学研究科年報 （第12号）の進捗確認

自治医科大学看護学部年報（第16号）は、自治医科大学大学院看護学研究科年報（第12号）とあわせて発行した。

自治医科大学看護学ジャーナル（第16巻）は、論文2編にて刊行した。投稿論文は計4編あり、1編につき1名の担当編集委員を選定、2名の査読者が論文内容の査読にあたった。

また、今年度は掲載論文の質を担保するため、

かつ投稿論文の採否結果の妥当性を確認するため、1編の論文は審査規程に則り、第3者による再査読を行ったうえで、論文の採否を決定した。

なお、自治医科大学看護学部年報（第16号）および自治医科大学大学院看護学研究科年報（第12号）は、国立国会図書館をはじめ、政府関係機関、学外の実習関連施設、全国の看護系大学、栃木県関係、県内の看護系学校、総合病院などへ送付した。

国家試験対策委員会

委員長 野々山 未希子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、保健師・助産師・看護師国家試験を受験する本学部の在学学生や卒業生が国家試験に合格するように、学習環境を整え、学習相談などの支援を行うことである。

2. 委員会の構成

表1 構成員と役割

氏名	役割
野々山 未希子 教授	委員長
浜 端 賢 次 准教授	副委員長
倉 科 智 行 准教授	委員
福 田 順 子 講師	委員
藤 卷 郁 朗 講師	委員
青 木 さぎ里 講師	委員

表2 下部組織（ワーキンググループ）

氏名	役割
石 井 慎一郎 講師	ワーキング委員
関 山 友 子 講師	ワーキング委員
望 月 明 見 講師	ワーキング委員
小 西 克 恵 助教	ワーキング委員
石 井 容 子 助教	ワーキング委員

3. 活動内容

本年度は、計11回の委員会を開催した（表3）。委員会活動としては、国家試験受験に向けてのガイダンスを4年生に2回、3年生に1回、2年生に1回実施した。次に、国家試験対策のための模擬試験を4年生は保健師3回、助産師3回、看護師4回実施した。3年生及び2年生には各1回、低学年用看護師模試を実施した。これらの模擬試験の成績を踏まえて、主に4年生に学生の個別面接・指導およびグループ指導を実施した。学生指導は、学生を5グループに分け、それぞれのグループを委員1名とワーキンググループの構成員1名がペアを組んで担当し、学習方法や学習上の悩みなどの学習相談を行った。また、国家試験出題科目を担当する各領域で、2018年11月から12月にかけて国家試験対策ゼミを開講した。

学習環境の整備としては、学生サロンに設けられた国家試験対策コーナーに受験参考書や問題集、業者が実施する国家試験対策模擬試験・国家試験対策講義（講習）のパンフレットを置き、学生が自由に閲覧できるようにした。

2018年度の新卒学生の国家試験の結果は表4に示すとおりである。本学の看護師・助産師国家試験の合格率は全国平均を上回っており、今後も引き続き国家試験対策に力を注いでいく必要がある。

表3 2017年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2018年 4月12日	(1)年間スケジュール (2)看護師・保健師国家試験回答の集計 (3)4年生国家試験ガイダンスの報告 (4)模擬試験日程および担当者の確認・決定 (5)国家試験対策ゼミ担当者の決定 (6)低学年対象専門基礎科目実力確認テストの結果 (7)担当学生の個別面接の実施計画 (8)国家試験対策模擬試験マニュアル (9)国家試験不合格卒業生への対応
2	2018年 5月10日	(1)年間スケジュールの確認・委員会開催日修正 (2)看護師・保健師・低学年模擬試験日程および担当者の決定 (3)助産師模擬試験日程 (4)保健師国家試験回答集計 (5)国家試験対策模擬試験マニュアルの確定 (6)4年生国家試験出題基準・出題傾向説明会+保健師国試対策ガイダンス (7)担当学生の個別面接の経過の報告
3	2018年 6月7日	(1)第1回看護師模擬試験の受験状況の報告 (2)4年生国家試験出題基準・出題傾向説明会+保健師国試対策ガイダンスの報告 (3)保健師国家試験回答集計に関する地域看護学の意向確認 (4)担当学生の近況報告
4	2018年 7月5日	(1)第1回看護師模擬試験の結果報告 (2)今後の国試関連ガイダンス等の日程 (3)国家試験出願手続説明会プログラム (4)担当学生の近況報告
5	2018年 9月6日	(1)第1回保健師国家試験模試・第1回助産師国家試験模試の受験状況・結果の報告 (2)国家試験の施行日程 (3)後期模擬試験日程・担当者等の再確認 (4)保健師助産師看護師国家試験における試験問題の公募 (5)担当学生の近況報告
6	2018年 10月4日	(1)看護師国家試験必修模試の受験状況および、結果の報告 (2)2年生国家試験ガイダンス (3)3年生国家試験ガイダンス (4)国家試験対策ゼミ日程調整状況 (5)国家試験受験説明会準備のための国試対策委員学生説明会 (6)看護師国家試験業者採点申し込み (7)担当学生の近況報告

7	2018年 11月1日	(1)第2回看護師国家試験模擬試験・第2回保健師国家試験模擬試験の受験結果および、第2回助産師国家試験模擬試験の受験状況の報告 (2)2年生国家試験ガイダンス報告 (3)国家試験対策ゼミ日程および、次年度の日程調整 (4)国家試験プール問題の提出状況 (5)担当学生の近況報告
8	2018年 12月6日	(1)第2回助産師国家試験模擬試験の受験結果および、第2回保健師国家試験模擬試験の受験結果の報告 (2)3年生国家試験ガイダンス報告 (3)国家試験出願手続き説明会報告 (4)国家試験受験説明会スケジュール (5)国家試験対策ゼミ実施状況および参加学生人数 (6)担当学生の近況報告
9	2019年 1月10日	(1)第3回看護師模擬試験、第3回保健師模擬試験及び第3回助産師模擬試験の受験状況の報告 (2)国家試験受験説明会のスケジュール変更 (3)次年度4年生配布「国家試験対策のための書籍」 (4)次年度看護師・保健師模擬試験業者 (5)国家試験対策ゼミ実施状況および参加学生人数 (6)担当学生の近況報告
10	2019年 2月7日	(1)第3回看護師模擬試験、第3回保健師模擬試験及び第3回助産師模擬試験の受験結果の報告 (2)国家試験受験説明会の報告 (3)低学年模試（2年生・3年生）日程および担当者確認 (4)看護師・保健師国家試験回答集計作業担当者および、3種国家試験問題コピー担当者の決定 (5)次年度4年生配布「国家試験対策のための書籍」 (6)担当学生の近況報告
11	2019年 3月22日	(1)国家試験結果 (2)低学年模試（2年生・3年生）受験状況および結果の報告 (3)看護師・保健師国家試験回答集計作業状況および、次年度対策・改善点の検討 (4)次年度4年生ガイダンス (5)国家試験対策ゼミ低学年版（3年生）の検討 (6)次年度国家試験対策委員会に向けての改善点の検討

表4 2017年度新卒学生の保健師助産師看護師国家試験の結果

区分	資格	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率(全国) (%)
本学	看護師	104	102	98.1 (94.7)
	保健師	104	89	85.6 (88.1)
	助産師	7	7	100.0 (99.9)

臨地実習指導研修委員会

委員長 半澤 節子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、臨地実習指導研修会を行うこと、また、本年度から新たに臨地教員対象の研修会を行うことである。

2. 委員会の構成

表1. 構成員と役割

氏名	役割
半澤 節子 教授	委員長
塚本 友栄 教授	副委員長
佐藤 幹代 准教授	
角川 志穂 准教授	
石井 慎一郎 講師	
中野 真理子 講師	
看護学務課 湯浅参事, 中村嘱託職員	事務局

表2. 平成30年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月20日	1. 年間計画の検討 2. 臨地実習指導研修会のプログラム及び役割分担
2	5月24日	1. 臨地実習指導研修会のマニュアルの確認 2. 臨地教員対象の研修会の目的、目標の検討
3	7月26日	臨地実習指導研修会の演習、アンケートの検討
4	9月27日	1. 臨地実習指導研修会のアンケート集計結果報告 2. 臨地教員対象の研修会の内容の確認
5	10月23日	臨地教員対象の研修会の内容の修正
6	1月18日	臨地教員対象の研修会の講義内容の確認、アンケートなど
7	2月19日	臨地教員対象の研修会の進行の確認、会場準備など
8	3月13日	1. 臨地教員対象の研修会のアンケート集計結果報告 2. 年度の活動評価と次年度の検討

3. 活動内容

(1)臨地実習指導研修会

臨地実習指導研修会は、本学部の教育理念を踏まえ、臨地実習の場において教員と臨地実習指導者が相互理解を深め、協力して指導を提供できることを目的に実施している。平成18年度から開始しており、本年度は13回目であった。9月4日（火曜日）および5日（水曜日）の2日間開催された。

受講者は昨年度より10人多い54人、受講者のうち附属病院の看護師は43人（79.6%）であった。アンケートの結果から、臨地実習指導の経験「なし」が26人（48%）で、参加動機（複数回答）は「上司からの勧め」が9割を超え、「看護実践の場における教育支援方法の実際を学ぶことができた」34人（63.0%）、「臨地実習指導者の役割について自分の考えを深める機会になった」32人（59.3%）などの意見が多かった。

(2)臨地教員対象の研修会

臨地教員対象の研修会は、臨地教員が看護学部の講義・演習を行う上での教育スキルの向上を図ることを目的として本年度から開催された。講義の展開のしかた及び演習の効果的なかわり方を理解し、臨地教員の講義・演習の能力向上を図ることを目標とした。

受講対象者は、臨地実習指導経験、講義もしくは演習の指導に関わった経験を有する、もしくは今後予定している臨地教員等とし、2月22日（金曜日）午前に行った。前半は、「学生が主体的に学ぶための工夫：①講義の展開方法、②演習の効果的な関わり」と題した講義を行い、後半は、自由討論を行った。

受講者は19人で、附属病院の看護師は13人（68.4%）、アンケートの結果から、「参加目的がわかりにくかった」という意見がみられたが、「研修会に参加してよかった」、「今までの教育経験を振り返って教員とフリートークする機会が有意義であった」など、本学の教員との自由な討論の機会に対し肯定的な意見が多かった。次年度も引き続き、講義と演習に関わる臨地教員を含む看護師を対象に、同様の内容の研修を行う。

入試実施委員会

委員長 永井 優子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、次のとおりである。

- 1) 入学試験実施に関する事項
 - (1) 入学試験実施日の役割分担・実施手順に関すること。
 - (2) 入学試験実施説明会に関すること。
- 2) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏名	役割
永井 優子 教授	委員長
横山 由美 教授	副委員長
倉科 智行 准教授	委員
角川 志穂 准教授	委員
清水 みどり 講師	委員
古島 幸江 講師	委員
安島 幸子 課長	事務局
湯浅 芳恵 参事(兼)課長補佐	事務局

3. 活動内容

本年度は、4回の委員会を開催した。各回の審議事項を表2に示した。

第1回の委員会では、構成員および所管事項、入学試験の日程を確認し、今年度の委員会方針として、修正版入学試験マニュアルの実施を徹底することを決定した。

第2回の委員会では、平成31年度推薦入学試験の実施マニュアルを検討して、感染の疑いがある受験者に対する対応に関して強化する等の修正を行った。また、入試今年度から、実施説明会の欠席者への対応として、入試実施説明会を録画し、欠席者へ貸出を試行すること、今年度も昨年度と同様に第4回入試実施委員会を開催することが決定した。

修正版マニュアルを用いて2018年11月8日(木)に入試実施説明会を開催し、推薦入学試験を11月17日(土)に実施した。

第3回の委員会では、一般入学試験の入試実施マニュアルを確認し、修正版を作成した。2018年1月18日(金)に作成したマニュアルを用いて入試実施説明会を開催し、一般入学試験(一次試験)

を1月28日(土)に、一般入学試験(二次試験)を2月9日(土)に実施した。

第4回の委員会では、平成31年度一般選抜入学試験の評価を行い、推薦入試における「小論文試験問題作成・採点員に関する注意事項」の追記、一般入試(筆記)において試験監督員及び室外待機者の不在時の対応の検討、予備員者の設定、物品等の追加について検討した。また、2020年度の推薦入学試験、一般選抜入学試験の間マニュアルの検討を行い、修正版を作成した。

表2 2018年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2018年 4月10日	1. 本委員会等の構成について 2. 本委員会の所管事項について 3. 平成31年度看護学部入学試験関係の日程について 4. 平成30年度本委員会の方針について
2	2018年 10月18日	1. 平成31年度推薦入試実施マニュアルについて 2. 推薦入学試験実施説明会の日程について
3	2019年 1月7日	1. 平成31年度一般入学試験マニュアルについて 2. 一般入学試験実施説明会について 3. 「受験生用説明書」改訂版の評価について
4	2019年 3月14日	1. 平成31年度看護学部入学試験(推薦・一般)の評価について 2. 令和2年度入学実施マニュアル等について

大学院看護学研究科委員会等報告

大学院看護学研究科委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

- (1)学則の制定及び改廃に関する事項
- (2)研究科の教育課程に関する事項
- (3)入学，休学，退学，転学，転入学，除籍及び賞罰に関する事項
- (4)試験に関する事項
- (5)学位論文審査に関する事項
- (6)その他研究科の学事に関する重要事項

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第2項に規定する者（研究科長，専攻分野主任教授，研究科長が指名する教授）

表1 構成員と役割

氏名	役割
春山 早苗	委員長（研究科長）
成田 伸	委員（幹事長）
大塚 公一郎	委員
小原 泉	委員
塚本 友栄	委員
永井 優子	委員
野々山 未希子	委員
半澤 節子	委員 ※
本田 芳香	委員 ※※
村上 礼子	委員 ※※※
横山 由美	委員

※実践看護学分野主任兼ねる

※※広域実践看護学分野主任兼ねる

※※※地域看護管理学分野主任兼ねる

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第1項の規定により，看護学研究科の学事に関する重要事項について審議を行うため，表2のとおり看護学研究科委員会を開催した。

表2 2018年度の審議事項

回	開催日	審議事項
①	4月20日	・平成30年度大学院看護学研究科長期履修制度申請について
2	4月19日	・平成30年度看護学研究科履修科目（博士前期・後期課程）の決定について ・平成30年度看護学研究科ティーチングアシスタントの決定について ・長期履修許可について（博士前期課程，博士後期課程） ・入学生の指導教員の決定と在学生の指導教員の変更について

3	5月10日	・9月修了を前提とした学位論文審査スケジュールについて ・平成31年度自治医科大学大学院看護学研究科学生募集要項について ・平成30年度博士前期課程科目等履修生後期開講科目（追加募集）について ・平成30年度看護学研究科博士課程説明会について ・既修得単位の認定について ・平成30年度大学院特別講義/FD研究会について ・平成30年度看護学研究科非常勤講師の任用について
④	5月22日	・退学について
⑤	6月26日	・退学について
6	7月5日	・平成31年度看護学研究科出願資格認定試験及び入学試験の実施要領（案）について ・専門実践教育訓練給付金の申請に係る準備について ・平成31年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験マニュアルについて ・大学院看護学研究科パンフレットについて ・倫理審査申請に向けた支援強化について
7	8月30日	・平成31年度看護学研究科博士前期課程出願資格認定試験合否判定について ・平成30年度博士後期課程論文審査（口頭試問）の結果について ・平成31年度看護学研究科予算要求について ・大学院看護学研究科学生海外渡航届について
8	9月27日	・平成30年度看護学研究科科目等履修生（追加募集）の決定について ・平成30年度博士後期課程論文審査（口頭試問）の結果について ・学位論文（保存用）最終締切日の変更について
9	10月4日	・平成31年度大学院看護学研究科（博士前期課程）入学試験合否判定について ・平成30年度大学院看護学研究科科目等履修生（博士前期課程・博士後期課程）単位修得認定について ・平成31年度大学院看護学研究科博士前期課程2次募集について ・平成30年度大学院看護学研究科（博士後期課程）入学生の副研究指導教員について ・平成30年度大学院看護学研究科博士後期課程研究費の審査について ・平成30年度第3回合同研究セミナーについて ・専門訓練給付金の申請について ・大学院看護学研究科学生旅行届について
10	12月3日	・平成30年度大学院看護学研究科（博士後期課程）論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）について ・平成30年度大学院看護学研究科（博士後期課程）論文審査実施要領について

		<ul style="list-style-type: none"> ・大学院看護学研究科（博士後期課程）学位論文審査基準について ・平成31年度大学院看護学研究科博士前期課程2次募集及び博士後期課程入学試験実施マニュアルについて ・平成31年度大学院看護学研究科科目等履修生（博士前期課程）募集科目について ・2020年度大学院看護学研究科入学試験日程について ・大学院修了後の看護実践能力に関する自己評価について ・博士後期課程「広域実践看護学特別研究」について ・博士後期課程英語科目について 	16	2月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度看護学研究科（博士前期・後期課程）修得単位の認定について ・平成30年度看護学研究科（博士前期・後期課程）修了判定について ・平成29年度看護学研究科科目等履修生の単位修得（後期履修）について ・平成31年度看護学研究科科目等履修生（博士後期課程）決定について ・2019年度看護学研究科入学生の研究指導教員の決定について ・2019年度看護学研究科ティーチングアシスタントの決定について ・2019年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーションについて ・2019年度看護学研究科運営組織について ・2019年度看護学研究科教員の任用及び担当授業科目の追加申請について ・2019年度看護学研究科非常勤講師任用審査について ・長期履修期間短縮許可について ・科目等履修生開講科目の追加について
11	12月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度大学院看護学研究科（博士前期課程）論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）について ・博士後期課程「広域実践看護学演習」について 	17	3月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度看護学研究科博士前期課程修得単位認定（追加）について
12	1月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度大学院看護学研究科博士前期課程出願資格認定試験（2次募集）合否判定について ・2019年度看護学研究計画審査会（博士後期課程）日程について ・2019年度研究計画支援委員会（博士前期課程）日程について ・2019年度大学院看護学研究科学年曆について ・2020年度大学院看護学研究科科目等履修生募集日程について ・大学院看護学研究科博士後期課程「広域実践看護学演習」について ・博士前期課程地域看護管理学分野の科目の変更について 	18	3月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院看護学研究科教員の担当授業科目の追加並びに非常勤講師の任用について
13	2月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度大学院看護学研究科(博士前期・後期課程)論文審査(口頭試問)の結果について ・平成30年度学位論文発表会(最終試験)スケジュールについて ・平成31年度科目等履修生(博士前期課程)の決定について ・大学院生の交通事故について ・平成30年度第2回看護学研究科博士課程説明会について ・大学院看護学研究科教員任用審査について ・平成31年度看護学研究科非常勤講師の任用について ・2019年度看護学研究科科目責任者の決定について 			
14	2月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度看護学研究科博士・修士(看護学)学位論文審査最終試験の判定について 			
15	2月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度看護学研究科博士後期課程・博士前期課程(2次募集)入学試験合否判定について 			

(回数表示の○囲みは持回り審議)

研究科委員会幹事会

幹事長 成田 伸

1. 所管事項

- (1)自治医科大学大学院看護学研究科委員会（以下「研究科委員会」という）に付議する事項に関する事前審議
- (2)自治医科大学大学院看護学研究科に係る企画立案
- (3)その他、大学院看護学研究科の運営に係る日常業務の処理

2. 委員会の構成

委員会の構成員と各委員の役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏名	役割
春山 早苗 教授	研究科長, 研究計画支援委員長
成田 伸 教授	幹事長
半澤 節子 教授	実践看護学分野主任教授, 入試実施委員長
村上 礼子 教授	地域看護管理学分野主任教授, FD評価実施委員長
本田 芳香 教授	広域実践看護学分野主任教授, カリキュラム委員長
小原 泉 教授	広報委員長

3. 活動内容

平成30年度は計11回の研究科委員会幹事会を開催した。平成30年度の審議事項の概要を表2に示した。

研究科委員会幹事会の所管事項が適時審議されるよう、幹事会の定例会における議題を年度当初に設定し、必要な検討事項について各委員会において審議を行い、幹事会ではその内容に基づいて委員長より報告がされ、審議した。

表2 平成30年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	平成30年4月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成31年度看護学研究科募集要項 2. 平成30年度看護学研究科博士前期課程科目等履修生後期開講科目（追加募集） 3. 平成30年度看護学研究科オリエンテーションの評価 4. 平成30年度看護学研究科博士課程説明会 5. 既修得単位の認定 6. 平成30年度看護学研究科非常勤講師の任用 7. 平成30年度特別講義/FD研究会（課外授業） 8. 9月修了を前提とした学位論文審査スケジュール
2	5月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の退学 2. 平成31年度看護学研究科出願資格認定試験及び入学試験の実施要領（案） 3. 倫理審査申請に向けた支援強化のための新体制
3	6月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の退学 2. 平成31年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験マニュアル 3. 博士後期課程カリキュラム評価 4. 平成30年度看護学研究科特別講義/FD研究会（課外授業）
4	7月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学研究科（博士前期課程・博士後期課程）学位論文審査基準の検討 2. 平成31年度看護学研究科予算要求 3. 平成30年度国際学会参加に伴う補助金交付者の選考 4. 平成30年度看護学研究科特別講義/FD研究会（課外授業）アンケート調査（案） 5. 看護学研究科学生海外渡航届 6. 看護学研究科パンフレット2020及び説明会チラシ
5	9月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度看護学研究科科目等履修生（博士前期課程・博士後期課程）単位修得認定 2. 平成30年度第3回合同研究セミナー 3. 平成31年度看護学研究科（博士前期課程・博士後期課程）時間割 4. 看護学研究科パンフレット2020及びホームページ 5. 専門訓練給付金の申請
6	10月23日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成31年度看護学研究科博士前期課程入学試験（2次募集） 2. 看護学研究科博士後期課程英語科目 3. 平成31年度看護学研究科（博士前期課程・博士後期課程）時間割 4. 看護学研究科パンフレット2020 5. 私立大学等改革総合支援事業に係る調査

7	11月29日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度看護学研究科論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会） 2. 平成30年度看護学研究科論文審査実施要領 3. 看護学研究科学位論文審査基準 4. 平成31年度看護学研究科博士前期課程2次募集及び博士後期課程入学試験実施マニュアル 5. 平成31年度看護学研究科科目等履修生（博士前期課程）募集科目 6. 平成31年度看護学研究科入学試験日程 7. 大学院修了後の看護実践能力に関する自己評価 8. 博士後期課程「広域実践看護学特別研究」 9. 博士後期課程「広域実践看護学演習」 10. 博士後期課程英語科目
8	12月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成31年度看護学研究科審査会（博士後期課程）日程 2. 平成31年度研究計画支援委員会（博士前期課程）日程 3. 平成31年度看護学研究科学年歴 4. 平成31年度看護学研究科要綱 5. 平成31年度看護学研究科時間割 6. 平成31年度看護学研究科科目等履修生募集日程 7. 看護学研究科博士後期「広域実践看護学演習」
9	平成31年 1月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院生の交通事故 2. 平成31年度看護学研究科科目責任者の決定 3. 看護学研究科教員の任用及び担当授業科目の追加申請 4. 看護学研究科非常勤講師の任用 5. 平成30年度第2回博士課程説明会
10	2月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成31年度看護学研究科新生・在学生オリエンテーション 2. 平成31年度看護学研究科ティーチングアシスタントの決定 3. 看護学研究科教員の任用及び担当授業科目の追加申請 4. 平成31年度看護学研究科非常勤講師の任用 5. 平成31年度大学院要綱 6. 長期履修短縮許可 7. 科目等履修生開講科目の追加
11	3月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成31年度幹事会審議事項 2. 看護学研究科担当授業科目の追加申請 3. 看護学研究科非常勤講師の任用 4. 平成29年度大学院修了後（1年後フォロー）及び平成30年度大学院修了時の看護実践能力に関する自己評価 5. 平成31年度看護学研究科オリエンテーション

教育研究分野別報告

看護基礎科学

教授 大塚 公一郎

1. スタッフの紹介

教授 大塚 公一郎

准教授 倉科 智行（2018年4月1日就任）

取得資格：医師

学歴：医学士 東北大学医学部

医学博士 自治医科大学

医学研究科博士課程

職歴：自治医科大学内分沁代謝科病院講師を経て着任

准教授 平尾 温司

講師 関山 友子

講師 鹿野 浩子

2. 教育の概要

1) 看護基礎科学に関する教育概要

(1)心理学（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である大塚が30時間を担当して講義を行った。

(2)人間関係論（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である大塚が5時間、高村寿子非常勤講師（自治医科大学名誉教授）が10時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(3)情報学（1年次後学期2単位：選択）

科目分担者である浅田義和（本学情報センター講師）が10時間、科目責任者である関山が12時間、関山と科目分担者である江角伸吾（地域看護学助教）が8時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(4)統計学（2年次前学期1単位：必修）

科目責任者である関山が15時間を担当して講義を行った。

(5)統計学演習（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である関山が15時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(6)疫学（4年次前学期2単位：必修）

科目分担者である江角が4時間、科目責任者である関山が26時間を担当して講義を行った。

(7)病態学概論（1年次後学期2単位：必修）

科目責任者である倉科が30時間を担当して講義を行った。

(8)病態学各論（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である倉科が30時間を担当して講義

を行った。

(9)臨床検査学（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である倉科が7時間、紺野 啓非常勤講師（本学医学部准教授）が4時間、松浦克彦非常勤講師（本学さいたま医療センター）が2時間、出井 充非常勤講師（本学RIセンター管理主任）が2時間を担当して講義を行った。

(10)人体科学の基礎（1・2年次前学期1単位：選択）科目責任者である北田志郎非常勤講師（大東文化大学准教授）が13時間、菱川修司非常勤講師（本学医学部准教授）が2時間を担当し講義を行った。

(11)基礎英語（1・2年次前学期1単位：必須）

科目責任者である鹿野が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(12)医療英語（2・4年次前学期1単位：選択）

科目責任者である鹿野が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(13)人体の構造と機能Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）平尾が30時間を担当して講義を行った。

(14)人体の構造と機能Ⅱ（1年次後学期2単位：必修）平尾が28時間、野田泰子非常勤講師（本学医学部教授）が4時間を担当して実習を行った。加藤一夫非常勤講師（筑波技術大学教授）が4時間を担当して実習を行った。三木玄方非常勤講師（本学医学部講師）が4時間を担当して実習を行った。

(15)免疫学（1年次後学期2単位：必修）

滝龍雄非常勤講師（北里大学准教授）が18時間、平尾が12時間を担当し講義を行った。

(16)医療とバイオテクノロジー（1・2年次前学期1単位：選択）科目責任者である平尾が15時間を担当して講義を行った。

(17)保健医療福祉システム論（1年次後学期2単位：必修）科目責任者である関山が6時間、科目分担者である春山早苗（地域看護学教授）が6時間、塚本友栄（地域看護学教授）、島田裕子（地域看護学講師）、青木さぎ里（地域看護学助教）、土谷ちひろ（地域看護学准教授）が各4時間、江角伸吾（地域看護学助教）が2時間を担当して講義を行った。

2) 看護基礎科学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：選択）

倉科、平尾は、それぞれ30時間の演習を担当し

た。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

関山は2時間の講義を、関山、鹿野はそれぞれ10時間の演習を担当した。

(3)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

関山は、90時間の実習を地域看護学領域の教員と担当した。

(4)対象の理解実習（1年次後学期2単位：必修）

大塚、倉科、平尾、関山、鹿野は、それぞれ8時間の実習を担当した。

(5)公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修）

大塚、倉科、平尾は、それぞれ6時間の実習を担当した。関山、鹿野は、それぞれ12時間の実習を担当した。

(6)看護トピックス（4年次前学期2単位：必修）

平尾が宇都宮大学農学部附属農場で6時間の実習を行った。

(7)大塚は、本学医学部3年生を対象に、2時間の社会精神医学の系統講義を行った。

(8)大塚は、本学医学部4年生を対象に、精神科臨床実習クルズス「サイコネフロロジー」の講義を計16時間行った。

(9)平尾は、本学医学部1年生を対象に、96時間の解剖学実習を担当した。

(10)平尾は、本学医学部2年生を対象に、12時間の神経解剖学実習を担当した。

(11)倉科は、本学医学部3年生を対象に、2時間の内分泌代謝学の系統講義を行った。

(12)倉科は、本学医学部6年生を対象に、2時間の糖尿病学の内科学総括講義を行った。

(13)倉科は、本学医学部4年生を対象に、内分泌代謝科実習クルズス「糖尿病」の講義を計16時間行った。

3. 研究の概要

(1)統合失調症の精神病理学的研究

大塚は、統合失調症患者の言語行為と自我障害、加害妄想との関係について精神病理学的研究を行った。

(2)覚醒夢の精神病理学的研究

大塚は、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））による研究課題「明晰夢の現象学」（研究代表者：本学医学部総合教育部門 武内大）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

(3)日系ブラジル人児童のメンタルヘルス支援

大塚は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題、「レジリエントなコミュニティ形成をめざして－在日ブラジル人の震災経験を踏まえた支援の検討－」（研究代表者：野崎章子 千葉大学）に、研究分担者として参加し、同研究を実施した。

(4)尾腺における主要組織適合抗原複合体分子の発現の研究

平尾は「尾腺における主要組織適合抗原複合体分子の発現」の研究を代表者として実施した。共同研究者は宇都宮大学農学部の杉田昭栄、青山真人であった。

(5)精神障害者による他害行為の予防に対する精神保健医療福祉体制の整備に関する研究

関山は、平成28-31年度文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「精神障害者による他害行為の予防に対する精神保健医療福祉体制の整備に関する研究」（研究代表者：国際医療福祉大学 小池純子）の研究分担者として参加し、同研究を実施した。

(6)人口規模に応じた市町村保健師の地域保健活動マネジメント

関山は、平成29-31年度文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「人口規模に応じた市町村保健師の地域保健活動マネジメント」（研究代表者：自治医科大学 春山早苗）の研究分担者として参加し、同研究を実施した。

(7)看護専門職への移行期にある看護学部高学年生および新人看護師の看護実践能力向上に向けた文献研究

関山は、平成30年度看護学部共同研究費による研究課題「看護専門職への移行期にある看護学部高学年生および新人看護師の看護実践能力向上に向けた文献研究」（研究代表者：自治医科大学 湯山美杉）の共同研究者として参加し、同研究を実施した。

4. その他

(1)大塚は、平成21年1月より多文化間精神医学会評議員、同年9月より同学会機関誌「こころと文化」編集委員を務めている。

(2)大塚は、平成22年10月より日本精神病理・精神療法学会評議員を務めている。

(3)大塚は、平成26年10月より日本精神医学史学会

評議員を務めている。

(4)大塚は、非常勤講師として、栃木県立衛生福祉大学校看護学科専科で2時間の精神医学の講義を行った。

(5)大塚は、日本ルーラルナーシング学会学会誌「ルーラルナーシング」の査読委員を務めた。

(6)平尾は栃木県立栃木女子高等学校の模擬授業を1時間担当した。

(7)平尾は作新学院高等学校において学びの分野別ガイダンスで講義を2時間担当した。

(8)関山は、栃木県地域保健福祉職員研修の講師を担当した。

(9)関山は、平成22年4月より日本ルーラルナーシング学会編集委員を務めている。

(10)鹿野は平成29年度4月より社会科学言語学会企画委員を務めている。

基礎看護学

教授 本田 芳香

1. スタッフの紹介

教授 本田 芳香
 教授 小原 泉
 准教授 里光やよい
 講師 福田 順子
 助教 湯山 美杉
 石井 容子
 高山 温子

2. 教育の概要

基礎看護学科目群では、発達段階に合わせたすべての人を意識し、4年間で学ぶべく看護学の基礎を、また看護実践していくための基本的な論理思考の構築を目指し教育を進めた。

1) 基礎看護学に関する教育概要

(1)看護学概論（1年次前学期2単位：必修）

担当：本田芳香：人間・健康・環境・看護の主な概念、看護理論、歴史的変遷、法律・倫理及び看護活動の場と保健医療福祉チームにおける看護の役割・機能など、今後看護が目指す概要を教授する。

(2)実践看護学概論Ⅰ（1年次前学期1単位：必修）
 担当：本田芳香：看護過程の基本として論理的思考及び対人関係スキルの概要を教授する。特に学生自身の健康課題と関連させたテーマを選定し、自己の問題解決技法を教授した。

(3)看護技術論Ⅰ・看護技術演習Ⅰ（1年次前学期1単位：必修）担当：里光やよい，他基礎看護学教員全員：看護技術の導入としての環境や健康におけるバイタルサイン，基本的大意に関し講義と演習を進めた。

(4)看護技術論Ⅱ・看護技術演習Ⅱ（1年次後学期1単位：必修）担当：福田順子，他基礎看護学教員全員：日常生活援助に関し，食事，排泄，清潔等の講義と演習を進めた。

(5)ヘルスアセスメント（1年次後学期1単位：必修）担当：小原泉，他基礎看護学教員全員：系統的なフィジカルアセスメントに必要な全身の観察技法について講義演習を行った。

(6)看護技術論Ⅲ・看護技術演習Ⅲ（2年次前学期1単位：必修）担当：小原泉，他基礎看護学教員全員：診療の補助業務に関し，滅菌操作，採血等の

検査，与薬に関連する点滴，筋注，皮下注等の講義演習を行った。

(7)看護過程演習（2年次前学期1単位：必修）担当：小原泉，他基礎看護学教員全員：看護過程の展開を教授し，学生にはグループに分け基礎看護学の教員全員で個別に指導した。

(8)対象の理解実習（1年次前学期1単位：必修）担当：里光やよい，他基礎看護学教員全員：附属病院の病棟・外来に来訪する対象の理解を人間・健康・環境・看護の視点から実習を通して学ぶ。

(9)日常生活援助実習（2年次後学期2単位：必修）：担当：本田芳香，他基礎看護学教員全員，附属病院で入院している患者を初めて受け持ち，日常生活に関わる援助を実習を通して学ぶ。

(10)その他：「がん看護学」は，小原が担当。「看護倫理」は，小原が担当。「看護トピックス」は里光が担当。「看護基礎セミナー」は，基礎看護学教員全員が担当した。「総合実習・総合セミナー」は，教授（本田，小原）を中心に，准教授（里光），講師（福田），助教全員（湯山，石井，高山）が担当した。

3. 研究の概要

1) 研究プロジェクトの参加（研究代表者）

①本田は，文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）による研究課題「地域文化を基盤とする終末期がん患者の在宅看取りケアに関する多職種コーディネート機能」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は本学部教員福田，湯山，本学医学部教員の藤井博文，高崎健康福祉大学の棚橋さつき，大東文化大学 北田志郎であった。

②小原は，文部科学省化学研究費補助金（基盤研究（C））による研究課題「臨床研究コーディネーターの熟達化を促進する現任教育」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，千葉大学大学院 野崎章子，京都大学大学院 笠井宏委，国立病院機構大阪医療センター 森下紀子，金沢大学 吉村健一であった。

③小原は，がん研究振興財団研究助成B課題「がん臨床試験における意思決定支援の課題抽出のための尺度開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，東京大学医科学研究所附属病院 藤原紀子，埼玉医科大学国際医療センター 藤原恵一であった

④湯山は、看護学部共同研究費による研究課題「看護専門職への移行期にある看護学部高学年生および新人看護師の看護実践能力向上に向けた文献研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、自治医科大学看護学部 本田芳香、福田順子、関山友子、自治医科大学附属病院 亀田美智子、高久美子であった。

2) 研究プロジェクトの参加（分担研究者）

①本田は、文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発事業」テーマ1「地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究」（研究代表者：春山早苗）の分担研究者として参加し、同研究を実施した。

②本田は、平成30年度看護学部共同研究費による研究課題「看護専門職への移行期にある看護学部高学年生および新人看護師の看護実践能力向上に向けた文献研究」（研究代表者：湯山美杉）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。

③小原は、文部科学省化学研究費補助金（基盤研究（C））による研究課題「特定機能病院精神科病棟・外来・在宅支援の主軸となる高難度看護実践教育プログラム」（研究代表者：野崎章子）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

④福田は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題、「地域文化を基盤とする終末期がん患者の看取りケアに関する多職種コーディネート機能」（研究代表者：本田芳香）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

⑤湯山は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題、「地域文化を基盤とする終末期がん患者の看取りケアに関する多職種コーディネート機能」（研究代表者：本田芳香）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

2) 研究業績録

(1)学会発表

①福田順子,本田芳香,小原泉,里光やよい,大柴幸子,上野久子,大海佳子,渡辺芳江,亀田美智子,小松崎香,弘田智香,朝野春美：A大学附属病院のジェネラリストナースのキャリア開発. 日本ルーラルナース学会,香川,2018年11月3日（日本ルーラルナース学会 第13回学術集会抄録集38,2018）

②飯塚由美子,本田芳香,渡辺道子,中山章子,田村恵理子：療養場所を移行する婦人科がん患者・家族

への病棟看護師の看護アプローチの内容.第23回日本在宅ケア学会学術集会,大阪,2018年7月14日（日本在宅ケア学会学術集会 第23回学術集会抄録集42,2018）

③岩永麻衣子,本田芳香：緩和ケア病棟看護師の終末期がん患者とその家族との関わりの中で生じた無力感に対する対処.第32回日本がん看護学会学術集会,千葉,2018年2月3日

（日本がん看護学会学術集会 第32回学術集会抄録集149,2018）

④湯山美杉,本田芳香,福田順子,飯塚由美子：地域特性を基盤とする終末期がん患者の在宅看取りケアに関するコーディネート機能の研究. 第38回日本看護科学学会学術集会,愛媛,2018年12月15日

（日本看護科学学会 第38回学術集会電子抄録集：O 21-4）

⑤湯山美杉,里光やよい,清水みどり,飯塚由美子,路川達阿起,本田芳香：e-learning導入による模擬患者養成プログラム開発,高松.平成30年11月3-4日（2018）.（日本ルーラルナース学会第13回学術集会抄録集：44, 2018）

⑥I. Kohara, N. Fujiwara, H. Nakahama, S. Tamaki, M. Yabuki, N. Hiraoka, M. Ito, M. Yamamoto, K. Shimozuma, K. Fujiwara: Current status of activities relating to research nurses in gynecological cancer cooperative group, 17th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society in Kyoto, Japan, September 14-16, 2018.

⑦笠井宏委,後澤 乃扶子,小原 泉,唐木 範子,谷口隆雄,野崎 章子,森下 典子,鶴丸 雅子,吉村 健一,遠藤 一司,山本 晴子,楠岡 英雄：CRCの現任教育調査 - CRC所属医療機関およびSMOにおける内部教育体制 -, 第9回日本臨床試験学会学術集会総会,仙台市, 2018年2月23日

⑧後澤 乃扶子,笠井宏委,小原 泉,唐木 範子,谷口隆雄,野崎 章子,森下 典子,鶴丸 雅子,吉村 健一,遠藤 一司,山本 晴子,楠岡 英雄：CRCの現任教育調査-外部集合教育プログラムの活用状況-, 第9回日本臨床試験学会学術集会総会,仙台市, 2018年2月23日.

⑨笠井宏委,後澤 乃扶子,小原 泉,唐木 範子,谷口隆雄,野崎 章子,森下 典子,鶴丸 雅子,吉村 健一,遠藤 一司,山本 晴子,楠岡 英雄：CRCの現任教育調査 - CRCの自立度と将来像に関する調査-, 第

9回日本臨床試験学会学術集会総会，仙台市，2018年2月23日。

⑩小原泉，森下典子，野崎章子，鶴丸雅子，遠藤一司，谷口隆雄，後澤乃扶子，笠井宏委，吉村健一，山本晴子：臨床研究コーディネーターの熟達度評価尺度の開発と測定結果，第18回CRCと臨床試験を考える会議 2018 in 富山，富山市，2018年9月16～17日。

⑪小原泉：わが国のCRC育成の現状と課題，第18回CRCと臨床試験を考える会議2018 in 富山 シンポジウム11「CRC育成のやりがいと挑戦～後進育成の本質とその方法～」，富山市，2018年9月17日。

⑫野崎章子，小原泉：臨床研究コーディネーター（CRC）として活動する看護職資格保有者の実態に関する横断的研究，第38回日本看護科学学会学術集会，松山市，2018年12月16日。

4. その他

①翻訳

本田芳香，中村美鈴，江川幸二（訳）：高度実践看護統合的アプローチ，第8章 ガイダンスとコーチング，182-210，2018。

②査読

本田芳香は，日本在宅ケア学会誌編集委員会の査読委員を務めた。

③臨床スタッフへの研究指導（学外）

福田順子は，栃木県看護協会主催の一般教育研修会の講師を務めた。

福田順子は，栃木県立衛生福祉大学校の基礎看護学概論Ⅲの講師を務めた。

④里光 やよい，本田芳香，浜端賢次，清水みどり，湯山美杉，岡野朋子，大澤弘子：模擬患者を用いたアセスメント演習に参加した地域で活動する看護師の自己評価。自治医科大学看護学ジャーナル，15巻；p. 39，2018。

⑤湯山美杉，本田芳香，小原泉，里光やよい，福田順子，飯塚由美子，岡野朋子，野沢博子，亀田美智子，高久美子：模擬患者を活用した看護的な観視点の育成をもたらす教育効果の検討，自治医科大学看護学ジャーナル，15巻；p. 29，2018。

地域看護学

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗

教授 塚本 友栄

講師 島田 裕子

講師 青木 さぎ里

講師 江角 伸吾

助教 土谷 ちひろ

助教 横山 絢香（2018年4月1日就任）

資格：看護師，保健師。

学歴：医科学修士（東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科医科学専攻）

職歴：保健師として，埼玉県（埼玉県庁保健
医療部疾病対策課，狭山保健所，熊谷
保健所）に7年間。

2. 教育の概要

1) 地域看護学に関する教育概要

公衆衛生の理念を追求する看護の目的と活動方法の基本を理解し，公衆衛生看護活動の展開に必要なとなる基本的な知識と技術を学生が修得できることを目指して，主に行政に所属する保健師の活動を素材にして，教育にあたっている。担当科目は，実践基礎看護学概論Ⅲ（2年次前学期2単位：必修），健康生活支援技術Ⅰ（3年次前学期1単位：必修），健康生活支援技術Ⅱ（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護活動論（3年次後学期2単位：必修），公衆衛生看護方法論（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修），行政看護管理論（4年次前学期1単位：必修），地域健康危機管理論（4年次前学期1単位：必修）であり，本学科目教員全員で担当した。

2) 地域看護学以外の担当教育概要

①「保健医療福祉システム論」（1年次後学期2単位：必修）：春山・塚本・島田・青木・江角・土谷が担当。②「看護基礎セミナー」（1年次前学期：必修）：塚本・土谷・横山が担当。③「へき地の生活と看護」（1～4年次後学期1単位：選択）：青木，江角，土谷，横山が担当。④「文献講読セミナー」（2年次前学期：必修）：島田，青木，江角が担当。⑤「研究セミナー」（3年次後学期1単位：必修）：塚本が科目責任者，春山も担当。⑥「国際看護論」（4年次前学期1単位：必修）：江角が科目

責任者，春山・土谷も担当。⑦老年在宅看護実習（3年次後学期2単位：必修）：本学科目教員全員が1クール担当。⑧「看護政策学」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者。⑨「総合実習」（4年次後学期：必修）：本学科目教員及び看護基礎科学の関山講師で18名を担当。実習場所は下野市8名，群馬県吾妻郡中之条町六合地域5名，日光市足尾地域4名，県内訪問看護ステーション1名。⑩「看護総合セミナー」（4年次後学期：必修）：本学科目教員及び看護基礎科学の関山講師で学生18名を担当。春山1名，塚本2名，島田3名，青木3名，江角3名，土谷2名，横山2名の学生を指導。学生は，乳幼児をもつ母親の育児不安に対する市町村保健師の支援方法，住民である第1層生活支援コーディネーターの活動上の困難，介護保険施設における転倒を防ぐ看護支援，山間地域における薬物治療の継続要因と看護支援，山間過疎地域における独居高齢者の支え合い，認知症高齢者の介護家族の困難感と対処に影響する要因，在宅緩和ケア利用者への看護支援等の看護研究に取り組んだ。⑪「看護トピックス」（4年次後学期：必修）：本学科目では，塚本が責任教員となり，テーマ「退院支援と多職種連携」を本学科目教員全員で17名の学生を担当。⑫その他：青木・横山は担当者とともに，「へき地の生活と看護」履修者57名，研修者5名，計62名の夏季へき地研修を17カ所の施設において企画・実施した。江角，土谷は担当者とともに，履修者8名のモンゴル医科大学（ウランバートル校及びダルハン校）との交流プログラムを企画した。

3. 研究の概要

- 1) 春山は，平成29-31年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））による研究課題「人口規模に応じた市町村保健師の地域保健活動マネジメント」の研究代表者として，同研究を実施した。研究分担者は塚本，島田，関山，青木，江角，土谷，横山，連携研究者は，長崎県立大学の中尾八重子，長野県看護大学の安田貴恵子，富山大学の田村須賀子，山梨大学の山崎洋子であった。
- 2) 塚本は，平成30-32年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究（C））による研究課題「へき地における退院支援・調

- 整に関する教育プログラムの開発」の研究代表者として、同研究を実施した。研究分担者は春山、島田、青木、江角、土谷、研究協力者は、前湘南医療大学の上野まり、名城大学の佐久川政吉、徳島文理大学の福島道子であった。
- 3) 青木は、平成30年-33年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（若手研究(B)）による研究課題「離島町村で働く新任保健師の看護実践能力の向上につながる経験 離島類型別の特徴」の研究代表者として、同研究を実施した。
 - 4) 春山は、平成30-32年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病を予防するための情報通信技術を活用した保健指導プログラム及びその実践のための手引きの作成と検証」の研究代表者として、同研究を実施した。研究分担者は江角、小谷和彦、浅田義和、富山大学の田村須賀子、大阪市立大学の由田克士、筑波大学の中田由夫、自治医科大学大学院看護学研究科非常勤講師の廣江貴則、研究協力者は横山（絢）等であった。
 - 5) 春山は、平成30年度看護学部教員共同研究費による研究課題「地域包括ケアシステムにおいて協働する住民の地域特性別発掘方略及び生活支援コーディネーターの活動方法に関する研究」の研究代表者として、同研究を実施した。共同研究者は塚本、浜端、島田、関山、青木、江角、土谷、横山（絢）、下野市高齢福祉課の鳥居みゆき、朝川美也子、江連正子、下野市生活支援コーディネーターの鈴木祐孝、井上永子、隅谷サヨ子であった。
 - 6) 春山は、平成30年度看護学部教員共同研究費による研究課題「高齢化社会に対応する文化や習慣を踏まえた保健医療活動方略を検討するための基礎的調査－日本とブータン王国における高齢者の健康関連QOLおよび関連要因の比較から－」の研究代表者として、同研究を実施した。共同研究者は小原、鹿野、青木、江角、ブータン医科大学のChencho Dorjee、Neyzang Wangroであった。
 - 7) 土谷は、第47回かなえ医薬振興財団助成金による研究課題「ソロモン諸島首都におけるソーシャルキャピタルと肥満の関連に関する研究」の研究代表者として、同研究を実施した。共同研究者は京都大学の古澤拓郎、ソロモン諸島保健省のJulia Daifoniであった。
 - 8) 土谷は、2017年度一般社団法人協力隊を育てる会による研究課題「ソロモン諸島首都におけるソーシャルキャピタルと生活習慣病」の研究代表者として、同研究を実施した。共同研究者は京都大学の古澤拓郎、ソロモン諸島保健省のJulia Daifoniであった。
 - 9) 春山は、平成28-30年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「保健活動の評価指標」の「政策統計の報告事項」への適用可能性の検討（研究代表者：宮崎県立大学 平野かよ子）の研究分担者として参加し、同研究を実施した。
 - 10) 春山は、平成27-30年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「島しょ看護学の学習指導書作成に関する研究」（研究代表者：沖縄県立看護大学大学院 野口美和子）の研究分担者、青木は研究協力者として参加し、同研究を実施した。
 - 11) 春山は、平成30-31年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「災害対策における地域保健活動推進のための実務保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証」（研究代表者：千葉大学大学院 宮崎美砂子）の研究分担者として参加し、同研究を実施した。
 - 12) 春山は、平成30-32年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「へき地医療の向上のための医師の働き方およびチーム医療の推進に係る研究」（研究代表者：自治医科大学医学部 小谷和彦）の研究分担者、江角は研究協力者として参加し、同研究を実施した。
 - 13) 春山、江角は、平成30年度看護学部教員共同研究費による研究課題「看護学生の学習行動、学習経験、生活行動および生活体験：日本およびブータンの比較研究」（研究代表者：自治医科大学看護学部 小原泉）の共同研究者として、同研究を実施した。
 - 14) 春山は、平成29-31年度科学研究費助成事

業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））による研究課題「認知症ケア初期の集中支援システムが予防機能を発揮するためのマネジメント指針」（研究代表者：長野県看護大学 安田貴恵子）の連携研究者として参加し、同研究を実施した。

4. その他

- 1) JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）「モンゴル国 思春期からの健康なライフスタイル構築のための持続可能な仕組みづくりプロジェクト～性感染症と不適切な妊娠を予防し、豊かな自己実現をめざして～」：江角が現地活動（2018.4.29～5.4, 2018.9.7～9.21, 2019.1.2～1.7, 2019.3.11～3.22, ウランバートル）、春山もプロジェクトメンバー。
- 2) 地域保健総合推進事業「地方公共団体における効率的・効果的な保健活動の展開及び計画的な保健師の育成・確保について」（分担事業者：国立保健医療科学院 次長 曾根智史）：春山が事業協力者。
- 3) 栃木県地域保健中堅職員研修（企画評価編）（2018.6.22, 12.5, 参加者3名, 宇都宮市）：春山は講師、青木は助言者。
- 4) 地域社会振興財団第11回看護専門研修会「災害時に保健従事者に求められる活動と災害に備えた平常時の活動」（2018.10.12-13, 参加者12名, 下野市）：春山、塚本、島田、青木、江角、土谷が講師。
- 5) 山梨県看護協会「看護管理者のための災害マネジメント」研修会（2018.11.27, 参加者13名, 甲府市）：春山、島田が講師。
- 6) 山梨県中北保健所・峡北支所管内キャリアラダー別研修会（健康危機管理）（2019.3.4, 参加者43名, 甲府市）：春山、島田が講師。
- 7) 春山は日本ルーラルナーシング学会理事長、青木・江角・横山は事務局員。
- 8) 春山は日本地域看護学会副理事長及び災害支援のあり方検討委員会委員長、倫理綱領作成ワーキンググループリーダー、地域看護学術検討ワーキンググループリーダー、島田は災害支援のあり方検討委員会委員。
- 9) 栃木市健康増進計画推進部会及び庁内ワーキング合同会議：春山・江角はアドバイザー。
- 10) 春山：①茨城県特定健診・特定保健指導実施

者研修（経験者向け）の講師「特定健診・保健指導の評価－評価を活かして事業を進めるために－」（2018.8.20, 参加者53名, 水戸市）②下野市 健康推進員養成講座（2018.7.6, 10.5）、フォローアップ講座（2018.11.26, 参加者11名）③厚生労働省 保健師中央会議の事例報告司会及びグループワーク「統括的な役割を発揮するための現状と課題について」のコーディネーター（2018.7.27, 157名, 東京）④日本地域看護学会21回学術集会ワークショップ「学士課程において保健師の地区活動をどのように教授するか－学内演習における実践事例の用い方と学びのパフォーマンス評価－」の企画・運営（2018.8.12, 岐阜市）及び抄録の査読者⑤栃木県芳賀郡市医師会「いちご一会」研修会「医療の必要な高齢者の家族支援を通して医療・介護連携を考える」の講師（2018.10.3, 真岡市）⑥地域医療振興協会 看護部長・老健看護責任者・診療所担当者研修会の講師「へき地を含む地域で働く看護師に求められる力－これまでの調査研究から－」（2018.11.30, 参加者34名, 東京）⑦栃木県南健康福祉センター管内地域保健福祉職員新任期研修の講師「新任期職員に求められる知識・態度及び習得すべきスキル等について」（2018.12.7, 参加者33人, 小山市）⑧地域医療フォーラム2018 第2分科会（ちいきの保健室－人材活用・人材発掘・人材育成－）の座長（2018.9.16, 参加者約35名, 東京）⑨2018年度JICA青年研修事業「インドネシア/母子保健実施管理コース」の講師「日本における母子保健対策－住民との協働－」（2018.10.31, 参加者16名, 下野市）⑩栃木県地域保健管理期研修の講師「アドボカシーにつなげる保健福祉事業の評価～評価結果の効果的な示し方～」（2018.8.21, 参加者33名, 宇都宮市）⑪茅ヶ崎市保健所管内保健師研修会（中堅期）の講師「公衆衛生看護の理念と活動」（2019.1.29, 参加者25名）、「保健師の“おもい”を表す！」（2019.2.6, 25名）⑫地域社会振興財団第471回現地研修会 思春期の輝く未来を支えるピアカウンセリング（仲間相談活動）推進セミナーの講師「ピアカウンセリング活動実践のための地域連携づくり－関係機関・組織・団体が連携して、ピ

- ア活動を推進するために－」（2019.2.10, 参加者86名, 名護市）⑬和歌山県看護協会 看護師等養成所専任教員の継続研修（管理期）の講師「看護基礎教育におけるカリキュラム改正について」（2019.3.2, 33名, 海南市）⑭日本ルーラルナースング学会第13回学術集会抄録の査読者⑮日本医療研究開発機構 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業のMedical Arts評価委員⑯厚生労働省医道審議会臨時委員（保健師助産師看護師分科会員）⑰厚生労働省医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会委員⑱厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会」構成員及び看護職員需給分科会構成員⑲厚生労働省 看護基礎教育検討会構成員及び保健師ワーキンググループ座長⑳文部科学省 大学設置・学校法人審議会 大学設置分科会 専門委員（2018.10.30まで）㉑私立看護系大学協会の理事, 大学運営・経営委員会委員㉒栃木県保健師現任教員のあり方検討会委員㉓下野市健康づくり推進協議会会長㉔日本ルーラルナースング学会誌査読委員㉕千葉看護学会会誌専任査読者㉖日本公衆衛生看護学会代議員, 学術実践開発委員（2018.6まで）㉗日本看護科学学会代議員㉘文化看護学会評議員
- 11) 塚本：①看護協会県西地区支部主催研修の講師「看護職に求められる入退院支援の基礎知識」（2018.12.19, 受講者50名, 鹿沼市）
 - 12) 島田：①下野市介護認定審査会委員②下野市避難者交流会「ふくしまあじさい会」への健康支援活動（2018.8.9, 2019.3.14, 参加者は約40名, 下野市）
 - 13) 青木：①東京都島しょ町村保健活動サポーター②結城市介護認定審査会委員③NPO法人へき地保健師協会理事長④NPO法人へき地保健師協会主催研修の講師「へき地保健師つながる, うごかす」（2018.6.2, 受講者16名, 東京）⑤島しょ町村保健師スキルアップ支援事業・現地研修の講師「事業評価について」「災害対策について～発災時保健師としてどう動くか～」「保健師の人材育成～僻地保健師集まる, うごかす」「新任保健師人材育成計画」（2018.8.19-22, 参加者各3名, 小笠原村）⑥島しょ町村保健師スキルアップ支援事業・現地研修の講師「事業評価報告会」（2018.8.23, 参加者5名, 小笠原村）⑦神津島村保健師現任研修の講師「離島における保健師活動」（2018.9.3, 受講者3名, 神津島村）⑧八丈町保健師現任研修の講師「青ヶ島村の保健師活動について」（2019.2.20, 受講者2名, 八丈町）⑨八丈町保健師現任研修の講師「地区診断について」「保健データの整理, 解釈の仕方」（2019.2.20, 受講者各8名, 八丈町）
 - 14) 江角：①JICA「保健衛生管理セミナー」の講師「Nursing Education in Jichi Medical University」（2018.5.31, 参加者11名, 下野市）。②地域社会振興財団の「第39回保健活動研修会」の講師（2018.8., 受講者17名, 下野市）③日本家族計画協会「第20回自己効力感（セルフエフィカシー）を活かす健康教育セミナー」の講師（2018.12.1-12.2, 受講者37名, 東京）④日本思春期学会評議員及び査読委員
 - 15) 江角は, 芳賀赤十字病院の看護師8名を対象に, 研究課題8件について, 研究指導を行った。
 - 16) 江角は, 芳賀赤十字病院看護部主催の平成30年度キャリア開発ラダーレベルⅢ「看護実践」発表会において, 講評を行った。
 - 17) 春山は, 日本地域看護学会「日本地域看護学会誌」の査読委員を務め, 投稿論文1本の査読を行った。
 - 18) 春山は, 日本公衆衛生看護学会「日本公衆衛生看護学会誌」の査読委員を務め, 投稿論文1本の査読を行った。
 - 19) 春山は, Public Health Nursing (Wiley online library) の査読者を務め, 投稿論文1本の査読を行った。
 - 20) 塚本は, 自治医科大学看護学ジャーナルの査読者を務め, 投稿論文1本の査読を行った。
 - 21) 塚本は, 日本ルーラルナースング学会誌の査読者を務め, 投稿論文1本の査読を行った。
 - 22) 島田は, 日本臨床看護マネジメント学会誌の査読者を務め, 投稿論文1本の査読を行った。
 - 23) 江角は, 日本臨床看護マネジメント学会誌の査読者を務め, 投稿論文1本の査読を行った。
 - 24) 春山は, 日本地域看護学会第21回学術集会の査読者を務め, 学会発表抄録5本の査読を行った。

- 25) 春山は、日本ルーラルナーシング学会第13回
学術集会の査読者を務め、学会発表抄録4本
の査読を行った。
- 26) 春山は、AMED循環器疾患・糖尿病等生活習
慣病対策実用化研究事業の事後評価委員を務
めた。

精神看護学

教授 永井 優子

1. スタッフの紹介

教授 永井 優子

教授 半澤 節子

講師 石井慎一郎

助教 佐藤 貴紀（平成31年3月退職）

助教 富川 明子（平成30年4月1日着任）

取得資格：看護師

学歴：修士（看護学，日本赤十字大学大学院
修士課程看護学専攻）

職歴：精神看護専門看護師として，医療法人
聖和錦秀会阪本病院，医療法人社団薫
風会 訪問看護ステーションメロディ
ーおよび同山田病院等に勤務

2. 教育の概要

1) 精神看護学に関する教育概要

当学科目では，あらゆる健康水準の個人及び集団を対象に，対象者の人権を尊重するとともに，その人の希望を踏まえた精神看護実践の基礎的知識と技術の修得を学士レベルの教育目標としている。精神の健康を増進し，精神の健康障害からの回復を促進する看護の提供体制は，精神科医療を提供する精神科病棟だけでなく，多様な場と支援者のネットワークにより精神障害者とその家族が生活者として健康の回復と社会生活の向上を図ることができるための看護を展開できる能力を育成することを目標としている。

担当科目は，「実践看護学概論Ⅱ」（2年次前学期1単位；必修）は永井15時間，「精神看護方法」

（3年次後学期2単位；必修）は，半澤10時間，永井12時間，石井6時間，「地域精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）は，永井10時間，半澤2時間，石井2時間，土屋徹非常勤講師（夢風舎代表）2時間，精神看護学教員全員で12時間の演習を担当した。「精神保健看護実習」（3年次後学期2単位；必修）は，下野市，小山市，野木町，佐野市の4市町にある精神科デイケア3施設と精神障害者通所型の社会福祉法人とNPO法人の計3法人において，全教員で90時間を担当した。また，総合実習（4年次前学期2単位；必修）と看護総合セミナー（4年次後学期4単位；必修）では，学生10名に対して120時間を担当した。さらに，石井は

「看護トピックス」（4年次後学期1 単位；必修）の14時間を担当した。

後学期の「精神看護方法」「地域精神看護方法」「精神保健看護実習」ではMoodleを用いて，学生の学習支援を行い。アクティブラーニングの手法を用いた教育方法の改善および質の向上に取り組んでいる。

なお，永井と半澤は，大学院看護学研究科博士前期課程において，実践基礎看護学分野精神看護学領域として，精神看護専門看護師（リエゾン精神看護）の教育課程の修了を目指す1名と精神看護学関連の教育研究者を目指す1名の指導を担当している。また，同博士後期課程においては，永井と半澤は各1名を主指導者となっている。

2) 精神看護学以外の教育概要

1年次前学期必修科目として，永井は，「生涯発達看護論」（2単位）の18時間を，2年次後学期必修科目「グループ・アプローチ」（1単位）を8時間担当した。また，永井，半澤，佐藤，富川は「看護基礎セミナー」（2単位）を28時間担当した。石井は「文献講読セミナー」（2年次前学期2単位；必修）を16時間担当した。

3. 研究の概要

永井は，文部科学省科学研究費助成事業の基盤研究（C）「看護基礎教育課程における認知症看護実践能力修得に向けたカリキュラムの開発」（代表者：湯浅美千代，2017年4月～2021年3月）の分担研究者として，同研究を実施している。また，半澤，石井，路川とともに，本学科目で取り組んできた精神科デイケアおよび精神障害者を対象とする福祉施設を実習施設として地域における精神保健看護実習の展開方法について，（一社）日本精神保健看護学会学術集会にてワークショップを開催した。

半澤は，文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究（C）「精神科病棟における身体拘束の最小化および最短化に向けた基礎的研究」の研究代表者（2018年4月-2021年3月）として，石井，永井らと研究分担者として研究を実施している。

石井は，文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究（C）による研究課題「看護職のリフレクション及び継続学習を促進する他者とのかかわりの様相」の研究代表者（2016年4月-2020年3月）として研究を実施している。また，文部科学省科学

研究費助成事業 基盤研究 (C)「精神障害者による他害行為の予防に対する精神保健医療福祉体制の整備に関する研究」(2016年4月-2020年3月, 研究代表者 小池純子; 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター)の研究分担者として研究を実施している。

永井は, 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究 (C)「看護基礎教育課程における認知症看護実践能力修得に向けたカリキュラムの開発」(2017年4月-2021年3月, 研究代表者 湯浅美千代; 順天堂大学)の研究分担者として研究を実施している。

4. その他

永井は, 栃木県および栃木県看護協会が主催する各種研修会の講師および四日市医療看護大学大学院の「コンサルテーション論」の非常勤講師として看護職の継続教育に協力した。また, 下野市の「自殺対策計画策定委員会」の座長を務めた。

さらに, 日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程認定委員会の分科会委員として, 精神看護専門看護師教育課程の審査に協力した。(一社)日本精神保健看護学会理事長・代議員・査読委員, 日本ルーラルナーシング学会評議員・理事(事務局長), 千葉看護学会, 日本看護学教育学会の評議員, 文化看護学会の監事, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本家族看護学会の査読委員, 日本病院・地域精神医学会編集委員を務めている。

半澤は, 日本精神障害者リハビリテーション学会の常任理事(学会誌編集担当), 同学会誌編集委員, 査読委員, 日本社会精神医学会理事, 同学会編集委員・査読委員, 日本精神保健・予防学会の評議員, 日本精神衛生学会理事および学会誌査読委員, 日本精神神経学会 英文誌 *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, *Psychiatry Research*, *International Journal of Culture and Mental Health*およびAsian Federation of Psychiatric Associations, *Asian Journal of Psychiatry*, のReviewer, 日本精神保健看護学会, 日本ルーラルナーシング学会, 日本看護科学学会和文誌の専任査読委員, さらに, 厚生労働省「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業」の広域アドバイザーを務めた。

石井は, 石井は, 自治医科大学看護学ジャーナ

ルの投稿論文1本の査読を行った。

本看護学部で取り組んでいる「地域ケアスキルトレーニング」については, 半澤は科目責任者として, eラーニングによる高齢者看護・認知症の科目をベーシック・プログラムおよびフォローアップ・プログラムとして実施し, 評価を行った。また, 看護師本学特定行為研修センターの特定行為区分別科目「精神および神経症状に係る薬物投与関連」において, 永井と石井は指導補助として, 指導を担当している。

その他各教員が, 国内外の学会での発表, 学内外の学術雑誌への論文掲載および査読などを担当している。また, 永井を中心に発足して12年目を迎えた北関東精神保健看護研究会は, 年2回の研究会開催を継続しており, 栃木県のみならず北関東の精神科看護職者の情報交換, 看護実践の問題解決の知恵を共有する貴重な機会となっている。

母性看護学

教授 成田 伸

1. スタッフの紹介

教授 成田 伸

教授 野々山未希子

准教授 角川 志穂

講師 望月 明見

助教 北守 美佳（2018年4月1日着任）

取得資格：看護師，助産師，保健師

学歴：富山大学医学部看護学科卒業

職歴：社会福祉法人恩師財団済生会富山県

済生会高岡病院4階病棟勤務（助産師）

助教 二宮美由紀（2018年8月1日着任）

取得資格：看護師，助産師

学歴：栃木県南高等看護専門学院卒業，

自治医科大学看護短期大学専攻科

助産学専攻修了，放送大学卒業

職歴：足利赤十字病院（助産師），

自治医科大学看護学部臨時教員

（母性看護学）

2. 教育の概要

1) 母性看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）（1年次後学期2単位：必修）

成田が担当し，助教の協力を得て実施した。母性看護学の基本概念，母親になっていくプロセス，生殖医療と倫理・法的な問題などを講義した。

(2)周産期実践看護学Ⅰ（2年次後学期1単位：必修）

望月が科目責任者として総括し，妊婦分娩の母子とその家族の健康についての講義，妊婦フィジカルアセスメント技術演習などを成田，野々山，角川，北守，二宮が協力し実施した。子育ての実際に関する学生のイメージ化を図るため乳児と母親に教育支援者として協力してもらい，学生と交流することで効果的な学習ができた。妊婦・産婦のアセスメントには，臨地スタッフや地域助産師に教育支援者として協力してもらい，学生が十分な指導を得られるようにした。

(3)周産期実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

望月が科目責任者として総括し，産褥期・新生児期の母子とその家族の健康について講義し，看

護計画立案のための演習と技術演習を成田，野々山，角川，北守，二宮が協力し実施した。妊産褥婦及び新生児のアセスメントについては，臨地スタッフや地域助産師も教育支援者として加わり指導した。周産期看護実習につながる看護過程については，望月が中心となって実習時の看護展開を意識した看護記録書式の修正と褥婦・新生児の事例を作成したうえで，講義，アセスメントや看護技術の演習，事例展開の演習が連動するように関連させて展開した。

(4)生涯発達看護学概論Ⅵ（4年次前学期1単位：必修）

野々山が科目責任者として担当した。リプロダクティブヘルス・ライツの概念，思春期・性成熟期・更年期各期の健康問題と看護，避妊・性感染症予防，不妊の看護などを講義した。

(5)周産期看護実習（3年次前学期2単位：必修）

成田が科目責任者となり，野々山，角川，望月，北守と臨時教員の二宮が分担して担当した。自治医科大学附属病院，さいたま医療センターそれぞれの産科病棟・産科外来等で実習すると共に，栃木県助産師会が下野市で実施している地域育児支援の活動に参加し，効果的な実習を展開できた。

2) 助産学に関する教育概要

(1)助産学概論（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。成田が科目責任者として全体を総括し，野々山の協力を得て実施した。助産師の概念，助産師活動の概要，助産師の国際活動，海外の母子保健，性と生殖の健康と人権，助産に係る生命倫理などを教授した。人権や生命倫理に関しては，事例に基づき意見交換を行うことで，学生が支援方法を考えることができた。

(2)基礎助産学Ⅰ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。成田が科目責任者として担当し，角川の協力を得て実施した。16名が受講した。助産の基礎となる妊娠・分娩期の生理と病態，胎児の成長と発育，附属物の構造と機能，妊娠・分娩期の正常からの逸脱などについて教授した。

(3)基礎助産学Ⅱ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。成田が科目責任者として担当した。14名が受講した。助産の基礎となる産褥期・新生児期の生理と病態，正常

からの逸脱、ハイリスク新生児などについて教授した。

(4)基礎助産学Ⅲ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。母子と家族の健康に影響を与える要因、母性・父性の発達と家族役割周産期の母子と家族の心理的側面、妊娠・出産に関わる社会文化的側面について教授した。母子と家族の健康と生活、心理・社会的側面に影響を与える要因については、事例をもとにグループワーク及び意見交換をすることで、多角的な視点からのアセスメントについて学ぶことができた。

(5)実践助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生8人に開講し、角川が科目責任者として総括し、妊娠期の助産過程の展開や妊婦のフィジカルアセスメントについて、北守と一緒に講義・演習を展開した。

(6)実践助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生8人に開講し、角川が科目責任者として総括し、野々山、望月、北守と臨時教員の二宮と一緒に分娩期の助産過程の展開や分娩介助に必要な基礎的技術について講義・演習を展開した。分娩介助の演習については、学生が実習予定の施設の臨地指導者に来学いただき、具体的な指導を展開してもらった。

(7)実践助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生8人に開講し、角川が科目責任者として総括し、北守、臨時教員の二宮と一緒に新生児のフィジカルイグザミネーションや産褥期のフィジカルアセスメントについて講義・演習を展開した。

(8)実践地域助産学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生8人に開講し、成田が科目責任者として総括し、地域における助産師の母子保健活動、産褥期の健康教育・保健指導について教授した。地域で活動する助産師の講義も入れることで、様々な場での助産師活動について学ぶことができた。

(9)助産管理学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生8人に開講し、野々山が科目責任者として総括し、助産師の活動に関わる管理の概念と活動、災害時の役割、助産業務と医療事故などについて教授した。

(10)助産学実習（4年次後学期8単位：選択）

助産学生8名が受講したが、修了は7名であった。

成田が科目責任者として総括した。自治医科大学附属病院は学生4名で開始し、主に成田、野々山、二宮とTAとして井野が、さいたま医療センターは学生2名で開始し、主に望月、成田と臨時教員の斎藤が、済生会は学生2名で開始し、主に角川と北守が担当した。分娩期の対象者を受持ち、ケアを展開し、必要な分娩介助件数を達成し、継続ケースのケアを展開した。

3) 母性看護学・助産学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

野々山が分担者としてそれぞれのグループを担当し、レポート作成を指導した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

望月が分担者として1グループを担当し、レポート作成を指導した。

(3)総合実習（4年次前学期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

成田、野々山、角川、望月、北守で母性看護学領域に配置された学生13名を担当し、総合実習でテーマとした内容についてレポートを作成した。フィールドとして、附属病院産科病棟およびNICU、附属さいたま医療センター産科病棟、大野医院を使用し、栃木県助産師会の協力を得た。

(4)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

角川が全体調整を担当し、母性看護学教員、TA、臨床助教の協力を得て実施した。へき地における母子とその家族への支援や、不育症女性への看護について事例を通して講義・演習を行うと共に、日本版新生児蘇生法Bコース（助産学生はAコース）の公認コースなどを開催し、最新知識を教授した。

(5)看護管理学（4年次前学期2単位：必修）

成田が科目責任者として担当し、福田講師、非常勤講師の協力を得て実施した。特に非常勤講師は、附属病院及び埼玉医療センター看護部長等、看護・病院管理の最前線で活躍する方々であり、充実した内容であった。

(6)ジェンダー論（1, 4年次後学期2単位：選択）

成田が科目責任者として担当し、非常勤講師の白井氏の協力も得て、ジェンダーにかかわる多様な社会問題を課題として取り上げ展開した。

3. 研究の概要

1) 成田は、文部科学省科学研究補助金（基盤

- C) による研究課題「助産外来を活用した妊娠糖尿病女性への妊娠分娩産褥期の継続的な支援の介入評価研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は望月で、研究協力者として、松原まなみ、川口弥恵子（元聖マリア学院大学）、富山大学笹野京子、松井弘美、大阪府立大学山田加奈子、獨協医科大学出井陽子の協力を得て実施した。
- 2) 望月は、文部科学省科学研究補助金（挑戦的研究（萌芽））による研究課題「出産後に子育てが必要な女子受刑者への刑務所内支援モデルの開発」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、自治医科大学田村敦子、国際医療福祉大学小池純子、自治医科大学成田伸、連携研究者は、筑波大学大谷保和、筑波大学森田展彰であった。
- 3) 野々山は、厚生労働科学研究費による新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業、「性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究（H30-新興行政一般-004）」（研究代表者：愛知医科大学 三嶋廣繁）に、研究協力者として参加し、「STI予防教育（中高生対称）の標準化と自治体を通じた医療、教育への情報提供強化」研究を実施した。
- 4) 望月は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C）（一般）肝移植後の思春期患者に向けた他職種連携による自立支援プログラムの構築（研究代表者：自治医科大学田村敦子）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- 5) 望月は、厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研事業）の「刑の一部執行猶予制度下における薬物依存者の地域支援に関する政策研究」（研究代表者：国立精神・神経医療研究センター病院松本俊彦）の研究プロジェクトの一部として行われている「更生保護施設における薬物問題のある者の回復過程とその支援に関する研究」（研究代表者：筑波大学森田展彰）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。
4. その他
- 1) 成田は、群馬大学大学院において「ハイリスク状態にある女性への援助とケアシステムー糖尿病を合併した女性と家族への援助」について教授した。
- 2) 角川は、インドネシアから来学した周産期医療関係者に対して、日本の周産期医療・保健の状況について講義を行った。
- 3) 野々山は、母子保健研修センター助産師学校1年課程において、助産診断・技術学「性感染症」について教授した。
- 4) 野々山は、上尾看護専門学校において、成人看護援助論Ⅱ「HIV感染症／AIDSの看護」「STIとその予防」について教授した。
- 5) 野々山は、埼玉県看護協会主催、埼玉県専任教員養成講習会において、専門領域別看護論「母性看護学」について教授した。
- 6) 成田は、日本母性看護学会戦略的プロジェクト担当理事として、日本母性看護学会が主催する周産期・育児期の糖代謝異常に強い看護職育成セミナーを企画・運営し、講師も担当した。
- 7) 成田は、第20回日本母性看護学会学術集会において、戦略的プロジェクト担当理事として、プレコングレスセミナー「周産期の糖代謝異常の考え方と対応」を企画し、講師を務めた。
- 8) 成田は、第38回日本看護科学学会学術集会交流集会において、「専門看護師の存在価値を高める戦略の再考～母性看護臨床実践を変えよう！」を開催した。
- 9) 成田は、第59回日本母性衛生学会総会・学術集会において、一般演題「母性看護教育2」の座長を務めた。
- 10) 野々山は、第31回日本性感染症学会学術大会において、シンポジウム「性感染症感染拡大防止のために」を企画した。
- 11) 野々山は、第31回日本性感染症学会学術大会において、シンポジウム「ライフスタイルに合わせた性感染症予防教育」を企画し、座長を務めた。
- 12) 成田は、日本母性衛生学会誌編集委員会の査読委員を務め、査読を行った。
- 13) 角川は、日本母性看護学会会誌「日本母性看護学会誌」の専任査読委員を務め、査読を行った。
- 14) 角川は、日本母性衛生学会会誌「母性衛生」の査読委員を務め、査読を行った。
- 15) 角川は、栃木県母性衛生学会編集委員長を務め、学会誌の編集を行った。

- 16) 望月は、栃木県母性衛生学会誌「母性衛生」の査読委員を務め、査読を行った。
- 17) 成田は、第59回日本母性衛生学会総会・学術集会の査読委員を務め、査読を行った。
- 18) 成田は、第20回日本母性看護学会学術集会の査読委員を務め、査読を行った。
- 19) 成田は、第38回日本看護科学学会学術集会の査読委員を務め、査読を行った。
- 20) 成田は、第13回ルーラルナーシング学会学術集会の査読委員を務め、査読を行った。
- 21) 野々山は、第31回日本性感染症学会学術大会において、査読を行った。
- 22) 角川は、第59回日本母性衛生学会総会・学術集会の査読委員を務め、査読を行った。

小児看護学

教授 横山 由美

1. スタッフの紹介

教授 横山 由美

講師 田村 敦子

助教 手塚 園江

助教 小西 克恵（2018年4月1日着任）

取得資格：看護師

学歴：自治医科大学大学院看護学研究科博士
前期課程

職歴：自治医科大学附属病院看護師、
自治医科大学看護学部助教

2. 教育の概要

1) 小児看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）（1年次後学期2単位：必修）小児看護学の基本概念，成長・発達，倫理，制度などを学習する。

横山が科目責任者として総括し，田村，手塚が分担して実施した。

(2)小児実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

子どもの健康状態の維持・増進するための援助および日常生活的な健康問題に対するの援助を学習する。

横山が科目責任者として担当し，手塚，小西が分担して実施した。また，臨地教授の朝野が2時間講義を担当した。

(3)小児実践看護学Ⅱ（2年次後学期2単位必修）小児期看護実習につながる小児特有の疾患やその看護ケアについて学習する。

田村が科目責任者として総括し，講義は横山が分担して実施した。演習は，横山，田村，手塚，小西と堀田（臨時教員），石田（臨時教員）で実施した。非常勤講師として医学部精神医学阿部，医学部小児科学小高が2時間ずつ講義を担当した。

(4)小児実践看護学Ⅲ（3年次前学期2単位:必修）

小児期看護実習につながる小児期特有の疾患とその看護ケアおよび継続看護，看護過程の展開などを学習する。

田村が科目責任者として総括し，講義は横山が分担して実施した。演習は，横山，田村，手塚，小西で実施した。非常勤講師として，医学部小児外科学小野，医学部小児科学小高が2時間ずつ

つ，移植外科学水田が1時間の講義を担当した。

(5)小児期看護実習（3年次前学期2単位：必修）健康課題をもつ子どもと親・家族を理解し，看護の展開を学ぶ。

横山が科目責任者として総括した。田村，手塚，小西，堀田（臨時教員），石田（臨時教員）が担当した。

3) 小児看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

横山，田村，手塚，小西が分担者としてグループを担当し，レポート作成を指導した。

(2)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

横山，田村，手塚，小西で小児看護学領域に配置された学生10名を指導した。

(3)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

横山，田村，手塚，小西で小児看護学領域に配置された学生10名を指導した。フィールドとして，自治医科大学とちぎ子ども医療センター2A病棟，3A病棟，4A病棟，PICU，小児外来を使用した。

(4)看護トピックス（4年次後学期1単位:必修）

【小児看護学】では田村が統括し，本学附属病院看護部臨地准教授大海佳子，尾沼恵梨香が一部講義を担当した。

3. 研究の概要

1) 横山は，厚生労働行政推進調査事業費（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）），「学校の療養生活の場における医療的ケア児への質の高い医療的ケアの提供に資する研究」に分担研究者として参加し，同研究を実施した。研究協力者は，本看護学部助教小西，本学附属病院看護部大海佳子，黒田光恵，大阪大学福井小紀子，あすか山訪問看護ステーション田中道子であった。

2) 田村は，文部科学省研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「肝移植後の思春期患者に向けた多職種連携による自立支援プログラムの構築」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本看護学部教員望月，本医学部教員水田耕一であった。

3) 田村は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究(B)）による研究課題，「発達の移行を基盤とした小児慢性特定疾病患者への自立支援型

移行ケア開発と評価」（研究代表者:聖路加国際大学 小林京子）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

- 4) 田村は、文部科学省科学研究補助金（挑戦的研究（萌芽）「子育てが必要な女子受刑者の養育実態とその支援に向けた基礎研究」（研究代表者:望月明見）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

4. その他

- 1) 横山は、東京都保健医療公社 多摩南部地域病院看護部研修で、看護研究の講師を務めた。
- 2) 横山は、大沢中学校区児童生徒健全育成協議会で講師を務めた。
- 3) 横山と博士前期課程の飯島、川上、谷崎は那須塩原市立三島小学校の学校保健委員会で児童、生徒を対象に健康教育を行った。
- 4) 横山、田村、手塚、小西は自治医科大学周産期総合医療センターNICUで、退院後の育児、相談や親同士の交流を目的に月1回行っている「すくすくクラブ」の会誌の原稿執筆を行った。
- 5) 横山は、日本小児看護学会誌専任査読者を務めた。
- 6) 横山は、聖路加看護学会誌の査読委員を務めた。
- 7) 手塚は、自治医科大学とちぎ子ども医療センターで教育グループの委員を務めた。

成人看護学

准教授 佐藤 幹代

1. スタッフの紹介

准教授 佐藤 幹代

准教授 長谷川 直人

講師 中野 真理子

講師 藤巻 郁朗

講師 古島 幸江

助教 佐々木 彩加

助教 渡邊 賢治（2018年4月1日着任）

取得資格：看護師 保健師

学歴：修士（看護学）2014年3月取得

千葉大学看護学研究科

職歴：千葉大学医学部附属病院（看護師）

東京女子医科大学看護学部（教員）

2. 教育の概要

成人看護学の教育目標は、健康危機あるいは長期的な療養を要するさまざまな健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培うことである。

1) 成人看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）（1年次後学期2単位：必修）

佐藤が12時間、長谷川が10時間、中野、藤巻、古島が各2時間の講義を担当した。

(2)成人実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

佐藤が8時間、長谷川が2時間、中野が6時間、藤巻が4時間、古島が4時間、佐々木が4時間の講義を担当した。

(3)成人実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

講義は、佐藤が2時間、中野が4時間、古島が8時間を担当した。演習14時間は、佐藤が全体を統括し、成人看護学全教員が担当した。演習企画主担当：佐藤（看護過程8時間）、佐藤・渡辺（手術療法2時間）、中野（呼吸機能障害2時間）、古島（循環機能障害2時間）。

(4)成人実践看護学Ⅲ（2年次後学期1単位：必修）

講義は、佐藤が2時間、長谷川が6時間、渡邊が4時間を担当した。演習2時間は、長谷川が全体を統括し、成人看護学全教員が担当した。演習企画主担当：長谷川（内部環境調節機能障害2時間）。

(5)成人実践看護学Ⅳ（2年次後学期1単位：必修）

講義は、長谷川が2時間、藤巻が8時間、佐々木

が4時間を担当した。演習14時間は、長谷川が全体を統括し、成人看護学全教員が担当した。演習企画主担当：長谷川（看護過程10時間）、藤巻（運動機能障害2時間）、佐々木（感覚機能障害2時間）。

(6)成人期継続療養看護実習（2年次後学期2単位：必修）

佐藤が全体統括し、非常勤教員とともに2クール（4週間）を担当した。ほか、成人看護学全教員が2クールを担当した。

(7)成人期健康危機看護実習（3年次前学期2単位：必修）

佐藤が全体を統括し、科目責任者中野が5クール、藤巻、古島が各3クール、佐々木、渡邊が各2クールを担当した。

(8)成人期長期療養看護実習（3年次前学期2単位：必修）

佐藤が全体を統括し、科目責任者長谷川が5クール、佐々木、渡邊が各3クール、藤巻、古島が各2クールを担当した。

2) 成人看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

長谷川、藤巻、佐々木、渡邊はグループ別セミナーを担当した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

佐藤は科目責任者として全体を統括し、6時間の講義とグループ別セミナーを担当した。中野、古島はそれぞれ2時間の講義とグループ別セミナーを担当した。

(3)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

佐藤が全体を統括し、成人看護学全教員が計19名の学生を指導した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

佐藤が全体を統括し、成人看護学全教員が学生19名を指導した。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

中野が全体を統括し、企画運営を担当した。佐藤が2時間の講義を担当した。他、成人看護学教員全員が学生を指導した。

(6)チーム医療論（2年次後学期1単位：必修）

佐藤が2時間の講義担当と全体を統括し、科目責任者の中野が4時間、藤巻が4時間、古島が2時間、佐々木が2時間の講義を担当した。

(7)へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：

選択)

古島は国内のグループ別研修指導、佐々木は国外研修指導を担当した。

3. 研究の概要

- 1) 佐藤は、文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(B)）による研究課題「慢性の痛み語りデータベース構築と生活の再構築に関する研究」の研究代表者として、同研究を下記研究者らと共同し、データベース構築を行い、アウトリーチとして公開シンポジウムを実施した。研究分担者は、聖路加国際大学 高橋奈津子准教授、札幌医科大学保健医療学部看護学科 城丸瑞恵教授であった。研究協力者は、特定認定NPO法人—佐藤（佐久間）りか、射場典子、別府宏暎らであった。
- 2) 佐藤は、文部科学省:科学研究費補助金（基盤C）による、「患者参画による患者の病い体験を尊重できる医療者育成のためのウェブサイト構築と評価」（研究代表者：東京情報大学 森田夏実）に、研究協力者として参加し、共同研究を実施した。
- 3) 佐藤は、文部科学省:科学研究費補助金（基盤C）による、「患者・医療者・研究者共同による乳がん患者の手術後退院支援モデルの構築」（研究代表者：札幌医科大学保健医療学部看護学科 城丸瑞恵教授）に、分担研究者として共同研究を実施した。
- 4) 長谷川は、「看護師特定行為研修「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の研修成果分析—講義科目内容の妥当性および実習科目との連動性の検討—」の研究を代表者として実施した。共同研究者は、本学医学部教員の石橋俊、岡田健太、本学附属病院看護部の馬場千恵子、本学看護師特定行為研修センターの村上礼子であった。
- 5) 古島は、平成30年度自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「看護学生の自己決定型学習を促進する学習環境の構築：ラボ室運営に関する探索的研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、本学看護学部教員 渡邊賢治、八木街子、鹿野浩子、本学附属病院看護部 笠野佳代子であった。
- 6) 古島は、文部科学省科学研究費助成事業挑戦

的研究（萌芽）による研究課題「術後ドレーン排液の色指標の創出とその臨床応用を目指した挑戦的取組み」（研究代表者：慈恵会医科大学 中村美鈴）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

- 7) 佐々木は、文部科学省科学研究費助成事業（若手研究(B)）による研究課題「看護学生におけるレジリエンスと脳腸相関との関連性について」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。
- 8) 佐々木は、文部科学省科学研究費助成事業挑戦的研究（萌芽）による研究課題「術後ドレーン排液の色指標の創出とその臨床応用を目指した挑戦的取組み」（研究代表者：慈恵会医科大学 中村美鈴）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 9) 渡邊は、平成30年度自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「看護学生の自己決定型学習を促進する学習環境の構築：ラボ室運営に関する探索的研究」（研究代表者：古島幸江）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 10) 渡邊は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(A)）による研究課題、「市民と専門職で協働する日本型対話促進ACP介入モデルの構築とエビデンスの確立」（研究代表者：東京女子医科大学 長江弘子）の研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- 11) 渡邊は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(B)）による研究課題、「「独り暮らし」高齢者の在宅死を可能にする訪問看護モデルの有効性の検証」（研究代表者：関西医科大学 水野敏子）の研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- 12) 佐藤は、研究代表者として、研究課題「「慢性の痛みをもつ人と家族の語り」ウェブサイト評価と医療者教育導入に向けた研究」文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）に申請したが、採択されなかったため、同研究は計画にとどまり、実施されなかった。

4. その他

- ・佐藤は、日本保健医療社会学会 第45回大会の事務局長として大会運営に参加した。
- ・佐藤は、日本保健医療社会学会 研究活動委員

を務めた。

- ・佐藤は、日本クリティカルケア看護学会専任査読委員を務めた。
- ・佐藤は、認定NPO法人 健康と病いの語り ディパックス・ジャパンの運営委員として参与した。
- ・佐藤は、第49回（平成30年度）日本看護学会－慢性期看護－論文選考委員として4編の選考を行った。
- ・栃木県看護協会主催、実習指導者講習会の実習指導に関する科目で、古島が講師、佐々木が講義補佐として受講者を指導した。
- ・長谷川は、日本看護科学会若手研究推進委員を務めた。
- ・長谷川は、日本糖尿病教育・看護学会誌の専任査読者を務めた。

老年看護学

准教授 浜端 賢次

1. スタッフの紹介

准教授 浜端賢次

准教授 川上 勝

講師 清水みどり

2. 教育の概要

老年看護学では、様々な生活の場・療養の場で、あらゆる健康レベルの高齢者とそれを取り巻く環境を対象として、看護を実践するために必要な専門的能力を養うことを教育目標としている。

1) 老年看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論IV（老年期）

（1年次後学期2単位：必修）

高齢者看護学の概念及び歴史、高齢期にある人の身体的・精神的・社会的側面の特徴の理解を目的とした。高齢期にある人のライフヒストリーの特徴と看護の役割についても学習できるように配慮した。さらに、臨床の場における看護の実際が理解できるよう、2名の非常勤講師（船田淳子氏、鮎澤みどり氏）の講義を組み込んだ。船田氏は病院の退院調整部門、鮎沢氏は訪問看護ステーションの立場から講義を展開した。

(2)老年実践看護学Ⅰ

（2年次前学期1単位：必修）

高齢者の生活、および高齢者ケアシステムと保健問題に関わる看護の役割の理解を目的とした。高齢者の健康特性や健康評価を基盤として、家族の機能・役割、保健医療福祉施策と社会資源などが理解できるように講義を展開した。さらに、在宅療養とケアマネジメントを理解する目的で、鮎澤みどり非常勤講師による事例紹介等を講義に組込んだ。

(3)老年実践看護学Ⅱ

（2年次後学期2単位：必修）

加齢により生じる様々な健康段階の理解や高齢者のエンパワメントを生み出す看護援助方法について学ぶことを目的とした。高齢者の紙上事例を用いた看護過程や倫理的課題の演習等を取り入れた。また、臨床の場の看護

の実際が理解できるよう、太田信子臨床講師、築瀬順子臨床講師、栗原日登美臨床講師、安西典子臨床講師、湯沢伸子臨床講師による講義を組込んだ。

(4)老年実践看護学Ⅲ

（3年次前学期1単位：必修）

老年看護学の理論や知識を踏まえた看護技術の習得を目的とし、臨床実習での実践につながる摂食嚥下障害、皮膚障害、排泄・移動障害に対する看護について講義・演習を展開した。また、認知症高齢者や終末期にある高齢者への援助技術について講義した。

(5)老年臨床看護実習

（3年次前学期2単位：必修）

清水は科目責任者として全体を統括した。附属病院および介護老人保健施設において、疾病や障害をもつ高齢者を対象に看護を展開した。

(6)老年在宅看護実習

（3年次後学期3単位：必修）

浜端は科目責任者として全体を統括した。県内の訪問看護ステーション12施設及び通所リハビリテーション施設2施設において、在宅療養者とその家族の支援について看護を展開した。

2) 老年看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー

（1年次前学期1単位：必修）

浜端は石井容子助教と8名の学生を、川上は横山絢香助教と8名の学生を担当した。

(2)文献講読セミナー

（2年次前期1単位：必修）

清水は8名の学生を担当した。

(3)看護総合セミナー

（4年次後学期4単位：必修）

10名の学生を対象に、看護実践課題に沿った先行研究の文献検討、総合実習に向けた計画書の作成および実践に基づくレポート作成に向けた指導を行った。各教員2～4名の学生

を担当した。

(4)総合実習

(4年次前学期2単位：必修)

10名の学生のテーマに合わせて実習場および対象者を選択し、実践内容が目的に沿うよう随時指導した。(担当：全教員)

(5)看護トピックス

(4年次後学期1単位：必修)

9名の学生を対象に、高齢者を取り巻く保健医療の現状と課題や、「保健医療2035」を参考に将来の保健医療のあり方を検討し、共有した。(担当：全教員)

3. 研究の概要

- 1) 浜端は、文部科学省研究助成金（基盤研究(C)）による研究課題「認知症高齢者地域包括ケア病棟に入院する認知症高齢者を支援する多職種専従チームの開発」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は筑波大学 春田淳志、東北福祉大学 宮林幸江であった。
- 2) 浜端は、文部科学省研究助成金（基盤研究(C)）による研究課題「活動量計を用いた患者の術後の身体活動の実態及びモデル構築」（研究代表者：文京学院大学 鹿原幸恵）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 3) 浜端は、AMED：平成30年度長寿科学研究開発事業による研究課題「長期滞在型高齢者福祉施設における効率的な感染対策プログラムの開発」（研究代表者：自治医科大学医学部 笹原鉄平）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。共同研究者は、自治医科大学医学部 畠山修司、崔龍洙、阿江竜介であった。
- 4) 浜端は、「地域におけるケアの満足感に関する質的検討」（研究代表者：小谷和彦）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 5) 川上は、文部科学省科学研究助成金（基盤研究(C)）による研究課題「部位別体動の検知に基づく認知症高齢者の起上り予測法の確立と次世代見守り装置の開発」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は宇都宮大学 尾崎功一であった。

- 6) 川上は、科学技術振興機構による社会還元加速プログラム（SCORE）の「介護対象者見守り支援サービスの事業化に向けた臥床者体動情報収集システムの開発」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。

4. その他

- 1) 浜端は、平成30年度の1年間「生活支援体制整備事業に係る下野市第1層協議体」（下野市）において、議長を担当した。
- 2) 浜端は、1月に福祉講座「老いと健康 認知症とどのように向かい合うのか」（千葉県船橋市身体障害者福祉協会主催）において、講義を2時間担当した。
- 3) 浜端は、7月に下野市講座「市民で支え合う超高齢社会 日本中の支え合いのいろいろ～その多様性～」(下野市主催)において、講義を2時間担当した。
- 4) 浜端は、7月に平成30年度自治医科大学公開講座「地域住民と多職種で取り組むフレイル対策」において、講義を1時間担当した。
- 5) 浜端は、8月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会「保健・医療・福祉サービス提供組織のしくみ」（栃木県看護協会主催）において、講義・演習を6時間担当した。
- 6) 浜端は、11月に栃木県実習指導者講習会特定分野「臨地実習における教育支援方法」（栃木県看護協会主催）において、講義を3時間担当した。
- 7) 浜端は、11月に第28回関東甲信越静性教育研究大会において、分科会（老年期における取り組み）において、助言者を務めた。
- 8) 川上は、JAかみつが厚生連 上都賀総合病院看護部職員を対象に看護研究全般について指導を行った。
- 9) 川上は、6月に実習指導者養成講習会「実習指導の原理」（栃木県看護協会主催）において、講義を6時間担当した。

大学院看護学研究科 教育の概要

実践看護学分野「小児看護学領域」

教授 横山 由美

1. スタッフ紹介

教授 横山 由美

2. 大学院教育の概要

小児看護学は、さまざまな健康状態にある子どもがよりよく育つことを目的に、子どもとその家族への看護の現状と将来的な展望を踏まえ、専門的な知識や研究課題を探究するとともに、高度な看護実践能力を育み、小児看護の充実と発展に寄与する人材の育成を教育目標としている。

平成30年度は、博士前期課程では、研究を主体とする課程の2年次1名、専門看護師過程1年次1名、2年次1名の教育を行った。博士後期課程では3年次1名、2年次1名の教育を行った。

院生の状況を配慮しつつ、ティーチングアシスタントとして、小児看護学の講義・演習・実習・セミナー等の補助を通して、教育方法について指導した。

1) 小児看護学講義Ⅰ（1年次前期2単位）

子どもを理解するために、成長発達、生活、社会的・歴史的側面から、主要な看護理論や最近の知見について学ぶ。1年次1名が履修した。

2) 小児看護学講義Ⅱ（1年次前期2単位）

子どもの健康レベルや状況に応じたケアについて考えを発展させるために、小児看護における重要な理論や最近の知見について学ぶ。1年次1名、2年次1名が履修した。

3) 小児看護学講義Ⅲ（1年次後期2単位）

ケアシステム、ケアマネジメント、社会資源の活用などを踏まえて、小児看護専門職として必要な機能（実践・コンサルテーション・コーディネーション・教育・倫理的問題への対処）の側面から、小児看護の現状を分析し、小児看護専門看護職の課題及び役割について理解する。2年次1名、1年次1名が履修した。

4) 小児看護学演習Ⅰ（1年次後期2単位）

保健医療・福祉・教育との関連において小児看護を理解し、看護の役割・活動について学ぶ。1年次1名、2年次1名が履修した。

5) 小児看護学演習Ⅱ（1年次後期2単位）

専門的な小児看護実践に活用できるヘルスアセスメントの能力を修得する。1年次1名が履修した。

横山が科目責任者として総括し、非常勤講師の医学部教員河野、熊谷が分担者として担当した。

6) 小児看護学演習Ⅲ（1年次後期2単位）

事例を用いて小児看護実践における課題および高度実践看護師としての援助について検討する。2年次1名、1年次1名が履修した。

7) 小児看護学演習Ⅳ（2年次前期2単位）

小児期に特有な疾患の診断と治療のプロセスについて学ぶ。2年次1名が履修した。横山が科目責任者として総括し、非常講師として医学部阿部2時間、河野2時間、熊谷10時間、村松8時間、関4時間、小児看護専門看護師の黒田2時間、村山2時間が分担者として担当した。

8) 小児看護専門看護実習Ⅱ（2年次後期2単位）

高度医療の場において、発達段階各期の子ども特有の疾病の診断および治療のプロセスについて実践を通して学び、小児看護専門看護師として自立した活動を行うためにそれらを活用する能力を修得する。横山が科目責任者として総括し、非常勤講師として医学部河野、熊谷、村松、関が分担者として担当した。2年次1名が履修した。

9) 小児看護学特別演習（2年次前期4単位）

小児看護における現状を分析して課題を見出し、改善・改革の方法について明らかにする。2年次1名が履修した。横山が科目責任者として担当し、非常勤講師の戈木クレイグヒル滋子が分担者として担当した。

10) 実践看護学特別研究（2年次後期6単位）

実践看護学の対象となる人々へのケアの改善・改革に関連する研究課題を設定し、修士論文を作成する。3年次1名が履修し修士論文として提出した。研究指導教員として横山が担当した。

3. その他

横山と博士前期課程の飯島、川上、谷崎は那須塩原市立三島小学校の学校保健委員会で児童、生徒を対象に健康教育を行った。

実践看護学分野「母性看護学領域」

教授 成田 伸

1. スタッフ紹介

教授 成田 伸

教授 野々山 未希子

准教授 角川 志穂

2. 大学院教育の概要

1) 博士前期課程専門科目に関する教育概要

平成30年度は、専門看護師教育課程を希望する1名を含め、3名について1年次の教育を行った。

前期に成田が科目責任者を担当する母性看護学講義Ⅰおよび母性看護学演習ⅠⅡ、後期には、成田が科目責任者を担当する母性看護学講義Ⅲおよび母性看護学演習Ⅳ、野々山が科目責任者を担当する母性看護学講義Ⅱおよび母性看護学演習Ⅲを、角川が一部の単元を担当し、また非常勤講師による臨地講義を活用して実施した。

講義・演習・セミナーを通じて院生が課題研究に向けての課題検討を行い、研究構想発表会において発表した。

2) 博士後期課程の教育概要

成田は、博士後期課程については、広域実践看護学特論Ⅰおよび広域実践看護学演習〈看護教育・看護管理〉の科目担当者として講義・演習を展開した。

成田は、博士後期3年目の西岡啓子、1年目の出井陽子の研究計画立案に向けて指導を行なった。西岡は、研究テーマを「生殖補助医療を受療する場における女性の体験」とし、研究審査会を受審・承認を得て、倫理審査委員会に対して倫理審査申請を行い、研究実施の承認を得て、研究を開始した。

実践看護学分野 「クリティカルケア看護学領域」

准教授 佐藤 幹代

1. スタッフの紹介

准教授 佐藤 幹代

2. 教育の概要

主として身体的な健康危機状態にある患者とその家族を全人的に捉え、苦悩・苦痛を緩和し、危機的状态からの健康の回復と生活への適応に向けて専門的に看護をするために、状況に応じた総合的な判断力と組織的な問題解決能力を備えた高度な看護実践者を育成する。

また、2018年度は、高度実践看護師教育課程について、26単位から38単位に移行し4年目を迎え、2年次生2名が在籍し、2年次生2名が38単位の教育課程を履修している。

1) クリティカルケア看護学に関する教育概要
<38単位教育課程の教育>

- (1)クリティカルケア看護学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修・選択）
- (2)クリティカルケア看護学講義Ⅱ（1年次前学期2単位：必修・選択）
- (3)クリティカルケア看護学演習Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）
- (4)クリティカルケア看護学演習Ⅱ（1年次前学期2単位：必修）
- (5)クリティカルケア専門看護実習Ⅰ（1年次後学期2単位：選択必修）
- (6)クリティカルケア看護学講義Ⅲ（1年次後学期2単位：必修・選択）
- (7)クリティカルケア看護学演習Ⅲ（1年次後学期2単位：必修）
- (8)クリティカルケア看護学演習Ⅳ（1年次後学期2単位：必修）

以上の科目は該当者なしのため開講しなかった。
(9)クリティカルケア看護学課題研究（2年次前・後学期4単位：選択必修）

今年度の担当はなかった。

- (10)クリティカルケア専門看護実習Ⅱ（2年次前・後学期4単位：選択必修）

高度医療施設において、5月～6月の期間に実施し、2名が履修した。実習場所は、自治医科大学

で実施した。4単位は佐藤が科目を担当し、中村美鈴非常勤講師（東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授、自治医科大学看護学部客員教授）も、カンファレンス3時間を担当した。

また、大柴幸子（本学付属病院看護部長・臨床教授）、亀田美智子（本学学付属病院看護部副部長・臨床准教授）らは、実習の相談・調整をおこない、茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院・ICU看護師長・急性重症患者専門看護師看護師・臨床講師）、神山淳子（本学付属病院CCU・臨床講師）、福田侑子（本学付属病院ICU・急性重症患者専門看護師看護師）らは、実践指導およびカンファレンスの指導に当たった。

- (11)クリティカルケア専門看護実習Ⅲ（2年次前・後学期4単位：選択必修）

高度医療施設において、6月～8月の期間に実施し、2名が履修した。実習場所は、自治医科大学で実施した。4単位は佐藤が担当し、非常勤講師中村美鈴（東京慈恵会医科大学 医学部看護学科教授、自治医科大学看護学部客員教授）も、カンファレンス1.5時間を担当した。

また、大柴幸子（本学付属病院看護部長・臨床教授）、亀田美智子（本学学付属病院看護部副部長・臨床准教授）らは、実習の相談・調整をおこない、茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院・ICU看護師長・CNS・臨床講師）、神山淳子（本学付属病院・ICU・臨床講師）、福田侑子（本学付属病院・ICU・CNS・看護師）、らは、実践指導およびカンファレンスの指導に当たった。

- (12)クリティカルケア看護学特別演習（2年次前・後学期4単位：選択必修）

佐藤が60時間講義、演習を担当した。

実践看護学分野「精神看護学領域」

教授 半澤 節子

1. スタッフの紹介

教授 永井 優子

教授 半澤 節子

2. 教育の概要

精神看護学は、人間の生涯にわたる精神的健康の増進から重度の精神障害者の支援までを行う精神看護における高度な実践専門職として役割を果たすことができ、実践状況を改革できる人材の育成を目指している。

平成30年度は精神看護学に関する専門科目の履修登録した院生は2名であり、このうち1名は専門看護師を目指す履修モデル、もう1名は標準の履修モデルである。

平成30年度に開講した科目は、精神看護学講義Ⅰ、精神看護学講義Ⅱ、精神看護学講義Ⅲ、精神看護学演習Ⅰ、精神看護学演習Ⅱ、精神看護学演習Ⅲ、精神看護専門看護実習Ⅰであった。

【精神看護学講義Ⅰ（1年次前期）】

講義Ⅰの授業目標は、国内外の精神保健医療福祉の歴史と法制度及び精神看護実践の発展過程について理解し、高度看護実践の役割を検討することである。1年生2名が履修した。

【精神看護学講義Ⅱ（1年次前期）】

講義Ⅱの授業目標は、精神看護において卓越した働きかけに必要な対人関係論、セルフケア理論など最新の知識とエビデンスベースの実践との関連を理解し、看護実践の課題を検討することである。1年生2名が履修した。

【精神看護学講義Ⅲ（1年次後期）】

講義Ⅲの授業目標は、最新の精神科薬物療法を中心とした精神科治療と精神科診断に関する知識と理論について理解し、看護実践との関連を検討することである。1年生2名が履修した。

【精神看護学演習Ⅰ（1年次前期）】

演習Ⅰの授業目標は、メンタルヘルス・イグザミネーション、精神力動などに関するアセスメント、リスクマネジメントなどの精神・身体状態の

評価について演習を通して理解することである。1年生2名が履修した。

【精神看護学演習Ⅱ（1年次後期）】

演習Ⅱの授業目標は、精神療法、認知行動療法、集団療法などについて演習し、複雑な背景や問題を持つ精神障害者のリカバリーにつながる看護実践上の課題を検討することである。1年生2名が履修した。

【精神看護学演習Ⅲ（1年次後期）】

精神看護において卓越した働きかけに必要な援助方法、精神看護倫理と精神科ケアマネジメントおよびインタープロフェッショナルワークに関する知識と技術について演習し、看護実践上の課題を検討することである。1年生2名が履修した。

【精神看護専門看護実習Ⅰ（1年次後期）】

実習Ⅰの授業目標は、専門看護師の役割機能と医療施設の間接ケアを中心に実習を通して検討することである。専門看護師を目指す履修モデルの1年生1名が履修した。

実践看護学分野「がん看護学領域」

教教授 本田 芳香

1. スタッフの紹介

教授 本田 芳香

教授 小原 泉

2. 教育の概要

がん看護学領域は、平成19年度に文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」において、本学の取り組みである「全人的ながん医療の実践者養成」が採択された。本学大学院看護学研究科において、平成20年度より高度専門看護職に求められる看護実践能力の育成強化を教育課程の特徴とする実践看護分野に、がんの急性期から終末期に至る様々な健康状態にある患者とその家族に対して、看護実践を提供するための実践理論とその方法を系統的に教授するがん看護学領域を開講した。本領域ではがん看護における専門的知識や研究課題を探究するとともに、がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し、苦痛や苦悩を緩和し、生活の質の向上を目指した高度な看護実践のできるがん看護のスペシャリストを育成する。平成22年に専門看護師教育課程（28単位）の認定を受け、平成26年には、博士前期課程の教育課程として改編し、38単位の専門看護師教育課程の認定を受けた。

1) がん看護学に関する教育概要

平成30年度入学者はいなかった。平成29年度入学者1名は、がん看護専門看護実習Ⅰ、がん看護専門看護実習Ⅱ及びがん看護学特別研究を受講した。

【がん看護専門看護実習Ⅰ】（2年次前期）6単位

がん患者と家族に継続的かつ質の高い緩和ケアを提供する病棟、外来など様々な場において、専門看護師の役割・機能の実際、および高度な看護実践・教育・相談・調整・倫理調整の実際を通して、創造的ながん看護ケア開発の方法を理解することを到達目標とした。がん看護専門看護実習Ⅰは、緩和ケア専門実習、CNS役割開発実習、上級実践がん看護実習の3つに分けて科目目標を達成するためにがん看護専門看護師のスーパーバイズを受けながら実施するよう実習体制を組んだ。評価方法は、実習記録などを含むレポート評価およ

び実習評価基準に基づき、自己評価、実習指導者による他者評価、教員による総合評価で評価をおこなった。本田、小原が担当した。

【がん看護専門看護実習Ⅱ】（2年次後期）4単位

がんの診断・治療に伴う臨床判断に基づいた身体管理方法の実際を通して、複雑な健康課題をもつがん患者およびその家族にケアとケアを統合した看護ケア開発について理解することを到達目標とした。主に外来および病棟でがん化学療法を受け症状緩和のための身体管理を要する患者を複数担当し、医師による臨床判断の内容や身体管理の方法を学ぶとともにがん看護専門看護師のスーパーバイズを受けながら実施する実習体制を組んだ。

評価方法は、実習記録を含むレポート課題および実習評価基準に基づき自己評価、実習指導者による他者評価、教員による総合評価にて評価を行った。小原、本田が担当した。

【がん看護学特別研究】（2年次後期）4単位

がん看護学領域における新たな知見を探索するため、研究課題に沿い科学的根拠に基づいた研究方法を用いて研究論文を作成することを到達目標とした。院生は1年次より自治医科大学シンポジウム、合同研究セミナー等により研究課題を絞りこみ臨床実践に寄与するための研究論文を作成した。評価方法は、一連の研究プロセスおよび成果物を総合的に評価した。小原が担当した。

2) その他 看護学部教育に関連する教育概要

(1)がん看護学に関連する教育概要

がん看護学（2年次後期科目1単位：選択）の科目責任者を小原が務めた。学習目的は、対象ががんを患う意味と、生命・生活への支障・影響を理解し、対象とその家族に必要な看護を学習することである。がんの特徴やがん治療の特徴、各健康時期（診断期から終末期に至るまで）のがん患者とその家族への看護の実際、がんに伴う症状（痛み、リンパ浮腫、倦怠感等）が生活・生命に与える影響と必要な緩和ケアについて、主に講義形式で授業をすすめた。またがん体験者によるがんと共に生きる患者の生活の理解についてがん体験者による講義も行った。授業は、科目責任者は小原、他5名の非常勤講師、教育支援者1名が担当した。

(2)がん看護学以外の担当教育概要

本田、小原は、基礎看護学関連科目（主に1年、

2年次，4年次）11科目，他総合分野として，看護基礎セミナー（1年次前期科目1単位：必修）では，7～8名の学生を対象にセミナー形式ですすめていった。総合実習（4年次前期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後期科目6単位：必修）は，19名の学生を対象に前期の一部は全員にて文献検討をおこない，その後研究テーマ別に10名と9名のグループに分かれ，グループ指導および個別指導をおこなった。

地域看護管理学分野
「老年看護管理学領域」

准教授 浜端 賢次

1. スタッフの紹介

准教授 浜端 賢次

准教授 川上 勝

2. 教育の概要

老年看護学の教育活動は、高齢者の特徴や発達課題などを踏まえ、健康課題や倫理的課題などから老年看護管理の課題について追求する。そして、高齢者の生活や保健行動の視点から、心身機能の保持・回復に関わる専門的ケア提供体制や健康生活への支援などを検討できる人材の育成を目指している。

平成30年度は、老年看護管理学の専門科目を履修登録した院生はいなかった。そのため、開講された科目はなかった。

地域看護管理学分野 「地域看護管理学領域」

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗

教授 塚本 友栄

2. 教育の概要

地域看護管理学の履修者は、1年生は2名、2年生は2名（3年目が2名）で1年生1名及び2年生が長期在学制度を利用している。

地域看護管理学では、地域特性に応じた政策立案や地域資源づくり、地域ケア体制づくり、その他の地域看護管理に関わる知識や技術を教授し、地域ケアの現場において管理的・指導的役割を担い、地域のニーズに合った看護サービス提供システムを改善・改革・創出できる人材育成を目指した教育活動をしている。今年度の開講科目は「地域看護管理学講義Ⅰ」（2単位，春山・塚本担当），「地域看護管理学講義Ⅱ」（2単位，春山担当），「地域看護管理方法Ⅰ」（2単位，塚本・春山・非常勤講師担当），「地域看護管理方法Ⅱ」（2単位，春山・塚本担当），「地域看護管理学演習」（4単位，塚本・春山担当），「地域看護学特別演習」（4単位，春山・塚本担当），「地域看護管理学特別研究」（6単位）であった。

【地域看護管理学講義Ⅰ・Ⅱ】

講義Ⅰの授業目標は、文献検討や近年の地域看護活動の課題の検討を通して、地域看護管理に係る主要概念、地域における看護活動体制づくりの理論と考え方、地域資源の評価と開発に関わる看護活動について学修することである。1年生2名が履修した。

講義Ⅱの授業目標は、文献抄読により、へき地に住む人々のヘルスニーズと地域診断の視点、へき地看護理論の基礎、へき地看護活動の展開方法と看護管理体制のあり方について学修することである。1年生2名及び科目等履修生1名が履修した。

【地域看護管理方法Ⅰ・Ⅱ】

方法Ⅰの授業目標は、実践事例や先行研究の知見から地域連携体制の構築や地域看護管理活動の展開方法、施策化に関わる看護専門職の役割と看

護活動の展開方法について検討することである。1年生2名が履修した。

方法Ⅱの授業目標は、山間へき地や離島、豪雪地帯における実践事例や国内外の文献を検討し、へき地における看護活動発展のための方法を考えることである。1年生2名が履修した。

【地域看護管理学演習】

授業目標は、地域特性とヘルスニーズの分析から、地域における看護提供体制を評価検討し、看護管理に関する改善・改革の課題を明らかにすることである。1年生2名が履修した。授業目標に関連した目標を学生自身が立て、県内の1市、1保健所、訪問看護ステーション2か所において実習を実施した。

【地域看護管理学特別演習】

授業目標は、地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための研究的アプローチを検討し、研究を計画することである。2年生1名が履修予定であったが、履修に至らなかった。

【地域看護管理学特別研究】

春山が2年生1名の研究指導を行った。

修士論文のテーマは「病院から初めて在宅に移行した医療的ケア児の母親の在宅移行後1ヶ月間の体験」であった。

地域看護管理学分野 「看護技術開発学領域」

教授 村上 礼子

1. スタッフの紹介

教授 村上 礼子
准教授 里光 やよい
講師 福田 順子
講師 八木 街子

2. 教育の概要

看護技術開発学の履修者は、1年生1名、2年生1名である。

看護技術開発学では、地域ケア・医療現場における特定行為を含めた看護技術の安全かつ有効な開発および、特定行為研修を含めた看護技術教育に必要な知識・技術を教授し、地域ケア・医療現場において管理的・指導的役割を担い、より質の高い看護ケアや看護サービスを提供するための看護技術を開発・改善できる人材を育成する。

1) 看護技術開発学に関する教育概要

(1)看護技術開発学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

講義Ⅰでは、看護技術の概念および特徴、ならびに安全かつ有効な特定行為を含めた看護技術の開発に関する研究の動向を理解することを到達目標とした。1年生1名が履修した。村上と里光が担当した。

(2)看護技術開発学講義Ⅱ（1・2年次後期2単位：必須）

講義Ⅱは、特定行為研修を含めた看護技術教育の実際および理論的根拠に基づいた看護技術教育のあり方について理解することを到達目標とした。1年生1名が履修した。村上と里光が担当した。

(3)看護技術開発学演習Ⅰ（1年次前期4単位：必須）

演習Ⅰでは、看護技術開発のプロセスおよび看護技術開発研究における倫理的課題を明確にし、特定行為研修を含め看護技術開発に活かせる課題や特定行為研修後のフォローアップまでを見据えた看護技術教育の研究課題を探究することを到達目標とした。1年生1名が履修した。村上、里光、福田、八木が担当した。

(4)看護技術開発学演習Ⅱ（1・2年次後期4単位：

必須）

演習Ⅱでは、看護技術開発で用いられるさまざまな研究方法を実践的に検討するとともに、看護技術開発研究における改善・改革に向けた研究方法上の課題を探究することを到達目標とした。授業目標に関連した目標を学生自身が立て、特定行為研修の1科目の演習・実習を実施した。1年生1名が履修した。

村上、里光、福田、八木が担当した。

(5)看護技術開発学特別演習（2年次前期4単位：必須）

特定行為を含め看護技術開発に関する事故の研究疑問について文献や系統的レビューを行い、事項の研究課題の明確化及び研究計画を検討することを到達目標とした。2年生1名が履修した。文献検討、ならびに学生自身の研究テーマと関連させて、ゼミと個別指導により、研究計画を洗練した。

3. 研究の概要

1) 村上は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題「特定行為研修修了看護師がチーム医療の中で機能する組織体制づくりの支援に関する研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。分担研究者は、八木、特定行為研修センター 鈴木美津枝、本学部教員 川上、本学医学部教員 浅田義和、中村剛史であった。

2) 八木は、文部科学省科学研究補助金（若手研究(B)）による研究課題「医療安全教育のためのeラーニングデータベース開発研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。

3) 八木は、本学部共同研究費「特定行為に係る看護師の研修に関する修了生所属施設での受講ニーズ調査」の研究代表となり、村上、看護師特定行為研修センター 教員 鈴木美津枝、附属病院 渡井恵、さいたま医療センター 菅野一枝とともに実施した。

4) 村上と八木は、本学部共同研究費「看護師特定行為研修のチーム医療の学びについて - 特定行為基礎実習Ⅱの課題レポートから -」（研究代表：鈴木美津枝）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。

5) 八木は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題「事前学習用eラーニングを活用した脳神経科シミュレーションプログラムの有効性の検証」（研究代表：益田美津美）に

分担研究者として参加し、同研究を実施した。

6) 八木は、本学部共同研究費「看護学生の自己決定型学習を促進する学習環境の構築：ラボ室運営に関する探索的研究」（研究代表：古島幸江）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。

7) 村上は、厚生労働科学研究補助金事業（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題「へき地医療の向上のための医師の働き方及びチーム医療の推進に係る研究」（研究代表：小谷和彦）に研究協力者として参加、同研究を実施した。

8) 村上は、厚生労働行政推進調査事業（地域医療基盤開発）推進研究事業による研究課題「地域包括ケアを支える看看連携を円滑にする体制の構築に関する研究」（研究代表：永田智子の分担研究「看護師の実践能力向上に向けた特定行為研修活用の方策の検討」）に、研究分担者として参加し、同研究を実施した。

9) 村上は、厚生労働省看護職確保対策特別事業による「特定行為研修に関する検討」に、委員として参加し、同研究を実施した。

10) 村上は、厚生労働省委託事業「看護師の特定行為研修に係る実態調査・分析事業」に、委員として参加し、同研究を実施した。

4. その他

1) 村上は、地方独立行政法人新小山市市民病院の看護師を対象に、院内研究8編の指導ならびに、研究指導の講演を行った。

2) 八木は、日本医学教育学会学会誌「医学教育」の査読委員を務め、投稿論文2本の査読を行った。

3) 八木は、医療の質・安全学会「医療の質・安全学会誌」の査読委員を務め、投稿論文2本の査読を行った。

4) 八木は、日本ムードル協会の編集委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。

5) 村上は、日本プライマリ・ケア連合学会の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。

6) 村上は、日本遠隔医療学会学術集会2018の運営委員を務め、学会発表抄録1本の査読を行った。

7) 八木は、第69回医学教育セミナーとワークショップin信州大学において、ワークショップ「現場に役立つ研修をデザインする」を企画し、講師を務めた。

8) 村上と八木は、第70回医学教育セミナーと

ワークショップin自治医科大学において、ワークショップ「活用できる看護研修にするために教育企画をブラッシュアップしてみよう！」を企画し、講師を務めた。

9) 八木は、九州ホスピタルショウにおいて、「医療安全とシミュレーション教育」の講演を行った。

10) 村上は、IMSグループ看護師特定行為研修講演会において、講演を行った。

11) 村上は、栃木県看護協会主催の県委託事業である「看護師の特定行為研修制度周知に関する研修」において、講演を行った。

12) 村上は、平成30年度和歌山県看護業務研究会において、「特定行為研修修了者の活躍推進と看護管理者の役割について」の講演を行った。

13) 村上は、関東甲信越厚生局の「看護師の特定行為研修に係る説明会」において、「看護師の特定行為研修の実際」の講演を行った。

14) 村上は、公益社団法人地域医療振興財団の平成30年度看護部長研修会において、「特定行為に関わる看護師の研修制度と看護管理者の役割」の講演を行った。

15) 村上は、第18回医道審議会保健師助産師看護師分科会特定行為・研修部会において、「特定行為研修に係る看護師の研修制度の評価」の発表を行った。

16) 村上は、「看護師特定行為研修指導者リーダー養成研修会（全日本病院協会主催）」（2018年7月8日、2018年12月9日）において、講師を務めた。

17) 村上は、一般社団法人日本集中治療医学会の研究倫理委員会において、委員を務めた。

18) 村上は、一般社団法人日本看護研究学会の評議員を務めた。

19) 村上は、一般社団法人日本遠隔医療学会運営委員を務めた。

20) 村上は、日本ルーラルナーシング学会評議員（広報委員）及び査読委員を務めた。

共通科目

大学院看護学研究科幹事長 成田 伸

看護学研究科博士前期課程のカリキュラムでは、高度看護実践力の育成強化を中心に編成し、共通科目と専門科目を置いている。共通科目は、高度実践看護職として機能するために、看護学領域を超えて共通に必要な実践、教育、相談、研究、倫理、管理、並びに地域医療に関する学識を習得するために置かれている。配当年次はすべて1年次で、必修科目は「看護管理・政策論」（2単位）のみで、専門看護師教育課程共通科目の「看護管理論」「看護政策論」（各1単位）に相当する。

選択科目は全9科目（各2単位）である。専門看護師を目指す場合は、選択科目として専門看護師教育課程共通科目の「病態生理学特論」「フィジカルアセスメント特論」「臨床薬理学特論」の3科目に加えて「看護実践研究論」「コンサルテーション論」「看護倫理」「看護継続教育論」の3科目以上を選択して、計14単位以上を取得する必要がある。その他の選択科目として「地域調査法」「地域医療論」の2科目がある。平成30年度より英語科目として「Academic Writing & Oral Presentation」1単位が追加となった。

1. 必修科目（ ）内は科目責任者を示す

【看護管理・政策論】（春山早苗教授）

到達目標は、保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動や管理の組織化の方法、ならびに看護職の資質向上のための制度改革や政策決定に関する看護職の働きかけについて理解することである。保健医療福祉システムのなかで質の高いケアを提供するための高度実践看護職の機能と役割、医療チーム内の調整や関係者間の調整、管理的立場にある看護職との協働、制度改革への高度実践看護職の働きかけについて、担当教員2名と非常勤講師4名で教授した。履修学生数9名。

2. 選択科目（ ）内は科目責任者を示す

【病態生理学特論】（倉科智行准教授）

到達目標は、日常的によくみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、エビデンスに基づいた病態生理学的状態を判断するために必要な知識と技術を習得することである。よく

見られる主訴に関する事例演習を交えて担当教員5名と非常勤講師2名で教授した。履修学生数6名（科目等履修生1名を含む）。

【フィジカルアセスメント特論】（村上礼子教授）

到達目標は、高度実践看護職として複雑な健康問題をもった対象の身体状況を査定し、臨床判断を行うために必要な知識と技術を修得することである。シミュレーター学習を取り入れ、フィジカルイグザミネーションと複雑な健康問題に対する臨床判断プロセスを磨く技能について担当教員2名と非常勤講師8名で教授した。履修学生数4名。

【臨床薬理学特論】（大塚公一郎教授）

到達目標は、薬剤の人体における作用機序、体内動態、有益な効果と有害な効果、薬剤使用の判断を理解し、投与後の患者のモニタリング、患者の服薬管理など専門看護師に実践について考えられることである。臨床薬理学の基礎知識と看護職による患者の服薬管理の向上を図るための薬剤調整に関する知識と技術を担当教員2名と非常勤講師13名で教授した。履修学生数3名。

【看護実践研究論】（半澤節子教授）

到達目標は、看護分野における研究の発展について理解し、自らの臨床経験を踏まえながら、先行研究におけるエビデンスをさらに発展させた看護研究課題を設定し、適切な研究方法とその展開方法について理解することである。看護研究の発展、研究倫理、研究方法等、研究計画書作成への基礎的知識について担当教員3名で教授した。

【コンサルテーション論】（永井優子教授）

到達目標は、コンサルテーションに関する理論と倫理的側面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討し、コンサルテーションの実際について理解することである。講義・演習およびグループ・コンサルテーション体験に基づいて、高度実践看護職が必要とする技能と役割について担当教員1名と非常勤講師2名で教授した。履修学生数2名。

【看護倫理】（小原泉教授）

到達目標は、医療現場における生命倫理の現実

的な課題と看護職の倫理的行動、および看護場面での複雑な判断を要する倫理的課題について、関係職種間の調整、提言など看護専門職の立場から果たすべき機能について理解することである。倫理的行動と倫理的責任、倫理的分析と倫理的意思決定、ケアの倫理と生命倫理のパラダイム、倫理教育について担当教員1名と非常勤講師3名で教授した。履修学生数5名（科目等履修生1名を含む）。

【看護継続教育論】（本田芳香教授）

到達目標は、看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的な働きかけとして、さまざまな学習形態をとる教育環境づくりの方策、基盤となる教育的かかわりの方策を理解することである。履修学生の所属組織の実際を踏まえて、関連する知識と技術について担当教員3名で教授した。履修学生数5名（科目等履修生1名を含む）。

【地域医療論】（春山早苗教授）

到達目標は、地域に根差した医療や保健を展開する方法を理解することである。地域ニーズのとらえ方、ニーズに即した医療の提供方法、地域の保健医療福祉施設の有機的な連携、医療資源のアウトソーシングの実際について担当教員2名と非常勤講師2名で教授した。履修学生数4名。

【地域調査法】（春山早苗教授）

到達目標は、地域における健康問題や健康ニーズを把握するための調査方法、収集した資料やデータの分析方法、結果の読み方などを理解することである。地域において効果的かつ効率的な看護・保健活動やその管理的活動を展開する上に必要な地域の健康問題・健康ニーズを把握するための調査方法を講義と演習をとおして担当教員3名と非常勤講師1名で教授した。履修学生数7名（科目等履修生1名を含む）。

【Academic Writing & Oral Presentation】（成田伸教授）

到達目標は、英文抄録の作成からプレゼンテーションまで、国際学会での研究発表に必要な知識と技術を修得することである。事前課題を提示し、課題を仕上げ参加することを促し、講義時間内では双方向のやり取りをめざしている。講義を録画しMoodleで視聴可能とし、欠席時や繰り返し

での学修支援を行った。担当教員2名で教授した。履修学生数10名。

博士後期課程 広域実践看護学分野

研究科長 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 大塚公一郎	教授 小原 泉
教授 塚本 友栄	教授 永井 優子
教授 成田 伸	教授 野々山未希子
教授 春山 早苗	教授 半澤 節子
教授 本田 芳香	教授 村上 礼子
教授 横山 由美	
准教授 角川 志穂	講師 鹿野 浩子

2. 教育の概要

博士後期課程の学生は、1年生2名、2年生2名、3年生7名（3年目2名、4年目3名、5年目2名）で、10名が長期在学制度を利用している。

博士後期課程では、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、看護に関する問題の全体像と本質を捉え探究し、看護学を発展させることのできる教育研究者の育成を目指した教育活動をしている。今年度の専門科目の開講科目は「広域実践看護学特論Ⅰ」（2単位、必修）、「広域実践看護学特論Ⅱ」（2単位、選択）、「広域実践看護学演習」（2単位、必修）、「広域実践看護学特別研究」（6単位、必修、1～3年次）であった。専門関連科目の開講科目は「異文化精神医療論」（2単位、選択）であった。

【広域実践看護学特論Ⅰ（ヘルスケアシステム研究法）春山・成田担当】

本科目では、講義やプレゼンテーション、討議をとおして、看護ケアやヘルスケアシステムを効果・効率的に提供するためのヘルスケアシステム及び看護提供システムの構築・マネジメント、施策・政策化に関わる看護実践の開発に関する研究方法を探究する。1年生1名及び科目等履修生3名が履修した。

【広域実践看護学特論Ⅱ（クリニカルケア研究法）横山・小原担当】

本科目では、講義やプレゼンテーション、討議をとおして、看護現象の客観的な分析と分析結果を探究する研究方法論および方法について批判的

に吟味し、クリニカルケアにおける新たな看護実践を創出するための研究方法を探究する。1年生2名が履修した。

【広域実践看護学演習】

本科目では、先行研究の知見の総括・評価を行い、その成果から研究課題を焦点化し、研究計画に反映できる学修となることを目指す。

システムに関するテーマについては、1年生1名が「ヘルスケアシステム」（春山・本田担当）、1年生1名が「看護教育・看護管理」（成田・塚本担当）を、看護ケアに関するテーマについては、1年生2名が「クリニカルケア」（小原・横山担当）を選択した。

【広域実践看護学特別研究】

研究指導教員を表に示す。

博士前期課程・博士後期課程合同研究セミナーは5月、9月、11月、1月に開催した。博士後期課程の学生は、セミナーで毎回、特に、11月、1月は【広域実践看護学演習】の結果も踏まえてプレゼンテーションを行い、研究課題の設定、研究対象の明確化、研究方法の検討等について、研究指導教員以外の教員にも助言を得たり、博士前期課程の学生とも討議したりできる機会とした。

1名が学位論文審査に合格し、博士論文のテーマは「クリティカルケア看護における看護実践に対する困難－尺度開発と関連要因－」であった。

表 研究指導教員

学年	学生	主研究指導教員	副研究指導教員
1	A	成田	横山・野々山
	B	春山	永井・小原
2	A	横山	本田・村上
	B	半澤	塚本・大塚
3	A	横山	大塚・春山
	B	小原	成田・村上
	A	春山	大塚・半澤
3 4年目	B	春山	横山・半澤
3 6年目	C	成田	永井・本田
3 6年目	A	永井	春山・本田
	B	成田	半澤・本田

【異文化精神医療論 大塚・鹿野担当】

本科目では、講義や演習を通して、異文化精神医療に関する研究構想へ繋げるための基本的知識、精神医学的視点からみた異文化メンタルヘルス研究を教授した。さらに、人文・社会科学などの隣

接科学における最近の異文化研究の知見や異文化
コミュニケーションにおける言語の役割について
も学修した。1年生2名, 2年生1名が履修した。

研究業績録

- 注 1) 掲載対象は2018年1月1日から同年12月31日までである。
2) ゴシック体の人名は対象年に本学に所属していた者である。

看護基礎科学

(1) 論文

- 1) Asuka Hara, Tomoyuki Abe, Atsushi Hirao, Kazuhiro Sanbe, Hiromichi Ayakawa, Borjigin Sarantonglaga, Mio Yamaguchi, Akane Sato, Atchalalt Khurchabilig, Kazuko Ogata, Rika Fukumori, Shoei Sugita and Yoshikazu Nagao: Histochemical properties of bovine and ovine mammary glands during fetal development. *J. Vet. Med. Sci.*, 80(2): 263-271, 2018.
- 2) Shikano, Hiroko: How the Recipient Recognizes the Quasi-Internal Monologue out of Dialogues: Cross-Linguistic Study in Japanese and English. *JELS*, No. 35; 301-307, 2018.
- 3) 大塚公一郎：統合失調症における「生殖・世代」主題と「例外一への一推進」—統合失調症慢性形態における妄想発展のメカニズム—。 *I.R.S. —ジャック・ラカン研究—*. 17: 44-63. 2018.
- 4) 大塚公一郎：統合失調症者の話と言語活動と自他の成立の困難—うわさ話の後で出現した「うそ」の要素現象を手がかりにして—。 *臨床精神病理*39: 199-213. 2018.
- 5) 野崎章子, 大塚公一郎：在日ブラジル人児童のレジリエンス：個人因子としての心理的特性と言語運用に関する記述的研究。 *千葉看護学会誌*24: 61-69. 2018
- 6) 山下裕美子, 倉科智行, 五十嵐真由子, 磯田雅代, 村上明子, 斎藤新介, 岡田修和, 高橋学, 安藤明彦, 永島秀一, 岡田健太, 海老原健, 秋山達, 野首光弘, 石橋俊. 局在診断目的の全身静脈サンプリングの結果の解釈に難渋した腫瘍性骨軟化症の1例. *自治医科大学紀要*. 40:23-28, 2018
- Care by Nurses Who Have Completed the Training for Specified Medical Acts. The 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conferences, Seoul, KR.11 January 2018.
- 3) Shikano, Hiroko. & Sugisaki, Miki. : How Speakers Use “Nanka” in Quasi-Internal Monologues During Interactional Discourses. *ELSJ 11th International Spring Forum 2018*, Hokkaido. 2018. 5.12.
- 4) Shikano, Hiroko : A Comparative Study of Quasi-internal Monologue in English and Japanese: The Epistemic Perspective of Co-constructing a Story. *22nd Sociolinguistic Symposium, Auckland*. 2018.6.27.
- 5) 大塚公一郎：腎不全医療と精神医療のラポール形成をめざして。第29回サイコネフロロジー研究会，東京，2018年7月7日
- 6) 春山早苗, 田村須賀子, 中尾八重子, 安田貴恵子, 山崎洋子, 鈴木久美子, 塚本友栄, 関山友子, 島田裕子, 青木さぎ里, 江角伸吾, 土谷ちひろ：地区管理にかかわる市町村保健師の活動 その1：活動の様相と地区管理の課題。第6回日本公衆衛生看護学会学術集会，大阪。2018年1月7日（第6回日本公衆衛生看護学会学術講演集；187, 2018）
- 7) 春山早苗, 田村須賀子, 中尾八重子, 安田貴恵子, 山崎洋子, 鈴木久美子, 塚本友栄, 関山友子, 島田裕子, 青木さぎ里, 江角伸吾, 土谷ちひろ:地区管理にかかわる市町村保健師の活動 その2：人口規模別の課題と工夫。第6回日本公衆衛生看護学会学術集会，大阪。2018年1月7日（第6回日本公衆衛生看護学会学術講演集；188, 2018）
- 8) 村上礼子, 八木街子, 鈴木美津枝, 江角伸吾, 関山友子, 春山早苗：遠隔地の看護師の受講可能性からみた特定行為研修の課題。 *日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会*, 香川。2018年11月3日。（日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会抄録集；76, 2018）
- 9) 鹿野浩子：英語母語話者達のトラブルトーク内で発話される否定文発話に対する聞き手の態度を表すyeah・yes・no応答。第41回社会言語科学会，東京。2018.3.11.
- 10) 杉崎美生, 鹿野浩子：話し手はどのように疑

(2) 学会発表

- 1) Atsushi J Hirao, Masato Aoyama, Shoei Sugita: Morphological features of the uropygial gland of the jungle crow *Corvus macrorhynchos*. *XXVIII European Chemoreception Research Organization 2018*, Wurzburg, 2018.9.6
- 2) Sekiyama T, Haruyama S, Esumi S, Yagi M, Nakamura T, Suzuki M, Murakami R, Nagai R: Current Status of Team-based Medical

似独話を使うのか—談話進行場面に見られる
「なんか」の使用から— 第41回社会言語科学
会, 東京. 2018.3.10.

(3) 著書・総説

- 1) 大塚公一郎：文化精神医学史と優生学. 精神
医学史研究22：53-58. 2018

基礎看護学

(1) 学会発表

- 1) 福田順子, 本田芳香, 小原泉, 里光やよい, 大柴幸子, 上野久子, 大海佳子, 渡辺芳江, 亀田美智子, 小松崎香, 弘田智香, 朝野春美: A 大学附属病院のジェネラリストナースのキャリア開発. 日本ルーラルナーシング学会, 香川, 2018年11月3日 (日本ルーラルナーシング学会 第13回学術集会抄録集38, 2018)
- 2) 飯塚由美子, 本田芳香, 渡辺道子, 中山章子, 田村恵理子: 療養場所を移行する婦人科がん患者・家族への病棟看護師の看護アプローチの内容. 第23回日本在宅ケア学会学術集会, 大阪, 2018年7月14日 (日本在宅ケア学会学術集会 第23回学術集会抄録集42, 2018)
- 3) 岩永麻衣子, 本田芳香: 緩和ケア病棟看護師の終末期がん患者とその家族との関わりの中で生じた無力感に対する対処. 第32回日本がん看護学会学術集会, 千葉, 2018年2月3日 (日本がん看護学会学術集会 第32回学術集会抄録集149, 2018)
- 4) 湯山美杉, 本田芳香, 福田順子, 飯塚由美子: 地域特性を基盤とする終末期がん患者の在宅看取りケアに関するコーディネーター機能の研究. 第38回日本看護科学学会学術集会, 愛媛, 2018年12月15日 (日本看護科学学会 第38回学術集会電子抄録集: O 21-4)
- 5) 湯山美杉, 里光やよい, 清水みどり, 飯塚由美子, 路川達阿起, 本田芳香: e-learning導入による模擬患者養成プログラム開発, 高松. 平成30年11月3-4日 (2018). (日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会抄録集: 44, 2018))
- 6) I. Kohara, N. Fujiwara, H. Nakahama, S. Tamaki, M. Yabuki, N. Hiraoka, M. Ito, M. Yamamoto, K. Shimozuma, K. Fujiwara: Current status of activities relating to research nurses in gynecological cancer cooperative group, 17th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society in Kyoto, Japan, September 14-16, 2018.
- 7) 笠井宏委, 後澤乃扶子, 小原泉, 唐木範子, 谷口隆雄, 野崎章子, 森下典子, 鶴丸雅子, 吉村健一, 遠藤一司, 山本晴子, 楠岡英雄: CRCの現任教育調査-CRC所属医療機関およびSMOにおける内部教育体制-, 第9回日本臨床試験学会学術集会総会, 仙台市, 2018年2月23日
- 8) 後澤乃扶子, 笠井宏委, 小原泉, 唐木範子, 谷口隆雄, 野崎章子, 森下典子, 鶴丸雅子, 吉村健一, 遠藤一司, 山本晴子, 楠岡英雄: CRCの現任教育調査-外部集合教育プログラムの活用状況-, 第9回日本臨床試験学会学術集会総会, 仙台市, 2018年2月23日.
- 9) 笠井宏委, 後澤乃扶子, 小原泉, 唐木範子, 谷口隆雄, 野崎章子, 森下典子, 鶴丸雅子, 吉村健一, 遠藤一司, 山本晴子, 楠岡英雄: CRCの現任教育調査-CRCの自立度と将来像に関する調査-, 第9回日本臨床試験学会学術集会総会, 仙台市, 2018年2月23日.
- 10) 小原泉, 森下典子, 野崎章子, 鶴丸雅子, 遠藤一司, 谷口隆雄, 後澤乃扶子, 笠井宏委, 吉村健一, 山本晴子: 臨床研究コーディネーターの熟達度評価尺度の開発と測定結果, 第18回CRCと臨床試験を考える会議 2018 in 富山, 富山市, 2018年9月16~17日.
- 11) 小原泉: わが国のCRC育成の現状と課題, 第18回CRCと臨床試験を考える会議2018 in 富山 シンポジウム11「CRC育成のやりがいと挑戦~後進育成の本質とその方法~」, 富山市, 2018年9月17日.
- 12) 野崎章子, 小原泉: 臨床研究コーディネーター (CRC) として活動する看護職資格保有者の実態に関する横断的研究, 第38回日本看護科学学会学術集会, 松山市, 2018年12月16日.

(2) その他

- 1) 本田芳香, 中村美鈴, 江川幸二 (訳): 高度実践看護統合的アプローチ, 第8章 ガイダンスとコーチング, 182-210, 2018
- 2) 里光やよい, 本田芳香, 浜端賢次, 清水みどり, 湯山美杉, 岡野朋子, 大澤弘子: 模擬患者を用いたアセスメント演習に参加した地域で活動する看護師の自己評価. 自治医科大学看護学ジャーナル, 15巻; p.39, 2018.
- 3) 湯山美杉, 本田芳香, 小原泉, 里光やよい, 福田順子, 飯塚由美子, 岡野朋子, 野沢博子, 亀田美智子, 高久美子: 模擬患者を活用した看護的な観視点の育成をもたらす教育効果の検討, 自治医科大学看護学ジャーナル, 15巻; p.29, 2018.

地域看護学

(1) 論文

- 1) 山口佳子, 平野かよ子, 森本典子, 春山早苗, 小西かおる, 石川貴美子, 藤井広美, 久佐賀眞理, 大神あゆみ, 尾島俊之: 「未治療・治療中断の精神障害者の受療支援」の質に関する評価指標－標準化のための検証と改訂－. 東京家政大学研究紀要, 58 (2): 45-54, 2018.
- 2) 八木(佐伯)街子, 村上礼子, 鈴木美津枝, 讚井將満, 石川鎮清, 春山早苗, 蓑田清次: 特定行為にかかわる看護師の研修の受講ニーズ調査－施設規模による傾向の違い－. 看護展望, 43 (11): 78-85, 2018.
- 3) 塚本友栄, 赤羽由妙, 人見優子, 飯野直子, 齋藤由利子, 谷田部佳代弥, 王麗華, 宮崎照子, 河野順子, 野澤寿美子, 鱒淵清子, 馬込公子: 退院支援研修修了者フォローアップ研修会の成果と課題. 日本看護学会論文集(在宅看護), 48: 11-14, 2018.

(2) 学会発表

- 1) Yamagata C, Haruyama S: Nursing Intervention by Municipal Public Health Nurses for Parents to Prevent Child Abuse and Neglect in Japan. 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference, Seoul, KR. January 11, 2018. (21st EAFONS & 11th INC Program Book;641, 2018)
- 2) Esumi S, Haruyama S, Maeda T, Tani K, Iguchi S, Imamichi H, Sawada T, Morita Y, Kotani K, Kojo T, Kajii E: Implementation Status of "Specified Medical Acts" by Nurses in Rural and Remote Medical Facilities on Islands and Mountain Villages. 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference, Seoul, KR. January 11, 2018. (21st EAFONS & 11th INC Program Book; 710, 2018)
- 3) Miyazaki M, Okuda H, Haruyama S, Kanatani Y, Yoshitomi N, Iguchi S: Development of a training program using reflection for disaster management capacity building of public health nurse leaders. American Public Health Association 201- Annual Meeting & EXPO, San Diego, USA. November 12, 2018. (APHA Final Program;72 (3066.0) , 2018)
- 4) 中尾八重子, 春山早苗, 田村須賀子, 安田貴恵子, 山崎洋子, 鈴木久美子, 塚本友栄, 関山友子, 島田裕子, 青木さぎ里, 江角伸吾, 土谷ちひろ: 地区管理にかかわる市町村保健師の活動 その1: 活動の様相と地区管理の課題. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 大阪. 2018年1月7日. (第6回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集; 187, 2018)
- 5) 春山早苗, 田村須賀子, 中尾八重子, 安田貴恵子, 山崎洋子, 鈴木久美子, 塚本友栄, 関山友子, 島田裕子, 青木さぎ里, 江角伸吾, 土谷ちひろ: 地区管理にかかわる市町村保健師の活動 その2: 人口規模別の課題と工夫. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 大阪. 2018年1月7日. (第6回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集; 188, 2018)
- 6) 鈴木久美子, 春山早苗, 田村須賀子, 中尾八重子, 安田貴恵子, 山崎洋子, 塚本友栄, 関山友子, 島田裕子, 青木さぎ里, 江角伸吾, 土谷ちひろ: 地区管理にかかわる市町村保健師の活動 その3: 活動分野別の課題と工夫. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 大阪. 2018年1月7日. (第6回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集; 188, 2018)
- 7) 荒木田美香子, 安齋由貴子, 池戸啓子, 大谷喜美江, 佐川きよみ, 高橋佐和子, 島本靖子, 春山早苗, 谷島陽子: 公衆衛生看護学の体系化の検討のプロセス(第一報). 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 大阪. 2018年1月6日. (第6回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集; 138, 2018)
- 8) 大谷喜美江, 荒木田美香子, 安齋由貴子, 池戸啓子, 佐川きよみ, 高橋佐和子, 島本靖子, 春山早苗, 谷島陽子: 公衆衛生看護学の体系の提案(第二報). 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 大阪. 2018年1月6日. (第6回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集; 138, 2018)
- 9) 安田貴恵子, 田村須賀子, 村井ふみ, 御子柴裕子, 酒井久美子, 下村聡子, 春山早苗, 山崎洋子: 地域における認知症ケアの推進に関わる保健師の活動: 自治体保健師による実践報告の分析. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 大阪. 2018年1月7日. (第6回日本公衆衛生看護

- 学会学術集会講演集；223, 2018)
- 10) 土谷ちひろ, 春山早苗, 塚本友栄, 鈴木久美子, 島田裕子, 関山友子, 青木さぎ里：生活支援コーディネーター・行政・大学の協働による住民の支え合い体制構築を促進する方法の検討. 日本地域看護学会第21回学術集会, 岐阜. 2018年8月12日. (日本地域看護学会第21回学術集会講演集；179, 2018)
 - 11) 山口佳子, 平野かよ子, 森本典子, 尾島俊之, 小西かおる, 春山早苗, 石川貴美子, 久佐賀眞理, 藤井広美：県型保健所及び市型保健所における「未治療・治療中断の精神障害者の受療支援」. 第77回日本公衆衛生学会総会, 郡山(福島). 2018年10月25日. (第77回日本公衆衛生学会総会抄録集65(10)；466, 2018)
 - 12) 石川貴美子, 平野かよ子, 久佐賀眞理, 藤井広美, 森本典子, 山口佳子, 春山早苗, 小西かおる, 尾島俊之：高齢者保健福祉分野における保健活動の実践状況と評価指標活用に向けての検証. 第77回日本公衆衛生学会総会, 郡山(福島). 2018年10月25日. (第77回日本公衆衛生学会総会抄録集65(10)；588, 2018)
 - 13) 平野かよ子, 久佐賀眞理, 藤井広美, 石川貴美子, 森本典子, 山口佳子, 春山早苗, 小西かおる, 尾島俊之：市町村における保健活動の評価指標の統計的検討. 第77回日本公衆衛生学会総会, 郡山(福島). 2018年10月25日. (第77回日本公衆衛生学会総会抄録集65(10)；588, 2018)
 - 14) 小西かおる, 石川貴美子, 久佐賀眞理, 春山早苗, 藤井広美, 山口佳子, 尾島俊之, 森本典子, 平野かよ子：難病保健活動の県型保健所と政令市型保健所の特徴の違い. 第77回日本公衆衛生学会総会, 郡山(福島). 2018年10月25日. (第77回日本公衆衛生学会総会抄録集65(10)；541, 2018)
 - 15) 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 金谷泰宏, 井口紗織：統括保健師の災害時のコンピテンシーに基づいた研修の企画・実施・評価. 第77回日本公衆衛生学会総会, 郡山(福島). 2018年10月25日. (第77回日本公衆衛生学会総会抄録集65(10)；504, 2018)
 - 16) 春山早苗, 井口紗織, 宮崎美砂子, 奥田博子, 金谷泰宏：統括保健師の災害時のコンピテンシーに基づいた研修の評価—1県での取り組みから—. 第77回日本公衆衛生学会総会, 郡山(福島). 2018年10月25日. (第77回日本公衆衛生学会総会抄録集65(10)；504, 2018)
 - 17) 奥田博子, 宮崎美砂子, 春山早苗, 井口紗織, 金谷泰宏：統括保健師の災害研修の効果的なフレキションのためのファシリテーターガイドの検討. 第77回日本公衆衛生学会総会, 郡山(福島). 2018年10月25日. (第77回日本公衆衛生学会総会抄録集65(10)；505, 2018)
 - 18) 八木(佐伯)街子, 村上礼子, 鈴木美津枝, 埴田真彰, 岡野朋子, 春山早苗：特定行為に係る看護師の研修の受講ニーズ調査—施設規模による傾向の違い—. 第38回日本看護科学学会学術集会, 愛媛. 2018年12月16日. (日本看護科学学会学術集会講演集第38回；O61-3, 2018)
 - 19) 塚本友栄, 島田裕子：受講修了生を対象とした現地訪問調査からみたe-learning科目「退院支援・調整と多職種連携」の成果と課題. 日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会, 高松. 2018年11月23日. (日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会抄録集；69, 2018)
 - 20) 青木さぎ里：離島町村で働く新任保健師の看護実践能力の向上につながる経験. 日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会, 高松. 2018年11月23日. (日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会抄録集；66, 2018)
 - 21) 村上礼子, 八木街子, 鈴木美津枝, 江角伸吾, 関山友子, 春山早苗：遠隔地の看護師の受講可能性からみた特定行為研修の課題. 日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会, 高松. 2018年11月23日. (日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会抄録集；66, 2018)
 - 22) 阿相有理, 田代典子, 野澤寿美子, 青山泰子, 江角伸吾, 大木いずみ, 中山竜司, 宮古真奈美：栃木県実習指導者講習会の修了者活動状況及び病院の意向に関する実態調査. 第56回栃木県公衆衛生学会, 栃木. 2018年9月5日. (第56回栃木県公衆衛生学会抄録集；34-36, 2018.)
 - 23) 青木さぎ里：島で保健師になるということ, 日本島嶼学会2018年次東京大会, 東京. 2018年8月30日. (2018年次日本島嶼学会東京大会プログラム・基調講演・記念特別講演・一般研究発表要旨集；13-15, 2018)

(3) 著書・総説

- 1) 春山早苗：第1章 公衆衛生看護学概論 第Ⅱ節 公衆衛生看護の歴史 第2項 保健婦規則制定以後の保健婦活動 第3項 ヘルスニーズに対応した保健婦活動の確立. 最新公衆衛生看護学 第2版 2018年版 総論(宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会(東京), 31-70, 2018.
 - 2) 春山早苗, 平山朝子：第1章 公衆衛生看護学概論 第Ⅲ節 ヘルスケアシステムの中で機能する看護. 第3章 公衆衛生看護活動の展開方法論 第Ⅳ節 地域ケア体制づくり 第1項～第3項の1. 最新公衆衛生看護学 第2版 2018年版 総論(宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会(東京), 73-104, 299-325, 2018.
 - 3) 春山早苗：第2章 健康課題の特性に応じた活動論 第Ⅳ節 感染症保健福祉活動 第1項～第5項. 最新公衆衛生看護学 第2版 2018年版 各論1(宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会(東京), 263-305, 2018.
 - 4) 春山早苗：第2章 地域特性に応じた活動論 第Ⅰ節 へき地における公衆衛生看護活動 第1項 へき地における公衆衛生看護活動. 最新公衆衛生看護学 第2版 2018年版 各論2(宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会(東京), 150-164, 2018.
 - 5) 塩ノ谷朱美, 春山早苗：第2章 地域特性に応じた活動論 第Ⅰ節 へき地における公衆衛生看護活動 第3項 山村・豪雪地帯における公衆衛生看護活動. 最新公衆衛生看護学 第2版 2018年版 各論2(宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会(東京), 185-193, 2018.
 - 6) 青木さぎ里：第2章 地域特性に応じた活動論 第Ⅰ節 へき地における公衆衛生看護活動 第2項 離島における公衆衛生看護活動 4) 離島における保健師活動の実際：小規模離島村における活動. 最新公衆衛生看護学 第2版 2018年版 各論2(宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会(東京), 175-184, 2018.
 - 7) 春山早苗：第1章 公衆衛生看護学概論 第Ⅱ節 公衆衛生看護の歴史 第2項 保健婦規則制定以後の保健婦活動 第3項 ヘルスニーズに対応した保健婦活動の確立. 最新公衆衛生看護学 第3版 2019年版 総論(宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会(東京), 32-71, 2018.
 - 8) 春山早苗, 平山朝子：第1章 公衆衛生看護学概論 第Ⅲ節 ヘルスケアシステムの中で機能する看護. 第3章 公衆衛生看護活動の展開方法論 第Ⅳ節 地域ケア体制づくり 第1項～第3項の1. 最新公衆衛生看護学 第3版 2019年版 総論(宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会(東京), 74-105, 278-304, 2018
- (6) その他
- 1) 永井良三, 春山早苗, 村上礼子, 釜菴敏, 溝上祐子, 太田秀樹, 神野正博, 矢野諭, 鈴木龍太, 江村正, 藤内美保, 大塚真理子, 藤谷茂樹, 中村剛史, 関山友子, 八木街子, 江角伸吾, 鈴木美津枝：看護師の特定行為研修の効果及び評価に関する研究. 平成29年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業) 総括・分担研究報告書, 全186ページ, 2018.
 - 2) 春山早苗：医療現場等への影響の評価. 平成29年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「看護師の特定行為研修の効果及び評価に関する研究」総括・分担研究報告書, 91-185, 2018.
 - 3) 春山早苗, 塚本友栄, 島田裕子, 青木さぎ里, 江角伸吾, 土谷ちひろ, 他：日本型地域ケア実践開発研究事業. 平成25～29年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 研究成果報告書, 全281ページ, 2018.
 - 4) 春山早苗, 江角伸吾：へき地診療所に勤務する看護師の研鑽の実態と研修ニーズ. 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業「へき地医療において提供される医療サービスの向上とへき地医療に従事する医師の労働環境改善に係る研究」平成29年度 総括・分担研究報告書, 68-90, 2018.
 - 5) 梶井英治, 前田隆浩, 谷憲治, 井口清太郎,

- 今道英秋, 澤田努, 森田喜紀, 小谷和彦, 古城隆雄, 春山早苗: へき地医療において提供される医療サービスの向上とへき地医療に従事する医師の労働環境改善に係る研究. 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業 平成28年度~29年度 総合研究報告書, 全58ページ, 2018.
- 6) 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 金谷泰宏, 吉富望, 井口紗織, 植村直子: 災害対策における地域保健活動推進のための管理体制運用マニュアル実用化研究. 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業) 平成28~29年度 総合研究報告書, 全56ページ, 2018.
- 7) 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 金谷泰宏, 吉富望, 井口紗織: 統括保健師のための災害に対する管理実践マニュアル・研修ガイドライン. 平成28~29年度 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業) 「災害対策における地域保健活動推進のための管理体制運用マニュアル実用化研究」, 全40ページ, 2018.
- 8) 曾根智史, 尾島俊之, 加藤源太, 國井隆弘, 久保秀一, 千葉圭子, 春山早苗, 藤原啓子, 兩羽美穂子: 「地方公共団体における保健師による効率的・効果的な保健活動の展開について」中間報告. 平成29年度 地域保健総合推進事業, 全164ページ, 2018.
- 9) 春山早苗, 北山三津子: 地域看護学と社会実装 - 地域看護学の研究は実践の改革に役立っているのか -. 日本地域看護学会第20回学術集会報告 20周年記念シンポジウム, 21 (1) :85-89, 2018.
- 10) 平尾温司, 川上勝, 田村敦子, 福田順子, 村上礼子, 春山早苗: プラスティネーションを用いたシミュレータ素材の作製. 日本シミュレーション医療教育学会雑誌, 6 : 132, 2018.
- 11) 青木さぎ里, 春山早苗, 鈴木久美子, 塚本友栄, 島田裕子, 関山友子, 江角伸吾, 金子敬子: 小規模市町村新任保健師の看護実践能力の向上につながる経験. 自治医科大学看護学ジャーナル 看護学部教員共同研究報告, 15 : 33, 2018.
- 12) 小原泉, 中村美鈴, 成田伸, 半澤節子, 北田志郎, 江角伸吾, 永井優子, 春山早苗, 宮林幸江, 青木さぎ里, 佐々木彩加: 優れた看護専門職育成と高齢者社会への看護専門職としての対応のための基礎資料収集ツール開発. 自治医科大学看護学ジャーナル 看護学部教員共同研究報告, 15 : 38, 2018.
- 13) 青木さぎ里: へき地の保健師がいきいきと仕事をして, へき地で暮らす人々の健康を実現する「へき地保健師協会」はじめました. 保健師ジャーナル, 74 (12) :1052-1055, 2018.
- 14) 島田裕子, 関山友子, 塚本友栄, 鈴木久美子, 春山早苗, 奥田博子: 県外に避難した者を対象とした避難所活動のための自治体保健師の活動指針の作成. 科学研究費助成事業(基盤研究(C)(一般))2014~2017研究成果報告書, 全6ページ, 2018.
- 15) 田中美延里, 柳原由美, 越智澄恵, 青木さぎ里, 窪田志穂, 野村美千江: 瀬戸内海の島の地理的特性と保健師活動. 日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会ワークショップ1-4, 高松, 2018年11月3日. (日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会抄録集, 31, 2018)
- 16) 中村好一, 青木さぎ里, 櫻井純子, 吉田和樹, 伊東尚美, 佐藤清湖: へき地保健師のつどい. 日本公衆衛生学会自由集会9, 郡山, 2018年10月24日. (第77回日本公衆衛生学会総会抄録集, 29, 2018)
- 17) 佐藤紀子, 牛尾裕子, 田村須賀子, 春山早苗: 学士課程において保健師の地区活動をどのように教授するか - 学内演習における実践事例の用い方と学びのパフォーマンス評価 -. 日本地域看護学会第21回学術集会ワークショップ3-6, 岐阜, 2018年8月12日. (日本地域看護学会第21回学術集会講演集 : 72, 2018)

精神看護学

(1) 論文

- 1) Ishii Shinichiro: Study of the Emotional Intelligence of Psychiatric Nurses. 日本健康医学学会雑誌, 27(1); 2-8, 2018.

(2) 学会発表

- 1) 石井慎一郎, 瀬戸山美和: 看護学生の情動知能と他者とのかかわりに関する研究 - A longitudinal study on Emotional Intelligence and involvement with others of nursing students -. 日本教師学学会第19回大会. 兵庫, 2018年3月10日. (日本教師学学会第19回抄録集; 10-11, 2018)
- 2) 石井慎一郎, 板橋直人: 精神科看護職の他者とのかかわりと職務エンパワメントとの関係. 日本精神保健看護学会第28回学術集会・総会, 東京. 2018年6月24日. (日本精神保健看護学会第28回学術集会・総会プログラム抄録集; 167, 2018)
- 3) 石井慎一郎, 瀬戸山美和, 富川明子: 看護学生の統合失調症に対する社会的距離 (第2報). 第25回日本精神科看護専門学術集会, 香川. (2018年10月26日. 第25回日本精神科看護協会プログラム・抄録集; 104, 2018)
- 4) 石井慎一郎, 富川明子: 看護職の情動知能と経験学習に関する研究 -Emotional intelligence and experiential learning on the nursing work-. 日本感情心理学会第26回大会, 東京. 2018年11月10日. (日本感情心理学会第26回大会プログラム; 42, 2018)
- 5) 石井慎一郎, 富川明子, 湯山美杉, 望月明美, 島田裕子, 古島幸江, 清水みどり, 田村敦子. 学生が授業の感想を記述する教育的意義は何か. 第8回日本情動学会, 広島. 2018年12月8日. (日本情動学会大会; 14, 2018)

(3) その他

- 1) 石井慎一郎, 板橋直人, 富川明子: 精神科看護職の職務エンパワメントとかかわり先との関係. 第17回自治医科大学シンポジウム, 栃木. 2018年9月4日. (自治医科大学シンポジウム; 63, 2018)

母性看護学

(1) 論文

- 1) 西岡啓子, 成田伸: 不妊治療を受ける女性の認識する不確かさの概念分析. 日本母性看護学会誌, 18(1): 1-8, 2018.
- 2) 川口弥恵子, 山田加奈子, 工藤里香, 笹野京子, 松井弘美, 小嶋由美, 立木歌織, 大平光子, 松原まなみ, 成田伸: 妊娠糖尿病に対する産後フォロー体制－妊娠糖尿病の治療を行っている周産期医療施設に対する聞き取り調査から－. 日本母性看護学会誌, 18(1): 47-54, 2018.
- 3) 西岡啓子, 成田伸: 不妊治療を受ける女性の認識する不確かさと関連要因. 日本生殖看護学会誌, 15(1): 15-25, 2018.
- 4) 野々山未希子, 永光信一郎, 服部律子: 高校生の対人関係への認識と性に関する悩み, 日本性感染症学会誌, 29(1): 43-52, 2018.

(2) 学会発表

- 1) Jinko Suzuki, Shin Narita: Investigating breastfeeding support for women hospitalized with preterm labor. 21th East Asian Forum of Nursing Sclors in Soul, ソウル, 2018年1月12日.
- 2) 小嶋由美, 天谷一美, 藤岡容子, 武藤香子, 藤川智子, 佐藤美佐子, 山田陽子, 望月明見, 成田伸: 栃木県助産師会における産後ケアの現状と課題. 第74回日本助産師学会, 金沢, 2018年5月26日. (第74回日本助産師学会抄録集, p.52, 2018)
- 3) 佐藤美佐子, 小嶋由美, 天谷一美, 藤岡容子, 武藤香子, 藤川智子, 山田陽子, 望月明見, 成田伸: 栃木県助産師会における産後ケアの現状と課題－助産所における産後ケアを中心に－. 第43回栃木県母性衛生学会学術集会, 栃木県下野市, 2018年5月30日.
- 4) 角川志穂, 戸崎有美子: 入院妊婦に対する育児支援情報の提供のあり方～DVDの活用を試みて～. 第74回日本助産師学会, 金沢. 2018年5月26日

(3) 著書・総説

- 1) 野々山未希子: 性感染症予防教育における課

題. 医学のあゆみ, 267(3): 227-233, 2018

- 2) 野々山未希子: 性感染症予防教育において泌尿器科医に期待する役割. 臨床泌尿器科, 72(12): 962-964, 2018

(4) その他

- 1) 春山早苗, 村上礼子, 川上勝, 佐藤幹代, 角川志穂, 浅田義和, 石井慎一郎, 関山友子, 八木街子, 江角伸吾, 佐藤貴紀, 古島幸江: ICTを活用した地域ケア実践看護師の教育・支援システムの指針. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発研究事業」, 2018.
- 2) 森田展彰, 新井清美, 山口玲子, 大宮宗一郎, 望月明見, 受田恵理, 渡辺敦子, 山田理絵, 小池純子: 「刑の一部執行猶予者の地域支援に関する政策研究」平成30年分担報告書. 2018.

小児看護学

(1) 学会発表

- 1) 小西克恵, 横山由美: 救急外来看護師が軽症乳幼児の養育者に行う子育て支援の現状と関連要因. 日本小児看護学会第28回学術集会, 愛知県名古屋市. 2018年7月22日. (日本小児看護学会学術集会第28回学術集会講演集: p 152, 2018)
- 2) 小西克恵, 横山由美: 小児二次救急外来での子育て支援の現状, 第10回日本小児心身医学会関東甲信越地方会, 栃木県下野市. 2019年3月10日. (第10回日本小児心身医学会関東甲信越地方会抄録集: p16, 2019)
- 3) 田村敦子: 慢性疾患をもつ青年期患者の成熟の概念分析. 日本小児看護学会第28回学術集会. 名古屋. 7月22日(2018). (日本小児看護学会第28回学術集会 講演集(28): 191頁, 2018)
- 4) 平尾温司, 川上勝, 田村敦子, 福田順子, 村上礼子, 春山早苗: プラスティネーションを用いたシミュレータ素材の作製. 第6回日本シミュレーション医療教育学会. 岐阜. 6月2日(2018). 日本シミュレーション医療教育学会雑誌 第6巻: 132頁, 2018)
- 5) 石井慎一郎, 富川明子, 湯山美杉, 望月明見, 古島幸江, 島田裕子, 清水みどり, 田村敦子: 学生が授業の感想を記述する教育的意義は何か. 日本情動学会第8回大会. 広島. 12月8日(2018). 日本情動学会抄録集. 第8巻: 2018)

(2) その他

- 1) 田村敦子, 横山由美, 朝野春美, 大海佳子, 小谷妙子, 大畑紀恵, 黒田光恵, 尾沼恵梨香, 水田耕一: 子ども医療センターおよび移植外科の思春期から青年期の外来通院患者をフォローアップするためのシステム構築, 自治医科大学看護学ジャーナル, 15巻, 37, 2018.

成人看護学

(1) 論文

- 1) 長谷川直人, 樺山定美, 中野真理子, 佐々木雅史, 吉田紀子, 古島幸江, 佐々木彩加, 中村美鈴, 佐藤幹代, 村上礼子, 相賀美幸, 宮田直美, 渡辺芳江, 半田知子, 弘田香, 倉科憲太郎, 細谷好則, 佐田尚宏: 胃がん術後患者の術後機能障害への対処を導く初回外来時の看護師の教育的関わり. 自治医科大学看護学ジャーナル, 15: 3-15, 2018.

(2) 学会発表

- 1) 佐藤幹代, 高橋奈津子, 射場典子, 森田夏実, 瀬戸山陽子: 映像と音声で伝える「慢性の痛みをもつ人とその家族の語り」データベースを用いた看護教育への活用可能性を探る, 第28回日本看護学教育学会抄録集, p94, 2018年8月29日.
- 2) 佐藤幹代, 高橋奈津子, 射場典子, 森田夏実, 瀬戸山陽子: 慢性の痛みをもつ人と家族の語りから創造する看護, 第12回日本慢性看護学会抄録集, p78, 2018年7月14日.
- 3) 森田夏実, 射場典子, 竹内登美子, 佐藤幹代, 高橋奈津子: 健康と病いの語り (DIPEX-Japan) の患者の語り (ナラティブ) から何を学ぶか Part 7-患者の病いを尊重できる医療者の育成のための教育プログラムを考える-, 第28回日本看護学教育学会抄録集, p92, 2018年8月29日.
- 4) 松沼早苗, 中村美鈴, 佐藤幹代, 茂呂悦子, 高久美子, 渡井恵, 疼痛緩和を目指した術前ガイダンスにおけるリーフレット作成と臨床応用への有用性の検討: 第49回日本看護学会 急性期看護学術集会, 2018年9月.
- 5) 中村美鈴, 中野真理子, 鈴木典子, 橋本幹子: 山間へき地および離島における救急医療・看護に対する看護職の教育ニーズ-ワールド・カフェの手法を用いてお互いの考えを共有しよう-: 日本ルーラルナーシング学会 第13回学術集会. 香川県. 2018. (日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会抄録集; 30, (2018))
- 6) 中野真理子, 古島幸江, 中村美鈴, 佐々木彩加, 佐藤幹代, 長谷川直人: 学内看護演習において臨地指導者から指導を受けた学生の体験

第, 28回 日本看護学教育学会抄録集, p149, 2018年8月29日.

- 7) 古島幸江: 手術看護の経験が私のキャリアパスにもたらしたもの 手術看護の専門性の追求がわたしにもたらしたもの. 第40回日本手術医学会総会, 東京. 2018年10月13日.
- 8) 古島幸江, 坂本文子, 佐藤澄子, 横沢京子, 堀口奈津美: 手術看護実践指導看護師になろう 日本手術看護学会・JONAⅢの活動. 第32回日本手術看護学会年次大会, 神奈川. 2018年11月24日.
- 9) 白木智子, 水野敏子, 坂井志麻, 原沢のぞみ, 佐藤直子, 成澤明, 渡邊賢治, 小池愛弓, 長江弘子, 山田雅子: 「独り暮らし」高齢者の在宅死を可能にする終末期看護モデルの検証 デルファイ法によるケア項目妥当性の検討, 第23回日本在宅ケア学会学術集会, 大阪, 2018.7
- 10) 長江弘子, 谷垣静子, 乗越千枝, 坂井志麻, 片山陽子, 岡田麻里, 渡邊賢治, 酒井昌子, 川添恵理子, 照井レナ, 仁科祐子, 小池愛美: 生活と医療を統合する継続看護マネジメント, 第23回日本在宅ケア学会学術集会, 大阪, 2018.7

(3) 著書・総説

- 1) 佐藤幹代, 高橋奈津子: 当事者の語りをいかす試み「慢性の痛みの語り」データベース構築 (特集 慢性疼痛を知る: 多様なアプローチから患者の未来を考える), 保健の科学, 60(11) 750-754, 2018年11月.
- 2) 中野真理子: 身体拘束から考える 基礎教育と臨床の関係 看護師の変遷する拘束像 学生から新人看護師 指導的立場へ. 看護教育, vol.59 No.6: 442-447 医学書院, 2018.
- 3) 中野真理子: 身体拘束から考える 基礎教育と臨床の関係 【座談会】看護学生にとっての身体拘束 現実, 葛藤, 希望. 看護教育, vol.59 No.6: 448-454 医学書院, 2018.
- 4) 古島幸江: じっくり読んでレベルアップ特集 各施設のベテランナースが伝授!あのオペ・このオペ器械台の整理のコツ攻略術. オペナーシング33(6):P 587-589, 2018.
- 5) 古島幸江: ナーシング・プロフェッション・シリーズ 手術看護 術前術後をつなげる術中看護. 第2版; 第5章-3心疾患 235-256 (分担執筆), 2019.

- 6) 渡邊賢治（分担執筆）：第2章 2. 継続看護マネジメント (CNM) の概念構造. 長江弘子（編集）：生活と医療を統合する継続看護マネジメント第2版；20-26, 医歯薬出版株式会社, 2018
- (4) その他
- 1) 佐藤幹代：慢性の痛みとどう向き合うか？ 患者の語りから学ぼう 公開シンポジウム, 「慢性の痛みの語り」ウェブページの紹介, シンポジスト, 2018年7月1日, 東京大学農学部・弥生講堂. <https://www.dipex-j.org/news/2018/08/13/公開シンポジウム「慢性の痛みとどう向き合うか/」>
- 2) 研究代表 佐藤幹代：「慢性の痛みの語り」ウェブ構築, 平成26年度～29年度科学研究費補助金（基盤研究B）によるアウトリーチ, 2018年11月公開, URL <https://www.dipex-j.org/chronic-pain/>.
- 3) 佐藤幹代：「慢性の痛みの語り」データベース構築, 疼痛ゼロの日シンポジウム2018. 第5回難治性疼痛システム研究会, 「慢性の痛みに向き合う：患者の役割, 医療の役割, 社会の枠割」, 名古屋. 2018.11.10（ぐっどばいペイン, NPOペイン・ヘルスケアネットワーク トリガーポイント研究会）
- 4) 長谷川直人：論文投稿と査読対応の実際 学会誌に投稿した経験から（量的研究）. 第11回JANSセミナー「初めての論文投稿と査読対応の実際」, 東京. 2018年3月10日.
- 5) 長谷川直人：地域包括ケア時代の糖尿病療養支援—コンコーダンスとセルフマネジメントの実践への応用—. 平成30年度とちぎ糖尿病医療スタッフの会, 栃木県. 2018年10月20日.
- 6) 古島幸江：手術看護の成果を可視化しよう！. HOSPEX Japan2018カンファレンス, 東京都. 2018年11月22日.
- 7) 古島幸江：IVR看護師の臨床の『知』～250日間にわたる観察から～. 第18回IVR看護研究会教育講演, 東京. 2018年3月10日.
- 8) 古島幸江：手術室看護師セミナー～マニュアルにない手術室の中での極意とは～. ネクストイノベーションパートナーズ株式会社, 東京都. 2018年5月19日.
- 9) 長江弘子, 渡邊賢治：訪問看護実践と成果のつながりを可視化するために 日本語版オマハシステムの開発に向けて（第17回）日本語版オマハシステムBasicセミナーを開催して, 訪問看護と介護, 23(1); 62-67, 2018
- 10) 加藤由香, 津村明美, 大鷲しのぶ, 益子直紀, 小林幹紘, 藤巻郁朗, 東樹京子：AYA世代がん患者・経験者のピアサポートを考える！～ピアの力が活きた場面～. 第32回日本がん看護学会学術集会, 千葉県. 2018年2月3日. (日本がん看護学会誌 32巻；281, 2018)
- 11) 安田弘子, 萩原英子, 藤巻郁朗, 堀越政孝, 益子直紀, 橋本晴美, 浅見優子：看護基礎教育における学生が抱くがんに対するイメージと影響要因（第4報）テキストマイニングによる学生のがんイメージ分析. 第32回日本がん看護学会学術集会, 千葉県. 2018年2月3日. (日本がん看護学会誌 32巻；272, 2018)
- 12) 藤巻郁朗, 黒田未来：大腿骨近位端骨折患者に対する看護師によるリハビリテーションに関する文献検討. 日本運動器看護学会第18回学術集会, 神奈川県. 2018年6月9日. (第18回日本運動器看護学会学術集会プログラム・抄録集；29, 2018)
- 13) 藤巻郁朗, 古島幸江, 中野真理子, 中村美鈴：e-learningを活用した学習活動からみたへき地で生活する看護職に対する学習支援の検討—第2報—. 第13回日本ルーラルナーシング看護学会学術集会, 香川県. 2018年11月3日. (日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会抄録集；43, 2018)
- 14) 中野真理子, 中村美鈴, 古島幸江, 藤巻郁朗：地域ケアスキル・トレーニングプログラム高齢者の急変時における看護実践演習の教育効果の検討—第2報—. 第13回日本ルーラルナーシング看護学会学術集会, 香川県. 2018年11月3日. (日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会抄録集；75, 2018)

老年看護学

(1) 論文

- 1) Kuwayama T, Hamabata K, Kamesaki T, Koike S, Kotani K : Research on Home Care Nursing in Japan Using Geographic Information Systems A Literature Review, Japanese clinical medicine, 9 : 1-5, 2018.
- 2) 浜端賢次, 小谷和彦 : 医介連携の現状と課題に関する文献検討, 自治医科大学紀要, 40 : 53-63, 2018.
- 3) 浜端賢次 : 老年看護学の立場から見た介護職の人材育成, 地域ケアリング, 20(4)98-100, 2018.
- 4) 清水みどり : 摂食嚥下機能低下を認める特別養護老人ホーム入所者の経口摂取支援のための看護職役割行動指標の開発. (学位論文) p1-104, 2018年3月.

(2) 学会発表

- 1) 青木さぎ里, 土谷ちひろ, 江角伸吾, 島田裕子, 関山友子, 浜端賢次, 塚本友栄, 春山早苗 : 生活支援コーディネーター・行政・大学の協働による住民の支え合い体制構築を促進する方法の検討, 自治医科大学シンポジウム, 栃木県下野市, 2018年9月5日. (第17回自治医科大学シンポジウム ; 58, 2018.)
- 2) 川上勝, 陣立良太 : ネットワーク機能を備えた微弱無線機器による狭域情報配信システムの提案, 日本災害看護学会 第20回年次大会, 兵庫県神戸市, 2018年8月10日. (日本災害看護学会 第20回年次大会講演集 20巻(1号);144, 2018.)
- 3) 陣立良太, 川上勝 : 避難所のゴミを利用した生活改善の可能性を体験してみませんか? -使用済みペットボトル等の再利用方法の提案-, 日本災害看護学会 第20回年次大会, 兵庫県神戸市, 2018年8月10日. (日本災害看護学会 第20回年次大会講演集 20巻 (1号) ;118-119, 2018.)
- 4) 平尾温司, 川上勝, 田村敦子, 福田順子, 村上礼子, 春山早苗 : プラスティネーションを用いたシミュレータ素材の作成, 第6回日本シミュレーション医療教育学会, 岐阜県岐阜市, 2018年6月2日. (日本シミュレーション医療教育

学会誌 6巻 ; 132, 2018.)

- 5) 清水みどり, 吉本照子, 杉田由加里 : 摂食嚥下機能低下を認める特養入所者の経口摂取支援のための看護職役割行動指標の検証. 日本老年看護学会第23回学術集会, 久留米, 2018年6月24日, 日本老年看護学会第23回学術集会抄録集 p124, 2018.

(3) その他

- 1) 里光やよい, 本田芳香, 浜端賢次, 清水みどり, 湯山美杉, 岡野朋子, 大澤弘子 : 模擬患者を用いたアセスメント演習に参加した地域で活動する看護師の自己評価. 自治医科大学看護学ジャーナル, 15巻, p39, 2018年3月.
- 2) 川上勝, 清水みどり, 岡野朋子, 戸田浩司, 塚本浩章, 若林宜江 : ラピッドプロトタイプングによる口腔ケア用具の開発. 自治医科大学看護学ジャーナル, 15巻, p32, 2018年3月.

看護技術開発学

(1) 論文

- 1) 八木(佐伯)街子：看護師特定行為研修でのシミュレーション実践例の紹介. 日本臨床麻酔学会誌, 38(1) : 83-87, 2018.
- 2) 浅田義和, 八木(佐伯)街子：Configurable Reportsプラグインを用いたMoodleの学習分析および教学IRへの活用展望. 日本教育工学会論文誌, 42(suppl) : 121-124, 2018.
- 3) 清水玲子, 中村美鈴, 平山美紀, 水野照美, 山本洋子, 内海香子, 村上礼子：救急医療において延命治療の代理意思決定を行った家族の体験. 関西国際大学研究紀要, 19, 45-55, 2018.
- 4) 里光やよい, 村上礼子：特定行為研修を修了した看護師による教材の評価－気管カニューレ交換に焦点をあてて－. 医療職の能力開発, Vol.6(1), 23-30, 2018.

(2) 学会発表

- 1) Machiko Saeki Yagi, Mitsue Suzuki, Reiko Murakami: Effect of role play simulation training for advance practice nurses to expand roles assessed from portfolios. the 18th Annual International Meeting on Simulation in Healthcare, Los Angeles, 2018年1月13日.
(Simulation in Healthcare, 12 (6) ; e19, 2017)
- 2) Machiko Saeki Yagi, Tetsuro Hada, Yoshikazu Asada: E-learning for patient safety based on Medical Near-Miss/Adverse Event Information. The Association for Medical Education in Europe (AMEE) 2018, Basel, 2018年8月26日.
- 3) 八木(佐伯)街子, 鈴木美津枝, 村上礼子：特定行為に係る看護師の研修でのeポートフォリオの効果. 医学教育学会, 東京. 2018年8月3日.
- 4) 八木(佐伯)街子, 鈴木美津枝, 村上礼子, 都竹茂樹, 中野裕司, 鈴木克明：看護師の遠隔学習を支援するオリエンテーションの設計. 日本教育工学会第34回全国大会, 仙台. 2018年9月28日.
- 5) 八木(佐伯)街子, 波田哲朗, 浅田義和：ストーリー型医療安全教材の開発と形成的評価－中心静脈カテーテル抜去に関する教材の評価－. 第13回医療の質・安全学会学術集会, 名古屋.

屋. 2018年11月24日.

- 6) 八木(佐伯)街子, 村上礼子, 鈴木美津枝, 埴田真彰, 岡野朋子, 春山早苗：特定行為に係る看護師の研修の受講ニーズ調査－施設規模による傾向の違い－. 第38回日本看護科学学会学術集会, 松山. 2018年12月16日.
- 7) 長谷川直人, 岡田健太, 馬場千恵子, 村上礼子, 石橋俊：看護師特定行為研修「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」講義科目内容の妥当性および実習科目との連動性の検討. 糖尿病, 61Suppl, S-412, 2018.
- 8) 里光やよい, 金子美美恵, 神山淳子, 村上礼子, 八木街子, 鈴木美津枝, 小畑美加子, 下田典子：特定行為を修了した看護師による教材の評価－気管カニューレ交換に焦点をあてて－. 第10回日本医療教授システム学会総会, 東京. 2018年3月2日. 第10回日本医療教授システム学会総会プログラム・抄録集 : B-15, 2018.

(3) 著書・総説

- 1) 八木街子：訪問リハビリテーションアドバンスブック（辰巳昌嵩編）. 株式会社メジカルビュー（東京）, 32-25, 2018.

(4) その他

- 1) 八木街子[佐伯], 村上礼子, 鈴木美津枝, 讚井將満, 石川鎮清, 春山早苗, 簗田清次：特定行為にかかわる看護師の研修の受講ニーズ調査 施設規模による傾向の違い. 看護展望, 43 (11), 1094-1101, 2019.
- 2) 永井良三, 春山早苗, 村上礼子, 釜薙敏, 溝上祐子, 太田秀樹, 菅野正博, 矢野諭, 鈴木龍太, 江村正, 藤谷美保, 大塚真理子, 中村剛史, 関山友子, 八木街子, 江角伸吾, 鈴木美津枝：平成29年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金 地域医療基盤開発す真研究事業「看護師の特定行為研修の効果および評価に関する研究」総括・分担研究報告書.
- 3) 八木(佐伯)街子, 村上礼子, 鈴木美津枝, 讚井將満, 石川鎮清, 春山早苗, 簗田清次：特定行為に関わる看護師の研修の受講ニーズ調査－施設規模による傾向の違い－. 看護展望, 43 (11) ; 1094-1101, 2018.

資 料

2018年度（平成30年度）看護学部学年暦

○前学期

4月2日（月）	ガイダンス（2・3・4年）
4月3日（火）	授業開始（2・3・4年）
4月5日（木）	オリエンテーション（1年）
4月6日（金）	入学式、オリエンテーション（1年）
4月9日（月）	授業開始（1年）
4月28日（土）～5月6日（日）	春季休業
5月7日（月）～6月1日（金）	}
6月11日（月）～7月20日（金）	
5月14日（月）	創立記念日
6月4日（月）～6月8日（金）	対象の理解実習（1年）
7月12日（木）～7月17日（火）	定期試験（4年）
7月23日（月）～8月3日（金）	総合実習（4年）
7月24日（火）～7月31日（火）	定期試験（1・2年）
8月8日（水）～9月24日（月）	夏季休業
9月3日（月）～9月5日（水）	再試験

○後学期

9月25日（火）	授業開始
8月27日（月）～11月2日（金）	助産学実習（4年）
9月20日（木）～10月4日（木）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
10月5日（金）～10月7日（日）	学園祭
10月9日（火）～10月22日（月）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
11月19日（月）～12月21日（金）	}
1月4日（金）～2月15日（金）	
12月22日（土）～1月3日（木）	冬季休業
2月4日（月）～2月8日（金）	定期試験（1・2年）
2月22日（金）～2月25日（月）	再試験
3月1日（金）	卒業式
3月16日（土）～	学年末休業

自治医科大学看護学部の概況（平成31年3月31日現在）

1. 教員数	46名
2. 学生数	422名
4年生（平成27年4月1日入学）	108名
3年生（平成28年4月1日入学）	104名
2年生（平成29年4月1日入学）	105名
1年生（平成30年4月1日入学）	105名

看護学部教職員名簿

1. 教員

職名	氏名	主要担当科目
学部長	春山早苗	地域看護学
教授	大塚公一	看護基礎科学
教授	小原泉	基礎看護学
教授	里光やよい	基礎看護学
教授	塚本友栄	地域看護学
教授	永井優子	精神看護学
教授	成田伸子	母性看護学
教授	野々山未希	母性看護学
教授	半澤節子	精神看護学
教授	本田芳香	基礎看護学
教授	横山由美	小児看護学
教授	村上市礼子	小児看護学
(兼)		
准教授	川上勝	老年看護学
准教授	倉科智行	看護基礎科学
准教授	佐藤幹	看護学
准教授	角川志穂	母性看護学
准教授	田川敦子	小児看護学
准教授	長谷川直人	成人看護学
准教授	浜端賢次	老年看護学
准教授	平尾温司	看護基礎科学
講師	青木さぎ	地域看護学
講師	石井慎一郎	精神看護学
講師	江角伸吾	地域看護学
講師	鹿野浩子	看護基礎科学
講師	島田裕子	地域看護学
講師	清水みどり	老年看護学
講師	関山友子	看護基礎科学
講師	中野真理子	成人看護学
講師	福田順子	基礎看護学
講師	藤巻郁朗	成人看護学
講師	古島幸江	成人看護学
講師	望月明見	母性看護学
講師	八木街容子	基礎看護学
助教	石北守美	基礎看護学
助教	小西克恵	母性看護学
助教	佐々木彩加	成人看護学
助教	佐藤貴紀	精神看護学
助教	鈴木美津枝	総合科目担当
助教	高山温子	基礎看護学
助教	土谷ちひろ	地域看護学
助教	手塚園江	小児看護学
助教	富川明子	精神看護学
助教	二宮美由紀	母性看護学
助教	湯山美杉	基礎看護学
助教	横山絢香	地域看護学
助教	渡邊賢治	成人看護学

2. 事務部

職名	氏名
大学事務部長	吉野和久
大学事務副部長 (看護学部担当)	若林博

(看護総務課)

職名	氏名
課長	大山純子
課長補佐(兼)係長	飯村久恵
主任主事	福澤弘美
主任主事	直井賢治

(看護学務課)

職名	氏名
課長	安島幸子
参事	湯浅芳恵
係長	松本恵美子
主事	渡辺慎吾
主事	野口大輔
主事	菅原萌々子
嘱託	高槻祥子
嘱託	中村里子

※平成30年4月1日～平成31年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

2018年度（平成30年度）大学院看護学研究科学年曆

○前期

4月5日（木）	入学式 オリエンテーション、授業開始
4月13日（金）	履修計画の提出締切
5月14日（月）	創立記念日

○後期

10月1日（月）	授業開始
11月5日（月）	研究構想発表会（前期課程）
12月3日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切（後期課程）
12月17日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切（前期課程）
1月7日（月）	論文審査・口頭試問（後期課程）
1月7日（月）～1月30日（水）	論文審査期間（後期課程）
1月21日（月）～1月23日（水）	論文審査・口頭試問（前期課程）
1月21日（月）～1月30日（水）	論文審査期間（前期課程）
2月12日（火）	学位論文発表会（最終試験）
2月28日（木）	学位論文（保存用）最終締切
3月20日（水）	修了式（学位授与式）

大学院看護学研究科の概況（平成31年3月31日現在）

1. 教員数	17名
2. 学生数	24名
2年生（長期履修制度利用者）※博士前期	7（4）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士前期	9（2）名
3年生（長期履修制度利用者）※博士後期	6（5）名
2年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（2）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（2）名

大学院看護学研究科教職員名簿

1. 教員

職名	氏名	主要担当科目
研究科長	春山早苗	地域看護管理学
教授	大塚公一郎	共通科目
教授	小原泉	がん看護学
教授	里光やよい	看護技術開発学
教授	塚本友栄	地域看護管理学
教授	永井優子	精神看護学
教授	成田伸	母性看護学
教授	野々山未希子	母性看護学
教授	半澤節子	精神看護学
教授	本田芳香	がん看護学
教授	横山由美子	小児看護学
教授	村上礼子	看護技術開発学
(兼)		
准教授	川上勝	老年看護管理学
准教授	佐藤幹代	クリティカルケア看護学
准教授	角川志穂	母性看護学
准教授	浜端賢次	老年看護管理学
講師	福田順子	看護技術開発学
講師	八木街子	看護技術開発学

※平成30年4月1日～平成31年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

2. 事務部

職名	氏名
大学事務部長	吉野和久
大学事務副部長 (看護学部担当)	若林博

(看護総務課)

職名	氏名
課長	大山純子
課長補佐(兼)係長	飯村久恵
主任主事	福澤弘美
主任主事	直井賢治

(看護学務課)

職名	氏名
課長	安島幸子
参事	湯浅芳恵
係長	松本恵美子
主事	渡辺慎吾
主事	野口大輔
主事	菅原萌々子
嘱託	高槻祥子
嘱託	中村里子

編集後記

この度の年報が皆様のお手元に届けられた際には、是非全文にお目通しいただきたいと思えます。1年間の職員の皆様の汗と涙の結晶がこの年報だと思うからです。この一年間、それぞれどんな教育・研究・社会貢献活動に注力してこられたのか、そんなことを振り返り、頑張ったご自分を褒める時間を与えてくれることと思えます。それと同時に、一年間の学部の動きを整理してわかりやすく伝えてくれる詳細なオリエンテーション資料にもなり得るものだと、改めて感じています。次年度新たに就任される教職員の方々には、是非この年報をまず熟読することをお勧めしたいと思えます。

年間の多くの業務や活動の合間に、年報の原稿をまとめ上げる作業は、大変な手間を要することですが、このように活動をまとめていくことも、本学看護学部の歴史を創っていく大事な作業だと思います。2年後には学部創立20周年を迎えると聞いています。社会の要請に応えるべく創立された自治医科大学の理念・使命と誇りを守りつつ、未だ歴史が浅く複雑系である看護学という学問をより深め、地域に根差した看護の実践と教育、研究の発展に本学の皆様が益々貢献されることを願い、その一員となる編集委員として、今後も努力する所存です。

（令和2年3月 編集委員会 副委員長 上野 まり）

編集委員会

自治医科大学看護学部

委員長 村上 礼子

副委員長 上野 まり

委員 里光やよい

委員 田村 敦子

委員 鹿野 浩子

委員 八木 街子

編集担当 看護総務課

吉田 渉

自治医科大学看護学部年報（第17号）
自治医科大学大学院看護学研究科年報（第13号）

令和2年3月31日発行

発行者	学部長（研究科長） 春山早苗
編集責任者	編集委員会委員長 村上礼子
発行所	自治医科大学看護学部 栃木県下野市薬師寺3311-159 電話 0285 (58) 7409
印刷所	(株)松井ピ・テ・オ・印刷 栃木県宇都宮市陽東5-9-21 電話 028 (662) 2511(代)